

# 高知県教育・保育の 質向上ガイドライン (改訂版)



令和4年3月改訂  
高知県教育委員会事務局 幼保支援課

# はじめに

日ごろより本県の小学校就学前の教育・保育の振興にご尽力いただいておりますことに、心より感謝申し上げます。

さて、平成30年4月に施行された保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領では、変化の激しい未来社会を「生きる力」として、必要な資質・能力が示されました。幼児教育においては、生きて働く「知識・技能の基礎」、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等の基礎」、自ら学び、実際に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」です。特に、乳幼児期は、その発達の特性から、一人一人に応じた、遊びを中心とした総合的な指導を通して、改訂（定）のキーワードにもなっている「主体的・対話的で深い学び」を実現することが求められています。

いうまでもなく、乳幼児期は、生涯にわたる生きる力の基礎が培われる重要な時期です。保育所・幼稚園等では、子ども一人一人が直接的・間接的な体験を通して、自分らしさを発揮しながら、人と関わる力や思考力、感性や表現する力などを育てていく教育・保育の実践が求められています。

こうした中、高知県では、令和2年度からスタートしました「第2期教育等の振興に関する施策の大綱」と大綱に基づく具体的な事業計画を定めた「第3期高知県教育振興基本計画」において、6つの基本方針の一つに「就学前教育の充実」を位置付け、どこにいても質の高い教育及び保育を受けることができる環境作りや、小学校就学前の教育と小学校教育の円滑な接続の取組を一層、充実することとしています。

これらの取組を推進し、保育所・幼稚園・認定こども園等の保育者の皆さんが、よりよい実践を進めていただけるよう、このたび、高知県幼保推進協議会の委員の皆様のご意見をいただきながら、保育者の求められる資質・指導力や保護者支援の在り方などを示した本ガイドラインを見直し・充実いたしました。ぜひ、それぞれの地域や園の実情に合わせて有効にご活用いただければ幸いです。

最後に、改訂にあたってご協力いただきました高知県幼保推進協議会の委員の皆様、ご指導頂きました先生方に心よりお礼申し上げます。

令和4年3月

高知県教育委員会事務局幼保支援課長  
田中 健

# ◆◆◆ もくじ ◆◆◆

## プロフィール

### 第1章 教育・保育の質向上ガイドラインの策定にあたって

1 乳幼児期の教育・保育の役割	1
2 高知県の子どもたちを取り巻く状況及び取組	3
(1) 知の分野について	4
(2) 徳の分野について	5
(3) 体の分野について	6
(4) 子どもたちを取り巻く厳しい環境について	8
(5) 就学前の教育・保育の状況	9
3 ガイドラインの必要性	11
4 ガイドラインの位置付け	12

### 第2章 乳幼児期の発達の特徴に合わせた教育及び保育と保育者に求められる資質・指導力

1 保育者として身に付けたい資質・指導力	13
2 乳幼児期における教育及び保育	15
(1) 乳幼児期にふさわしい生活を展開するために	16
(2) 一人一人の発達の特徴に応じた指導を行うために	16
(3) 乳幼児理解に基づく環境の構成を行うために	16
3 保育者としての資質・指導力を高めていくために	18
(1) 実践の振り返りから自己課題発見へ	18
(2) 自己課題発見シート	19

### 第3章 各キャリアステージに求められる資質・指導力

1 キャリアステージにおける保育者育成指標	23
2 キャリアステージにおける資質・指導力	26
(1) 基礎ステージ	26
(2) 中堅ステージ	27
(3) 管理職ステージ	27
(4) キャリアステージにおける資質・指導力チェックシート	28

### 第4章 教育・保育の質向上ガイドラインの活用方法

1 個人の資質・指導力向上に向けて	38
2 組織力向上に向けて	38
3 シート1・2の活用におけるQ&A	40

## 資料

【シート1】自己課題発見シート	45
【シート2】キャリアステージにおける資質・指導力チェックシート	49
【シート3】自己目標設定シート	76
【シート4】自己目標共有シート	77



## ★大切にしたいこと

ガイドライン活用の出発点は、実際の子どもの姿を通して、一人一人の思いや今育ちつつあることなどを、保育者が理解しようとすることにあります。子どもが何に興味をもち、どのようなことを感じているのか、子どもたちの遊びがもっと充実するためにどうしたらよいのかなど、「子どもにとってどうなのか」という視点から、自分たちの保育の在り方を考えてみるのが何よりも大切です。

また、日々の保育に充実感が感じられ、保育がより楽しくなるためにも、このガイドラインは「チェックをして終わり」というものではありません。振り返りをしながら得た保育の改善・充実の手掛かりや手立てを、実際に次の保育に生かすことが大切です。また、取組を継続し積み重ねていくなかで、自分の保育のよさや今後取り組んでいきたいことを意識して、「次はこうしてみよう」という意欲をもてる足掛かりにもなるのではないのでしょうか。



## ★管理職の皆さんへ

活用にあたっては、無理なく継続できること、一人一人が主体的に取り組めることが重要です。各保育所・幼稚園等の現状に合わせて、実行可能なことから段階的に進めていくなど、保育者にとって過度な負担とならないよう「効率的に実施する」という観点をもちながら、上手に活用することが大切です。

そして、各シートを活用し教職員同士で意見交換等を行う場合は、話し合いの目的や互いを認め合う基本姿勢を明確に示しながら、各教職員のモチ味やよいところに目を向け、それを他者にも伝えることを率先して意識し、互いを尊重する職場の雰囲気大切に取組んでいきましょう。



例えば、ミドルリーダーと連携して一人一人の保育者の思いを把握し、課題となっていることの要因を整理しながら、チェックシートにある「具体的な行動例」などを、日々の実践を捉えるためのヒントにして、本人の気づきやアイデアを引き出し、イメージを明確にしていくことを支えていってください。

# 第1章 教育・保育の質向上ガイドラインの策定にあたって

## 1 乳幼児期の教育・保育の役割

乳幼児期は、保護者や周囲の人々との関わりの中で守られているという安心感や信頼感、それらからくる情緒の安定に支えられて、日常の生活や遊びの中で基本的な生活習慣を身に付け、規範意識の芽生え、探求心や好奇心、豊かな創造力が育まれるなど、生涯にわたる人格形成の基礎を培うための重要な時期です。

この時期に質の高い教育及び保育を受けることは、義務教育及びその後の学校教育への意欲や社会で生きていく力の基礎を培うことにつながり、子どもの成長に大きな影響があるといわれています。

このような重要な時期に、多くの子どもは一日の生活の大半を保育所・幼稚園・認定こども園等（以下「保育所・幼稚園等」という。）で過ごしていることから、保育所・幼稚園等では、

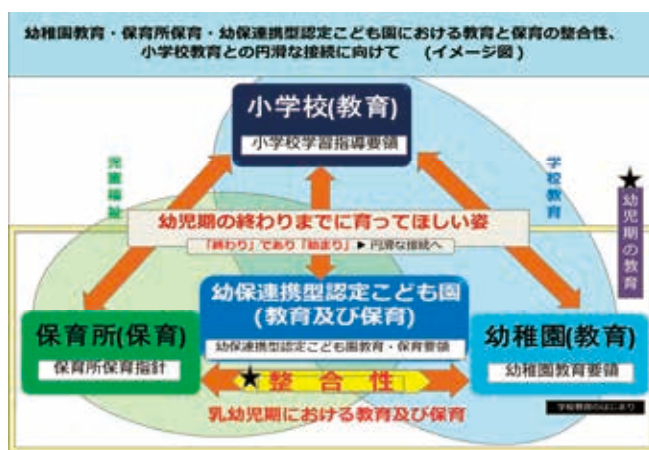
- ◆居心地がよく安全・安心な環境を整える
- ◆それぞれの年齢や個々の発達に応じて活動ができるよう適切な教育及び保育を行う
- ◆子どもの健やかな成長を保障していく

ことが必要となります。

したがって、保育所・幼稚園等では、子どもが様々な人と出会い、関わり、心を通わせながら成長していくために、

- ◆乳幼児期にふさわしい生活の場を豊かに作りあげていく役割や機能を大切にする
- ◆0歳から就学前までの子どもの成長を保障するために、養護と教育を一体的に展開する
- ◆子どもの傍らに在る保育士や幼稚園教諭・保育教諭等（以下「保育者」という。）が子どもの心をしっかり受け止める

ことが求められます。そして、それぞれの子どもが保育所・幼稚園等を巣立っていくときの姿を見据えた教育及び保育を行っていくことが大切です。



(図1) 改訂幼稚園教育要領 中央説明会資料より (H30)



現在、国では幼児期から高等学校卒業までを見通し、生活や学習に必要な資質・能力が一貫して育まれるよう整理し、学校段階等間のつながりを示しました。幼児教育段階では施設類型を問わずに共通に告示されています。(図1)

また、その資質・能力が育まれている5歳児後半の子どもの姿として「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を明確化し、小学校以上の教職員や地域・家庭等との連携の手掛かりとして示されています。(図2)



(図2) 中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会幼児教育部会資料 (H28.10.31)

これらは、保育者や大人から教えられて育つものではありません。**小学校以降における教科教育の単純な前倒しにならないよう十分に留意しつつ、子どもの発達や学びの連続性を踏まえた教育及び保育が必要です。**

また、この時期には自己の感情や行動のコントロール、粘り強さや自尊心等といった、いわゆる非認知的能力を育むことが望まれます。このような子どもの成長を助け、乳幼児期の教育及び保育を担える保育者が求められています。



保育者は、資格や免許を有していても、それだけで十分な資質があるとはいえません。乳幼児期の子どもの成長に関わり、深い影響を与える保育者は、常に自らの実践を振り返り、**研鑽を重ねてその専門性を磨きつつ、専門職としての職責を果たすことが求められています。**自ら学び続けることによって、専門職としての保育者の資質を高めることができます。



## 2 高知県の子どもたちを取り巻く状況及び取組

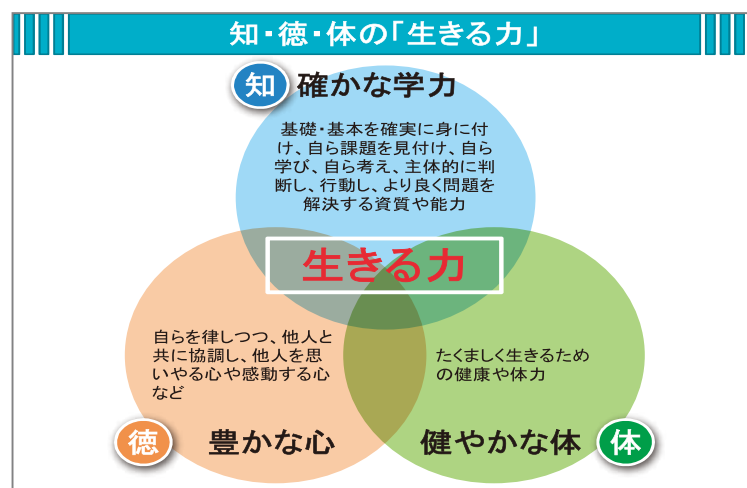
将来を予測することが困難な時代を前に、子どもたちが現在と未来に向けて自らの人生を拓いていけるよう、保育所・幼稚園等では、子ども一人一人の可能性を伸ばし、新しい時代にふさわしい力を確実に育成していくことが求められています。

また、平成 27 年度から「子ども・子育て支援新制度」が実施され、質の高い幼児教育を提供することが一層求められています。

本県では、平成 2 年から、全国に約 15 年先行する形で、出生数が死亡数を下回る人口の自然減の状態が続いています。また、転出が転入を上回る人口の社会減は、平成 13 年から 14 年連続であり、特に、若者の県外への転出が多くなっており、少子高齢化が急速に進んでいます。社会では技術の進展による情報の氾濫、国際化や社会経済情勢等の変化なども激しくなっています。子どもたちは、このような変化が大きい社会を生きるため、必要な能力を身に付けることが重要となっています。

そのため、平成 28 年 3 月に本県の「教育等の振興に関する施策の大綱」を策定し、**確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和のとれた「生きる力」**を、家庭や地域、学校等がそれぞれの役割や責任を意識しながら力を合わせ、社会全体で子どもに身に付けさせる必要があると位置付けました。そして、具体的に実践するために第 3 期高知県教育振興基本計画を策定しました。

グローバル化や情報化、少子高齢化が急速に進むなど、社会・経済が激しく変化する時代に生まれた子どもたちが、これからの時代を自らの力で力強く生き抜き、自らの夢に向かって羽ばたけるようにするためには、知・徳・体の調和のとれた生きる力を育てていくことが必要です。(図 3)



(図 3) 中央教育審議会資料 (H28.12.21)

小学校以降の学校教育では、このような知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育むことを目指しています。

そして、乳幼児期の教育及び保育では、こうした「生きる力」の基礎を培う重要な時代を担っており、小学校以降の学校教育における一貫した支援を行うためにも、大変重要なものとなっています。

## (1) 知の分野について

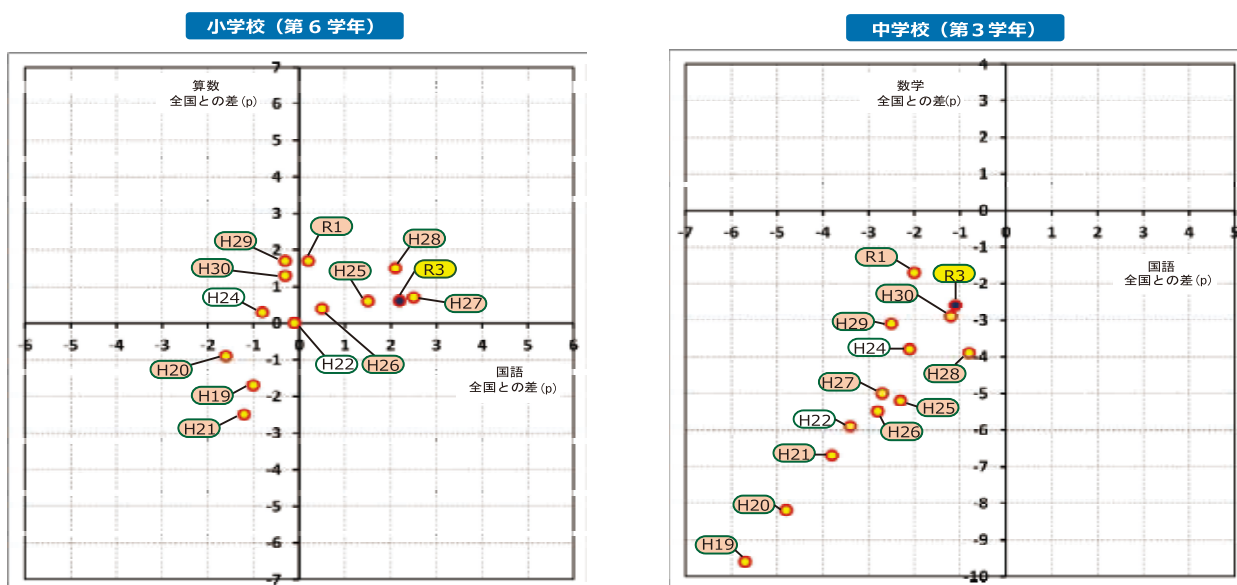
「確かな学力」を育むため、本県では、「小学校の学力は全国上位に、中学校は全国平均まで引き上げる」ことを目標に掲げ、様々な取組を進めてきました。

その結果、小・中学校の学力の状況は、全国学力・学習状況調査が始まった平成19年から改善傾向にあります。

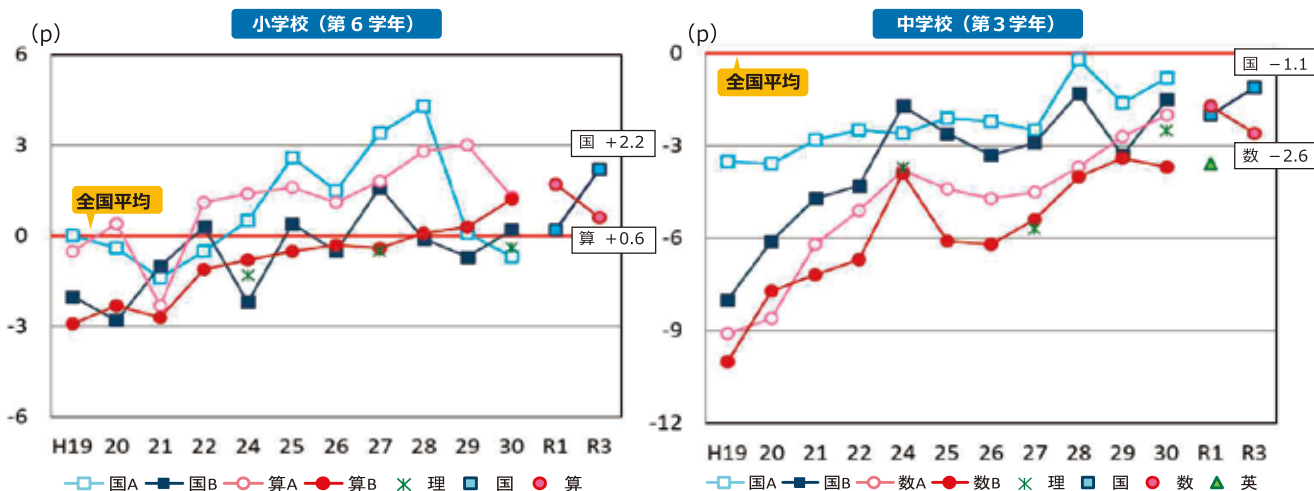
第2期教育大綱に掲げる「小学校の学力は全国上位を維持し、さらに上位を目指す。中学校の学力は全国平均以上に引き上げる」という測定指標を小学校は達成し、中学校は着実に近づきつつあります。

### ■全国学力・学習状況調査結果(H19～R3年度)

#### ◇本県と全国の平均正答率の差



#### ◇本県と全国の平均正答率の差（教科、問題別）



※平成22・24年度は抽出調査、平成23年度は東日本大震災の影響により、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により全国調査未実施  
 ※令和元年度からは、A問題（主として「知識」に関する問題）とB問題（主として「活用」に関する問題）を一体的に問う調査に変更



## (2) 徳の分野について

「豊かな人間性」を育むため、本県では、暴力行為や不登校等の状況について、全国平均まで改善することを目標に、キャリア教育や道徳教育をはじめ、子どもに内在する力や可能性を引き出すことに力点を置いた生徒指導を推進してきました。

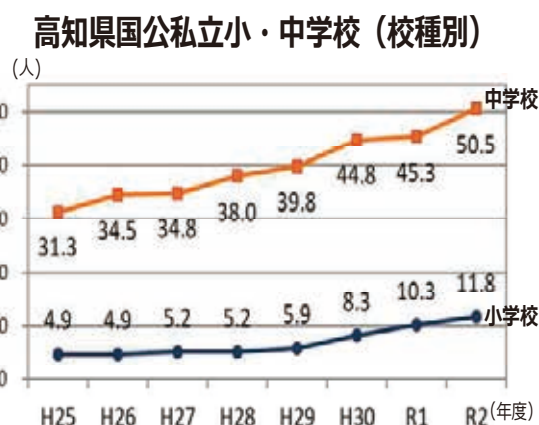
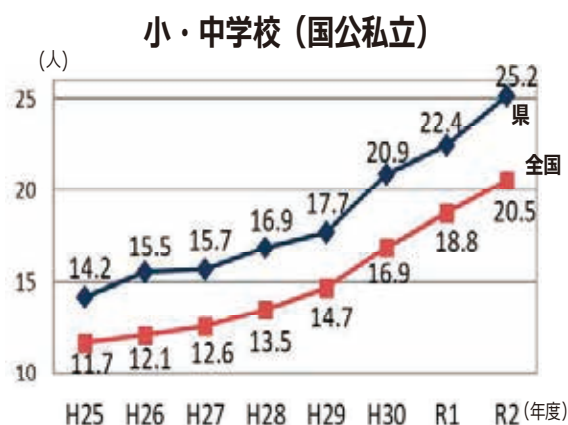
令和2年度の全国調査の結果を見ると、暴力行為や不登校、いじめが増加傾向にあるなど、依然として厳しい状況が続いています。

暴力行為は、全国平均を上回る状況で推移し、特に小学校においても急増しており、暴力行為の低年齢化が危惧されています。不登校は、学年が上がるにつれて増加する状況が続いており、特に中学校1年生で急増する傾向にあります。

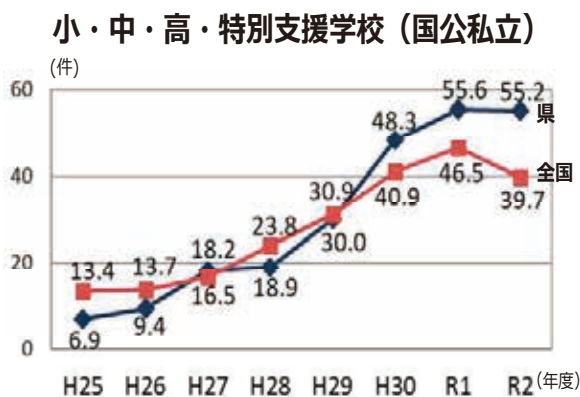
いじめの認知件数は、平成24年度に他県で発生したいじめ事件をきっかけに、いじめに対する教職員の危機感が高まってきたことで増加し、その後は一定の水準で推移しています。

### ■ 児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸課題に関する調査結果（H24～R2年度）

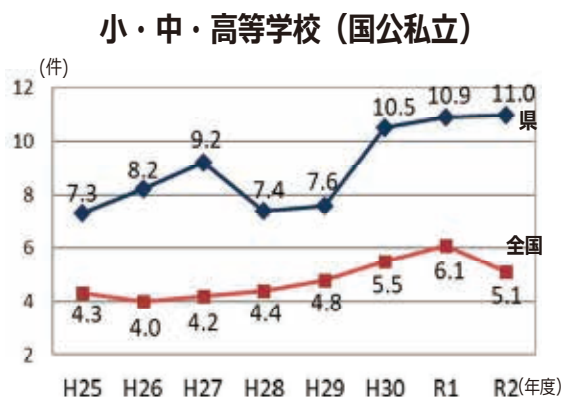
◇不登校 ※数値は1,000人あたりの不登校児童生徒数



◇いじめ ※数値は1,000人あたりの認知件数



◇暴力行為 ※数値は1,000人あたりの発生件数



### (3) 体の分野について

小・中学校の体力・運動能力については、平成20年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果において、男女ともに全国最低水準でしたが、その後は改善傾向にあります。

近年では、小・中学校、男女ともにほぼ全国水準に達したものの、継続的に全国平均を上回るまでには至っていません。

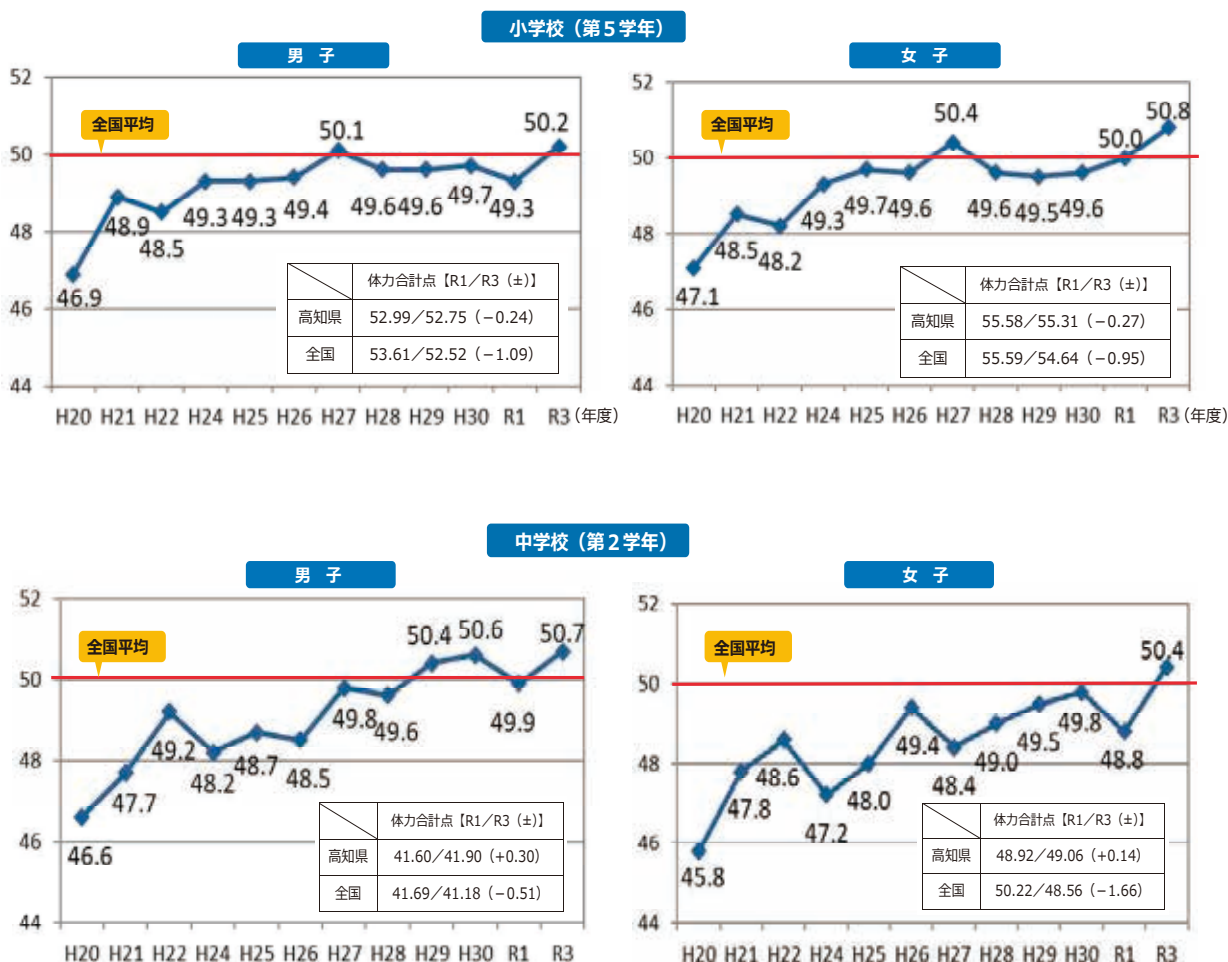
また、小・中学校ともに1週間の総運動時間が全国と比べて少ないなど、運動習慣が十分に定着していない状況がみられます。特に、中学校女子の運動離れが課題となっています。

#### ■全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果（H20～R3年度）

##### ◇体力合計点（8種目の実技の総合点）の推移

※平成23年度は東日本大震災の影響により、R2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により全国調査未実施

※数値 表：体力合計点 グラフ：T得点（全国平均=50）



こうした小学校以降の現状と課題は、一見すると就学前を担っている私たちには関係がないように思われますが、実は保育所・幼稚園等で日々行っている教育及び保育と深くつながったところにあります。

**乳幼児期の体験等を通して培われた子ども一人一人の「見方・考え方」は、小学校以降における各教科等の「見方・考え方」の基礎になるとともに、これらを統合化することの基礎となります。乳幼児期における体験を通して育まれた「見方・考え方」が、小学校以降の教科等の学習を支えているのです。**

この下支えとなる「見方・考え方」を育む質の高い教育及び保育は、子ども一人一人の家庭環境や生活経験を大切に、それぞれの子どもが親しんだ具体的なものを手掛かりにして、イメージを形成し、物事を感じ取ったり気付いたりできるようにしています。**全ての子どもが身近な環境に自ら関わり、心動かされる体験を重ね、遊びが発展し生活が広がる中で、子ども一人一人の違いが受け止められながら「見方・考え方」が培われていきます。**



乳幼児期における豊かで多様な体験等が、小学校以降の「生きる力」である「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」につながるとともに、社会に羽ばたいたその後も、子ども一人一人を支えていくであろう「生きる力」の基礎を培っています。保育者一人一人が子どもたちとともに創り出している教育及び保育の営みが、子ども一人一人の「生きる力」の基礎につながっているのです。



#### (4) 子どもたちを取り巻く厳しい環境について

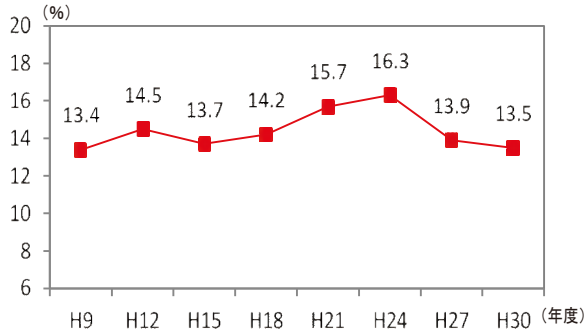
日本における子どもの貧困率は、平成30年には13.5%であり、子どもの約7人に1人の子どもが貧困の状態にあるものと考えられます。生活保護被保護率や、就学援助率、ひとり親世帯比率等が全国平均を大きく上回る本県では、家庭が厳しい経済状況にある子どもの割合はさらに高いことが推測されます。(※ひとり親家庭の貧困率は子どもがいる現役世帯全体の貧困率の約4倍と厳しい状況にあります。)

こうした家庭の厳しい経済状況や生活環境等を背景として、県内では多くの子どもたちが困難な状況に直面しており、特に乳幼児期の子どもは、自らを守る術がなく、その影響を強く受けているといえます。

※子どもの貧困率

17歳以下の子ども全体に占める、貧困線（等価可処分所得（世帯の可処分所得を世帯人員の平方根で割って調整した所得）の中央値の半分の額）に満たない17歳以下の子どもの割合

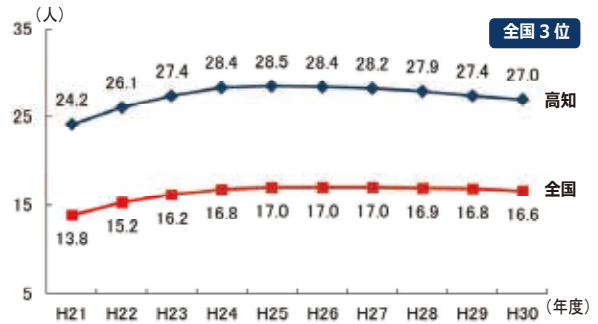
■子どもの貧困率※の推移（全国平均）



※17歳以下の子供全体に占める、貧困線（等価可処分所得（世帯の可処分所得を世帯人員の平方根で割って調整した所得）の中央値の半分の額）に満たない17歳以下の子どもの割合

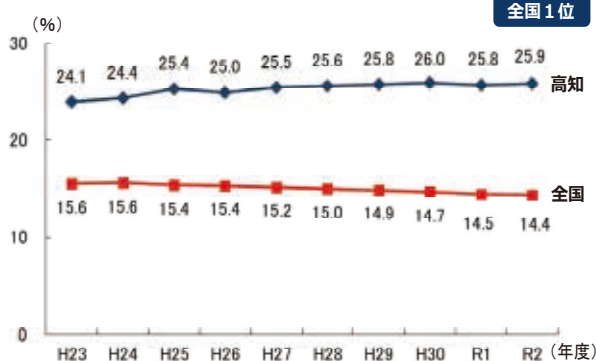
厚生労働省「国民生活基礎調査」

■生活保護被保護実人員（人口千人当たり）の推移



総務省「社会生活統計指標」

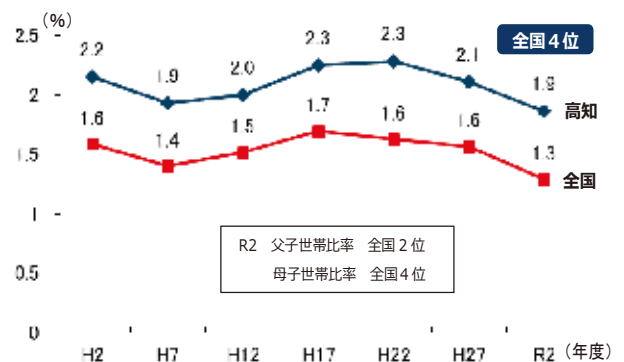
■就学援助率※の推移



※就学援助率=要保護・準要保護児童生徒数合計/公立小中学校児童生徒総数

文部科学省「就学援助実施状況調査」

■ひとり親世帯比率※の推移



R2 父子世帯比率 全国2位  
母子世帯比率 全国4位

※ひとり親世帯比率=ひとり親世帯数/総世帯数

総務省「国勢調査」

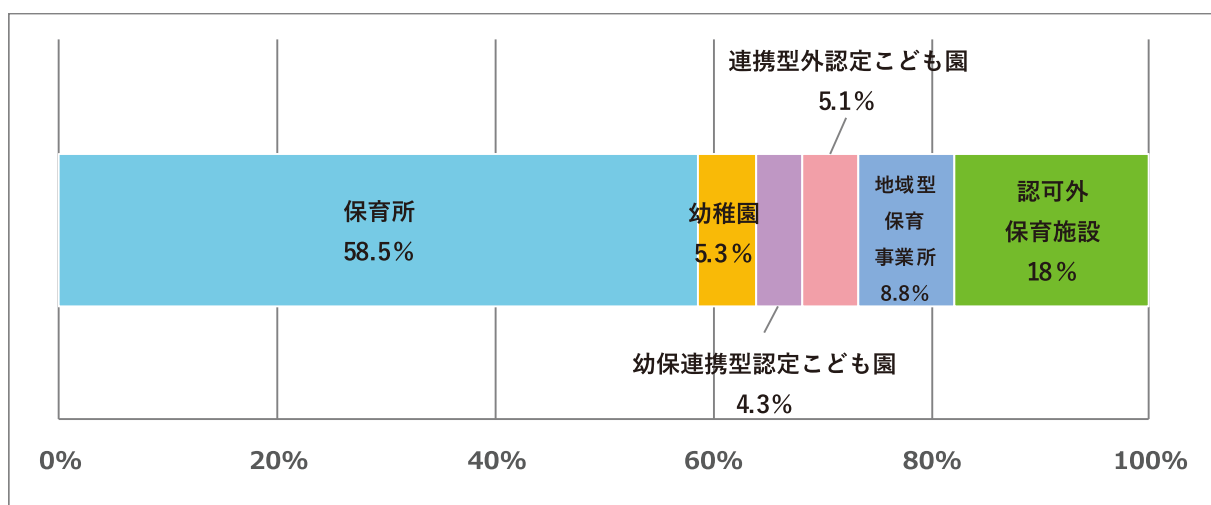
## (5) 就学前の教育・保育の状況

本県の保育所・幼稚園等に入所・入園している乳幼児のうち、74.3%が保育所、3.8%が幼稚園、9.4%が認定こども園を利用しており、保育所の利用割合が高くなっています。

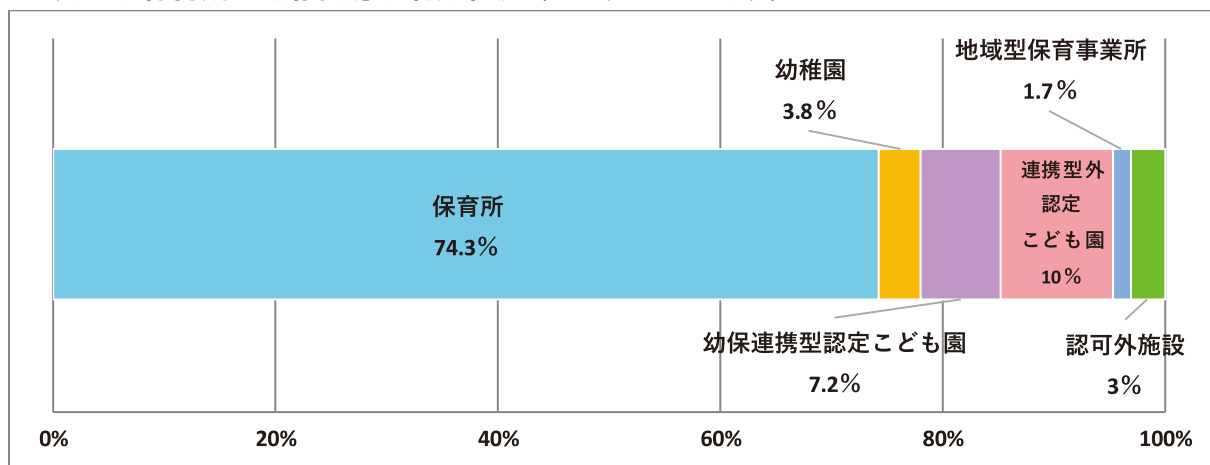
さらに、正規職員の年齢構成を見ると、公立の保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園の施設長のうち55歳以上60歳未満が約55.7%となっており、今後も多くの退職者が見込まれます。一方、私立の幼稚園・幼保連携型認定こども園・連携型外認定こども園の正規職員である保育士・幼稚園教諭・保育教諭のうちの4割前後が20歳代となっています。

以上のようなことから、管理職や中堅保育者の人材育成力の向上と若手保育者の資質・指導力の向上が急務となっています。

### ■ 保育所・幼稚園等の施設数の割合 (R3年4月1日現在)



### ■ 児童の保育所・幼稚園等の利用状況 (R2年4月1日現在)



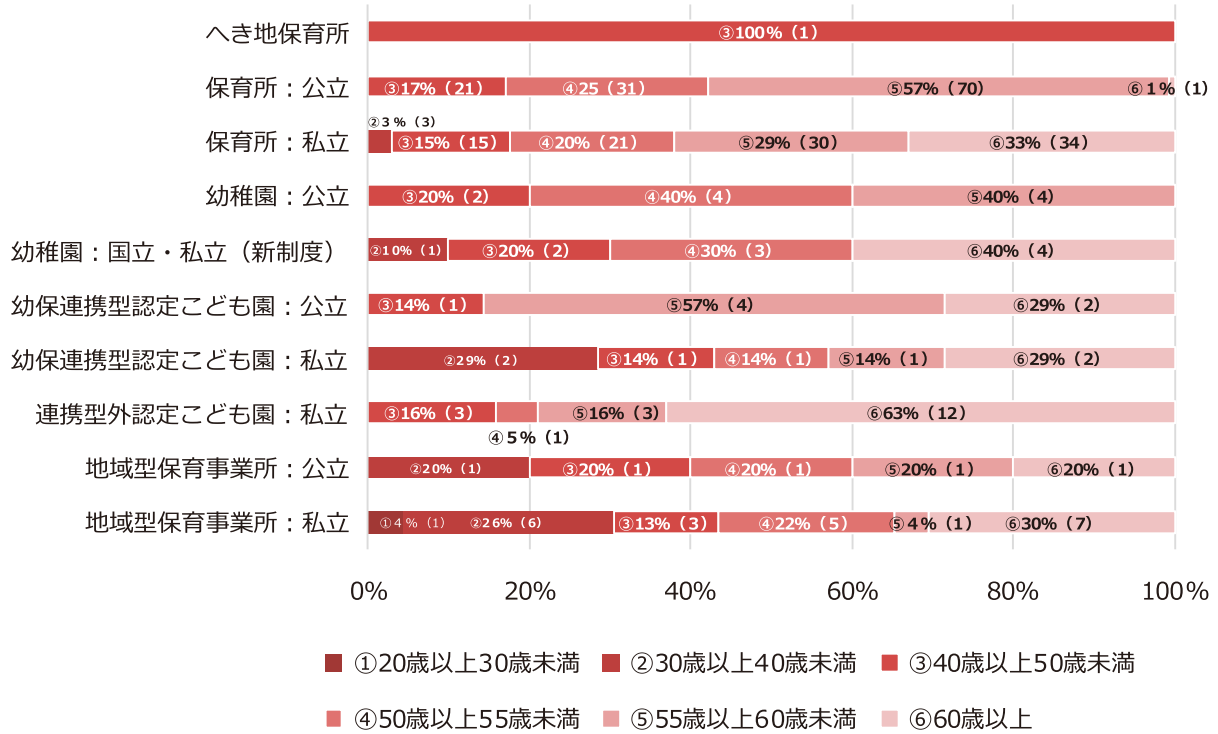
特定教育・保育施設等運営状況調査、学校基本調査



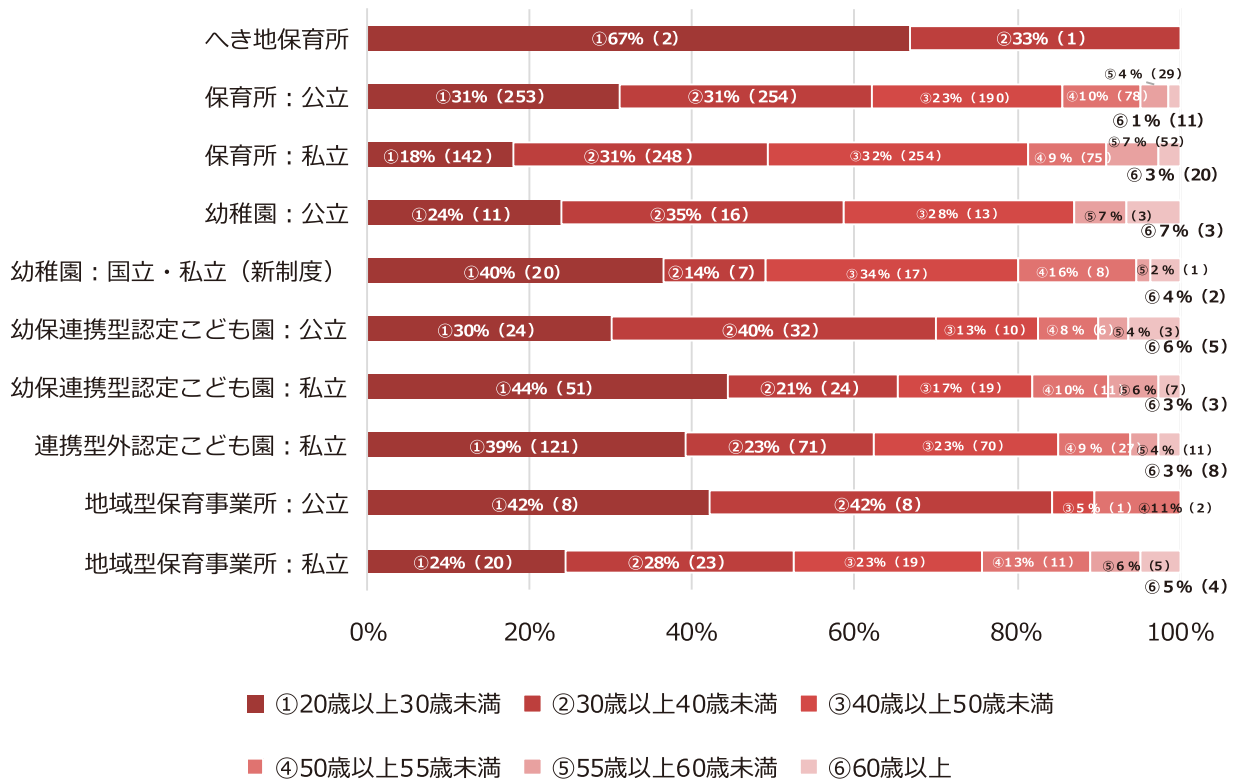
■ 正規職員の年齢構成 (R2年4月1日現在)

※ ( ) 内は人数

◆ 施設長



◆ 保育士・幼稚園教諭・保育教諭



特定教育・保育施設等及び私立幼稚園 年齢構成調べ

### 3 ガイドラインの必要性

これまで県では、平成 15 年に高知県教育委員会に保育所・幼稚園等への行政窓口の一本化を行い、保育所や幼稚園等の制度の壁を乗り越えて、研修等の一体的な施策を講じてきました。その結果、各園における園内研修や親育ち支援の充実が図られてきました。

しかし、現状では、保育所保育指針・幼稚園教育要領等の活用が十分に行われていなかったことや、管理職の経営ビジョン・指針が十分に示されていないなど、教育及び保育の大部分が保育者の独自の理解や、個々の裁量や力量に委ねられる傾向にあったことなどから、組織的な取組が十分でなかったことが考えられます。

加えて、教育内容や指導方法が異なる幼児教育と小学校教育の間で、子どもの発達や学びを円滑につなぐためには、両者の違いを十分に認識し、保育所・幼稚園等と小学校が連携して組織的に対応することが重要です。

さらに、学校教育において幼児期から学校卒業後まで一貫した支援を行うために、市町村や地域で子どもに関わる様々な人や関係機関と連携を図り支援を受けながら、長期的な見通しをもった支援のための計画を作成することも必要です。

こうした取組を充実させるためには、県などが実施する研修に加え、日常的に園で主体的な質の向上を図るための取組を行う必要があります。

そこで、保育者のみなさんが資質や専門性を向上させ、より質の高い教育及び保育の取組が行えるよう、保育者に求められる資質・指導力、保護者支援の在り方等を示したガイドラインを策定することにしました。

#### 【中央教育審議会答申（令和 3 年 1 月）の抜粋】

##### 〈子供の学びを支援する教職員の姿〉

- 教師が技術の発達や新たなニーズなど学校教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて探究心を持ちつつ自律的かつ継続的に新しい知識・技能を学び続け、子供一人一人の学びを最大限に引き出す教師としての役割を果たしている。その際、子供の主体的な学びを支援する伴奏者としての能力を備えている。

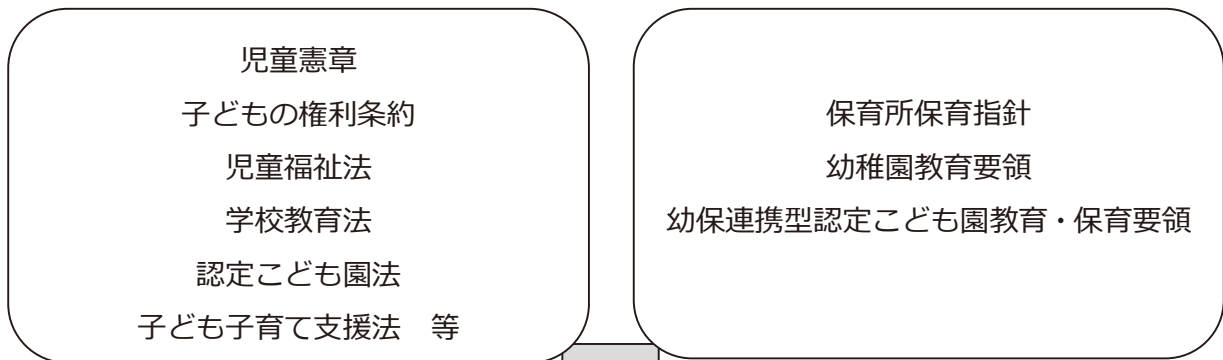
##### 〈幼児教育における子供の学び〉

- 幼稚園等の幼児教育が行われる場において、小学校教育との円滑な接続や特別な配慮を必要とする幼児への個別支援、質の評価を通じた P D C A サイクルの構築が図られるなど、質の高い教育が提供され、良好な環境の下、身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で達成感を味わいながら、全ての幼児が健やかに育つことができる。


##### 〈幼児教育の教職員の専門性の向上〉

- 研修と通常の保育活動、園内研修と園外研修、さらには法定研修、幼児教育関係団体が実施する研修など、それぞれの機能や位置付けを構造化し、効果的な研修を行うことが重要である。
- このため、初任、中堅、管理職等といった各職階・役割に応じた研修体系の構築を行い、それぞれの段階で求められる資質を明らかにし、キャリアステージごとの十分な研修機会を確保することが必要である。

## 4 ガイドラインの位置付け



**第2期教育等の振興に関する施策の大綱**  
**第3期高知県教育振興基本計画**

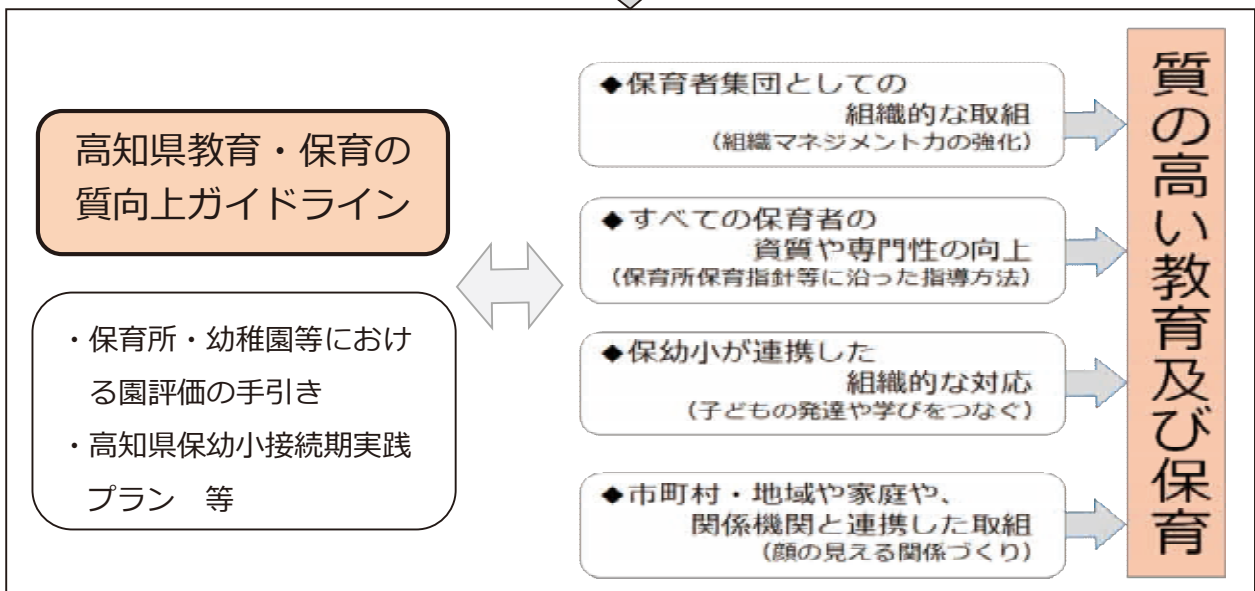


【基本理念：目指すべき人間像】

- ★学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち
- ★郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材

**基本理念の実現に向けて6つの基本方針と2つの横断的取組に沿って施策を推進**

基本方針Ⅱ：厳しい環境にある子どもへの支援や子どもの多様性に応じた教育の充実  
 基本方針Ⅴ：就学前教育の充実



ぜひ、本ガイドラインを各園の実情に即して活用していただき、高知県に生まれ育つ全ての子どもが、施設や保育者の違いによることなく、どこにいても質の高い教育及び保育を受けることができる環境を整えていきましょう。





## 第2章 乳幼児期の発達の特徴に合わせた教育及び保育と 保育者に求められる資質・指導力



乳幼児期における教育及び保育は、乳幼児期の発達の特徴から、小学校以降のような、いわゆる教科指導で育むのではなく、子どもの自発的な活動である遊びや生活の中で、美しさを感じたり、不思議さに気付いたり、できるようになったことなどを使いながら、試したり、いろいろな方法を工夫したりすることを通じて育むことが重要です。

こうした教育及び保育を確実に行うために、保育者として専門的な資質・指導力を常に磨いていくことが求められますが、どのような力をどのように付けたいのでしょうか。

### 1 保育者として身に付けたい資質・指導力

以下に示す「保育者として身に付けたい15の資質・指導力」は、高知県の各市町村の代表者等と有識者で構成される「高知県幼保推進協議会」において、高知県の家庭、地域、子どもたち、保育者の現状等を踏まえ、就学前の質の高い教育及び保育を実現していくために必要な保育者の資質・指導力についてまとめたものです。

#### 保育者として身に付けたい15の資質・指導力

- ①子どもの主体的な学びを保障するための環境構成を行う力
- ②一人一人の子どもの特性や発達、ねらい等に適した援助を行う力
- ③ねらいに沿って指導を適切に展開し、改善する力
- ④地域の資源を活用し、指導の充実を図る力
- ⑤保護者や必要な機関と連携を取りながら一人一人の育ちを支える力
- ⑥発達や学びの連続性を見通し、指導する力
- ⑦在園児の保護者に対して子育てを支援する力
- ⑧地域の子育て家庭等を支援する力
- ⑨学級経営に関わる事務を的確に処理する力
- ⑩園務分掌とその内容を理解し、企画・立案する力
- ⑪上司や同僚と協働して、円滑に園務を遂行できる力
- ⑫子どもが安心して過ごすことができる施設や遊具等の安全な環境を整える力
- ⑬家庭や地域と連携し、子どもが危険から身を守り、安全に行動できるように指導する力
- ⑭保育者として自分の課題を発見し、自己研鑽していく力
- ⑮乳幼児期の発達や学びを踏まえた教材の研究をする力

平成28年11月に、保育所・幼稚園等の経験年数20年以上の保育者または園長のいずれか1名を対象に、高知県教育委員会事務局幼保支援課においてアンケート調査を行いました。その結果（306園回答）によると、保育者として身に付けたい15の資質・指導力について、「いつごろ身に付いたと思われるか」という質問に対しては、全体的な傾向として10年目と回答した割合が高く、次いで5年目、15年目となります。

また、現在の家庭や子どもたちを取り巻く状況を踏まえ、保育者として身に付けたい15の資質・指導力は、「いつごろに身に付けることが望ましいか」という質問に対しては、全体的な傾向として5年目という割合が高く、次いで、10年目、3年目、15年目という結果となっており、保育者のキャリア形成<sup>※1</sup>において、資質・指導力を身に付けて高めていく時期として、項目によって若干の違いはあるものの、3年、5年、10年、15年という一定の年数に集中している傾向にあります。

保育者の資質・能力をさらに高めていくためには、個々の保育者のキャリア形成を図るとともに、**自身のめざす保育者像の実現に向けて自らが主体的にキャリアデザイン<sup>※2</sup>していくことが大切です**。そのためには、高知県の実態に応じ、保育者として身に付けたい15の資質・指導力をキャリアステージに応じて示すこと、さらには、園内外の研修を計画・実施することにより、効果的な保育者のキャリア形成が実現することとなります。これらのことは、結果として保育者の資質・能力の向上につながり、質の高い教育及び保育が提供できることにつながっていきます。

※1：仕事を通じて職業能力を習得する活動

※2：自分の仕事人生のプランを自ら設計し決定すること

以上のことから、本ガイドラインでは、キャリアステージを、下記のように示すこととしました。

- ◆基礎ステージ：新規採用保育者、5年未満の保育者
- ◆中堅ステージ：5年～10年未満の保育者、中堅保育者（10年以上）
- ◆管理職ステージ：主任・教頭等、所長・園長

今後は、保育者として身に付けたい15の資質・指導力を全ての保育者がキャリアステージに応じて身に付けられるよう、県・市町村・園がそれぞれの立場での取組や連携した取組を推進していくことが何よりも大切です。

まずは、子どもに関わる全ての保育者が、小学校以降の児童期とは異なる乳幼児期の発達の特徴と、その特性に合わせた教育及び保育の在り方について、正しく理解することが求められます。基本をしっかりと捉えながら、質の高い教育及び保育を求めていきましょう。

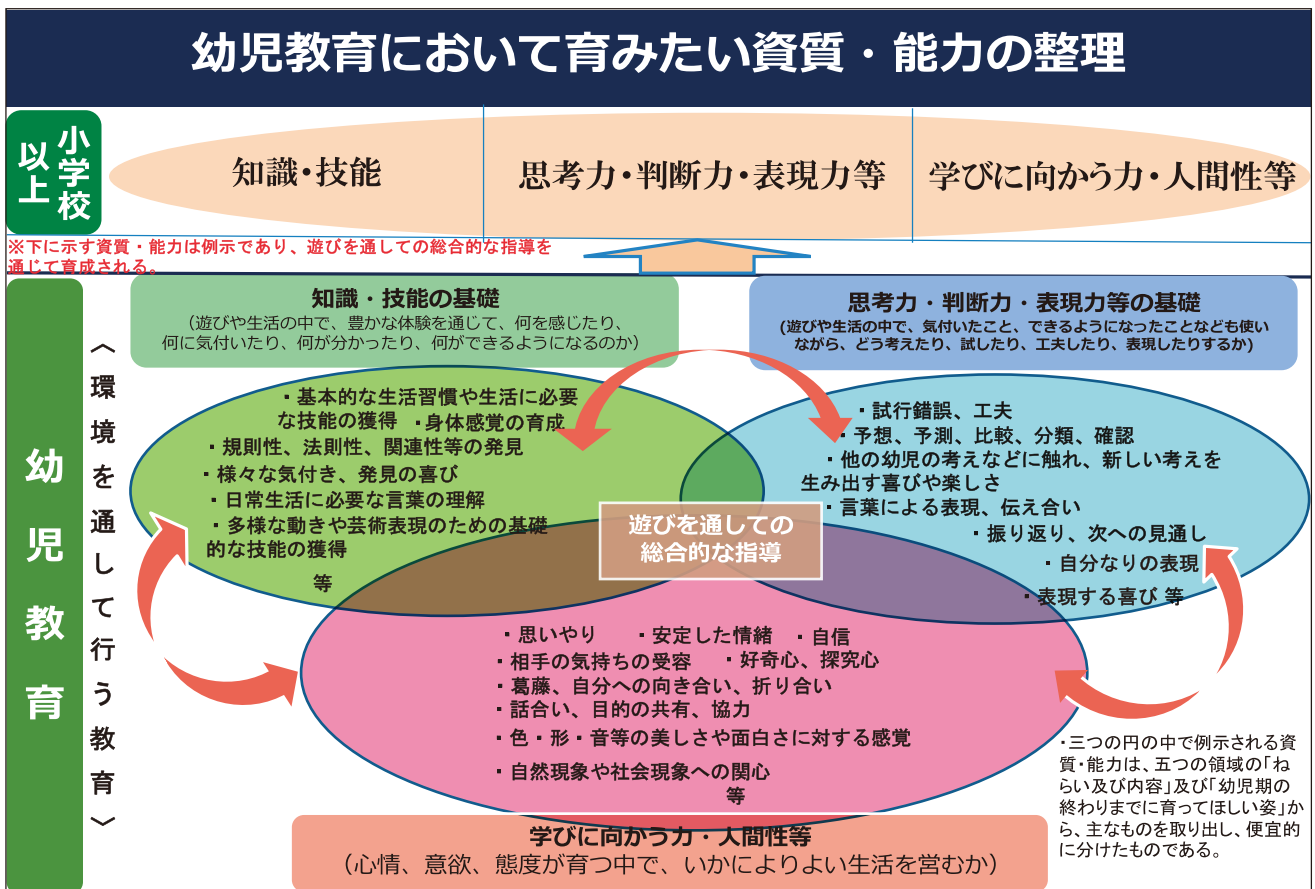


## 2 乳幼児期における教育及び保育

急速な社会変化の中で、伝統や文化に立脚した広い視野をもち、志高く未来を創り出していくために必要な資質・能力を子どもたち一人一人に確実に育む教育の実現が求められています。「18歳の段階で身に付けておくべきことは何か」「義務教育を終える段階で身に付けておくべき力は何か」という観点を共有しながら、各段階において系統的な教育の展開が重要です。

特に乳児期の子どもは、生活や遊びの様々な場面で、主体的に周囲の人や物に興味をもち直接関わっていきこうとします。このような姿は、「学びの芽生え」といえるものであり、生涯の学びの出発点ともいえます。

乳幼児期の特性を踏まえ、これからの教育及び保育の展開において、遊びを通しての総合的な指導を通して、「知識・技能の基礎」、「思考力・判断力・表現力等の基礎」、「学びに向かう力・人間性等」を一体的に育てていくことが重要です。そのため、保育者は、乳幼児期の発達の特徴を十分に理解して、子ども一人一人の発達の実情に即した教育及び保育を行うようにすることが大切です。(図4)



(図4) 中央教育審議会資料 (H28.12.21)

## (1) 乳幼児期にふさわしい生活を展開するために

### ①子どもとの信頼関係を結ぶ

- ・乳幼児期は、自分の存在が周囲の大人に認められ、守られているという安心感から生じる安定した情緒が支えとなって、次第に自分の世界を拡大し、自立した生活へと向かっていきます。
- ・子どもは、保育者に受け入れられ、見守られているという安心感をもつことが大切です。
- ・保育者から適切な支援を受けながら、子どもが自分の力で活動に取り組む体験を積み重ねることが大切にされなければなりません。



### ②興味や関心に基づいた直接的な体験が得られる生活にする

- ・子どもの生活のほとんどは、興味や関心に基づいた自発的な活動からなっています。
- ・この興味や関心から発した直接的で具体的な体験は、子どもが発達するうえで豊かな栄養となり、様々な力を獲得していきます。
- ・日々の生活において、子どもが主体的に環境と関わり、十分に活動し、充実感や満足感を味わうことができるようにすることが大切です。



### ③友達と十分に関わって展開できる生活にする

- ・幼児期には、自分以外の幼児の存在に気付き、友達と遊びたい気持ちが高まり、友達との関わりが盛んになります。
- ・他の幼児と関わることを通して、幼児は自己の存在感を確認し、自己と他者の違いに気付き、他者への思いやりを深め、集団への参加意識を高め、自律性を身に付けていきます。
- ・日々の生活の中で、幼児が友達と十分に関わって展開する生活が大切です。

## (2) 一人一人の発達の特性に応じた指導を行うために

子どもの発達の姿は、大筋で見れば、どの子も共通した過程をたどると考えられます。そのため、子どもを指導する際に、保育者はその年齢の多くの子どもが示す発達の姿について心得ておくことは、指導の仕方を大きく誤らないためには必要です。しかし、それぞれ独自の存在としての子ども一人一人に目を向けると、その発達の姿は必ずしも一様ではないことが分かります。

子ども一人一人の家庭環境や生活経験の違いから、人や事物への関わり方、環境からの刺激の受け止め方が異なっています。それゆえ、保育者は、子どもが自ら主体的に環境と関わり、自分の世界を広げていく過程そのものを発達と捉え、子ども一人一人の発達の特性（その子らしい見方、考え方、感じ方、関わり方など）を理解し、その特性やその子が抱えている発達の課題に応じた指導をすることが大切です。

## (3) 乳幼児理解に基づく環境の構成を行うために

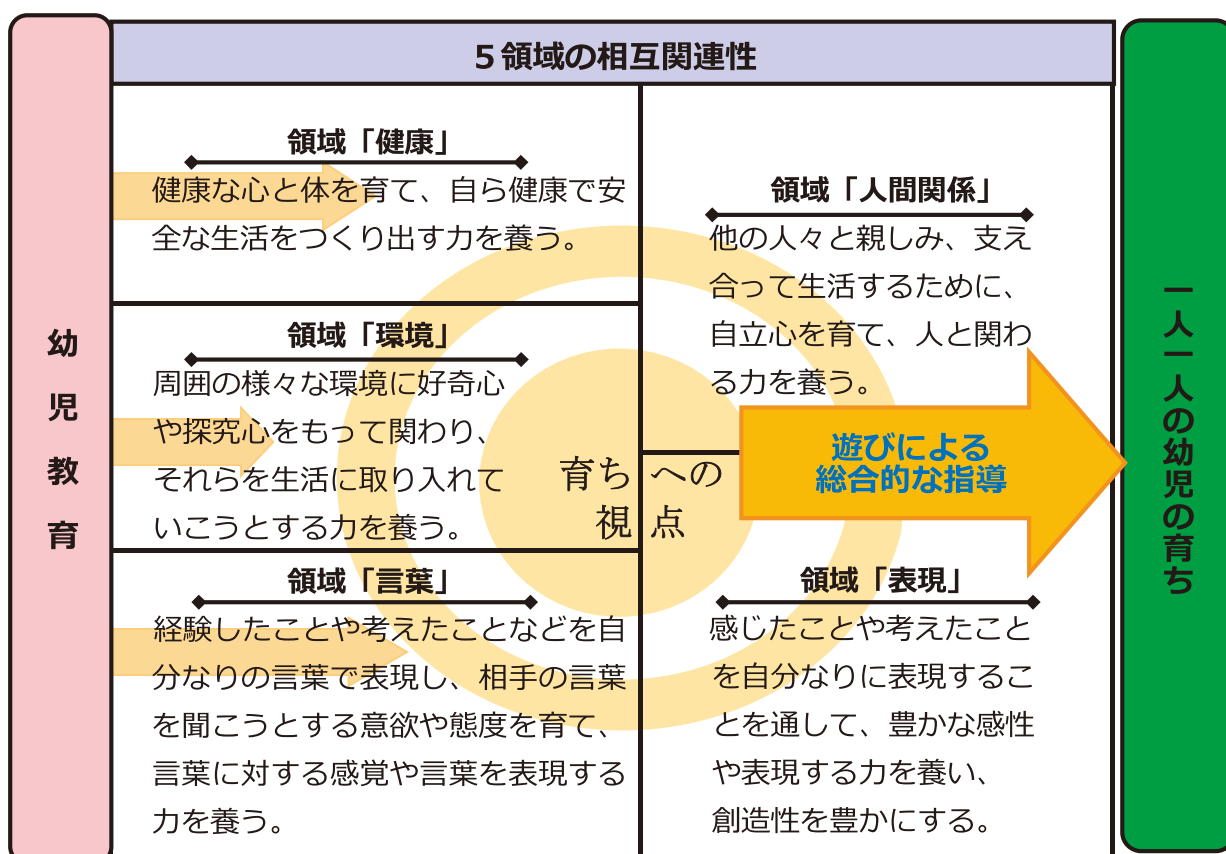
環境の構成については、子どもの生活する姿に即して、その時期にどのような経験を積み重ねることが必要かを明確にしたうえで、そのための状況を物や人、場や時間、保育者の動きなどと関連付けて作り出していくことが大切です。

子どもが安心して周囲の環境に関われるような雰囲気のもと、興味や関心がわいてきて、自ら次々と活動を展開していくことができるように、配慮され、構成された環境が大切です。

このような環境を構成するためには、物的、人的、自然的、社会的など、様々な環境条件を相互に関連させながら、子どもが主体的に活動を行い、発達に必要な経験を積んでいくことができるような状況をつくり出すことが大切です。

乳幼児期は、自分の生活を離れて知識や技能を一方向的に教えられて身に付く時期ではなく、生活の中で自分の興味や欲求に基づいた直接的・具体的な体験を通して、人格形成の基礎となる豊かな心情・物事に自分から関わろうとする意欲や健全な生活を営むために必要な態度などが培われる時期です。

保育所・幼稚園等における教育及び保育は、遊びを通して5領域のねらいを総合的に達成することにより、一人一人の幼児の育ちを実現していきます。(図5)



(図5) 幼児教育における5領域の相互関連イメージ図

そのため、子どもの健やかな育ちを保障し、よりよい保育を展開していくために、乳幼児理解に基づく指導計画の作成、環境の構成と活動の展開、乳幼児の活動に沿った必要な援助、反省や評価に基づいた新たな指導計画の作成といったPDCAサイクルの中で、自らの保育を多様な観点で振り返りながら、継続的に教育及び保育の質を向上させていくことが必要です。



乳幼児期の発達の特性に応じた質の高い教育及び保育の実践や、小学校以降の教育への接続を意識した取組の充実・強化が図れるよう、**管理職が明示する園の経営方針や教育・保育目標を全職員が共有したうえで、ガイドラインに基づいた教育及び保育をチームとして実践していきましょう。**

### 3 保育者としての資質・指導力を高めていくために

子どもにとって遊びは重要な学習です。子どもの主体的な活動を確保し、子どもが自らの力で発達に必要な経験が得られるようにしていくことは、保育者の使命であり、責務です。

そのため、保育者には、子どもの発達や生活の流れを見通した指導の計画を立てることが求められます。また、子どもの発達や活動の流れに応じた環境構成や、子ども一人一人の活動に応じた援助など、きめ細かな指導が必要となります。



こうした指導力を身に付けるためには、**自らの実践を振り返ることが大切**です。実施にあたっては、漠然と実践を振り返るのではなく、**自分の身に付けたい力を意識した評価**をしていきましょう。そうすることで、自己課題をより正しく把握することができるとともに、保育者としての資質や専門性を高めていくことができます。



#### (1) 実践の振り返りから自己課題発見へ

保育者一人一人の実践の振り返りと、園全体の保育の振り返りができるよう、「自己課題発見シート」として、いくつかの視点を示してみました。

これは、子どもの育ちを評価するものではなく、**保育者としてのご自身の実践や保育に向かう姿勢を評価していくもの**です。主任・教頭・所長・園長といったクラスをもっていない管理職の方は、全園的な視点で評価してみましょう。

なお、**この評価は人事考課を行うものではありません**。悪い評価を恐れず、感じたままに評価してみることを大切にしてください。よい評価が付くこと以上に、**なぜその評価にしたのかを考えることが大切**です。評価の理由を考えることで、具体的な改善点や目標がみえてくると思います。

また、**園内で各項目の捉え方やお互いの評価の仕方等について話し合うことも大切**です。保育者によって各項目からイメージすることや評価する視点が違っていることもあるでしょう。お互いの違いを大事にしながら、求められる乳幼児期の教育及び保育について話題にし、考えることが、乳幼児の発達の特性への理解を深めたり、具体的な実践の向上につながったりします。

「自己課題発見シート」は、実践の振り返りから自己課題を発見し、次の目標を常に考え、実践しようとする保育者や園を助けるものです。



管理職の先生方は、「自己課題発見シート」を基に、**職員と意見交換を行い、保育者のさらなる気づきを促し、自園のよさを認め合うとともに、課題をより明確にしましょう**。

さらに職員から出た意見を園内研修等につなげ、課題改善に向けて話し合う場を積極的に設けていただくようお願いします。



実際に評価を行う際は、資料に示している「自己課題発見シート」  
(資料P45からP48)をご活用ください。

評価項目の見方

- ◆「乳」の項目・・・0～2歳児保育を担当している保育者や施設
- ◆「幼」の項目・・・3～5歳児保育を担当している保育者や施設
- ◆その他の項目・・・施設を問わず全ての保育者

視点	評価項目	評価項目
登園	子どもが登園する前に空気を入れ替えたり、花瓶の水を入れ替えたり、危険なものがないか等、保育の準備をしている	保護者の様子や子どもとの関係を注視している
	どの子どもや保護者にも、名前を呼んであいさつする等、楽しく園生活をスタートできるよう、温かく迎えている	感染症防止のための確認（検温・消毒等）をしている
	健康状態や情緒面など、子ども一人一人の様子を注意深く視診している	
食事・間食	衛生面や安全面に配慮した、席の配置や配膳等を行っている	子どもが食事をしているときは一緒に楽しく食べるなどして、基本的なマナーが自然に身に付けられるようにしている（よい見本になっている）
	くつろいだ楽しい雰囲気や場をつくっている	幼 食事の大切さ、献立や食材の名前等を知らせ、食べることに興味や関心をもたせている
	主食・主菜・副菜を一緒に配膳している	作っている人への感謝の気持ちをもてるようにしている
	複数の職員でアレルギー食の確認を丁寧に行い、誤食がないようにしている	宗教上の理由などによる家族の食生活習慣を大切に実践している
	子どもの食べられる量に調整している（無理強いしない・咀嚼の状態や病み上がりなどの体調に合わせる）	季節や行事、地域等の食文化に関心をもつことができるよう、食事内容について話をするなどの配慮をしている
	自分のペースで食事ができる時間を、育ちに応じて配慮している（無理強いしない）	
排泄	子どもが尿意を感じて排泄できるようにするなど、一人一人の排泄のリズムに合わせたおむつ交換や促しを行っている	トイレや手洗い場の衛生面に配慮した環境になっている
	保育者と子どもが、おむつ交換や排泄の後、いつも手を洗っている（手洗い指導をしている）	明るく清潔で、子どもが使いやすい環境になっている
	子どもの育ちの状況に応じた見守りや援助（活動の前に促す等）を行っている	幼 子どもが行きたいと思ったときにトイレに行けるようにしている（活動が優先されない、子どもが考えて行くことを大切にしている）
睡眠	午睡チェック表などを活用し、一人一人の睡眠中のきめ細かな観察（うつぶせ寝にさせない等）を行っている	眠っていない子どもが活動できる環境を整えている（早く起きた子どもや眠れない子どもが静かな遊びができる環境）
	穏やかに見守りができている	
	一人一人の発達や体調の状態、疲れ具合等に応じた適切な援助をしている	

視点	評価項目	評価項目
安全	室内外でけがにつながる危険がないか常に気を配っている	熱中症対策等に備えて、一人一人の休息や水分補給に気を配り、確認している
	子どもが触れるところに危険な物を置いていない	保育室等の換気・温度・湿度に配慮している
	乳 子どもが口にしても危険がないような物に気を配っている（誤飲や衛生面への配慮）	保育室内外の遊具や玩具などの消毒を行うなど、衛生面に配慮している
	地震や不審者対応に備え、避難時の動線の妨げにならないよう、出入り口や廊下に物を置いたり、転倒・落下しそうな物を置いたりしないようにしている	生活や遊びに必要なルールを守れたり守れなかったりする子どもの思いを理解し、受け止め、繰り返し関わっている
	遊具の位置が高すぎず、手入れがされており、固定している	虐待等が疑われる場合は、一人で抱えることなく園長を中心にすぐに対応している
	子どもの健康や安全に配慮した服装や履物に配慮をしている（体温調節：上着の着脱、視野：帽子のつばの大きさ、転倒：脱げにくい履物、窒息：首に引っかからない服等）	幼 生活や遊びの中で必要なルールを子どもが理解しやすいように説明したり、子どもと一緒に考えたりするようにしている（大きなけがにつながるものを除く）
遊びの環境	長期の指導計画（年間・月間）に基づいた環境を、意図的・計画的に構成している	幼 お互いのやり取りが生まれるような遊具や教材がある
	自園の教育及び保育の方針を理解して保育している	幼 子どもが自由に選んで使える遊びのコーナーや場がある
	年間を通して戸外での遊びができるようにしている	幼 子どもが自分の好きな遊びを見付けることや遊びを考えたり進めたりできることを大切にし、発達に必要な経験が得られるような状況をつくっている
	室内や戸外で自然物に接する機会が豊かにある	各年齢の指導計画等により見通しをもちながら、育ちや時期に応じて必要な教材を吟味している
	乳 おもちゃは子どもの手が届きやすい所に置いている	子どもが好きな遊びに満足できるような時間や場が確保されている
	乳 一人一人がじっくりと遊べるおもちゃ等の量や場所が準備されている（状況に応じて量の加減ができる）	幼 子どもの育ちにあったものとして、自然に文字に触れたり、文字に興味や関心をもったりするような教材や遊びがある
	静的な活動がじっくり楽しめるように、動的な活動が交わらないように配慮している	幼 子どもの育ちにあったものとして、数えたり、測ったり、形や大きさに興味や関心をもったりするような教材や遊びがある
	子どもの興味・関心、育ちに応じて遊具・用具・材料が自由に選べたり、目的によって選べたりできる	子どもが集団活動に加わったり離れたりできるよう、子どもの思いを大切にしながら、活動に柔軟性をもたせている
身近にあるものを使ったり、遊びに取り入れたりしている（段ボールや空き箱等）	集団に参加していない子どもへの配慮ができている	
子どもが作ったものや掲示物の多くを、子どもの目の高さに置くなど、子ども同士で見合いながら遊びに生かせる工夫をしている（前日までの遊びの続きができる工夫等）	子どもが実現したいこと、実現してほしいことを捉え、子どもの思いやイメージを生かしながら環境を再構成している	
保育者の援助	長期の指導計画（年間・月間）に基づいて、子どもの育ちや課題に応じた援助の確認をしながら計画的に保育を進めている	子どもの心の動きに沿って共に心を動かしたり、知恵（アイデア）を出し合ったりしている
	子どもがしていることに興味や関心を寄せながら一緒に遊ぶことで、その思いや意味を理解しようとしている	子どもが安心して自分なりの思いを表現できるように、その子なりの表現を大切にし、共感している（様々な表現活動を意味する）
	子どもと目を合わせながら話している	子どもが表現したいことを感じ取っている
	子どもが感じたり、行動したり、経験したりしていることを言葉にして自覚化できるようにしている	子どもなりの表現が様々な人へと伝わる喜びが味わえるようにしている
	子ども一人一人の育ちに合わせた見守りや関わりをしている	子どもの気付きや考えから新たなやり取りが生まれ、活動が共有されていく満足感が味わえるようにしている
	子どもがコミュニケーションをとろうとしていることにタイミングよく肯定的に回答している	複数担任のクラスでは、一人一人の育ちについてよく話し合い、共通理解のもと、同じ方向性をもって保育が行えるようにしている



視点	評価項目	評価項目
保育者の援助	乳 子どもに関わる時は保育者の行動に言葉を添えたり、子どもの気持ちを言葉にしたりしている（おむつ交換、抱く、鼻を拭くなど）	個の活動、グループの活動、学級全体の活動など、どの形態においても一人一人の子どもの心の動きに応じた援助をしている
	子どもの気持ちを代弁したり、言葉にして伝えるように励ましたりして、問題を解決するために話し合うことを学べるように援助している	幼 数量や文字に興味や関心をもつ気持ちを大切にすること（確実に数を数えられたり、文字を正確に読めたり、書けたりすることのみを目的にした活動を行っていない）
	活動への取りかかりが遅い子どもの理由を推しはかり、その子なりのペースで取りかかれるようにしている	幼 遊びや生活の中で、子どもが言葉に表したり、なぜそうするのかを説明したりする場面が生まれるような関わりをしている
	保育者の判断基準にとらわれず、子ども一人一人のありのままを受け止め、肯定的に見守っている	幼 解決を急がず、友達とのやり取りの中で、自分とは異なる思いや考えに気づき、徐々に相手の気持ちを理解しようとする援助をしている（子どもなりに考える時間と関わりを大切にしている）
	同僚や上司と連携しながら保育を行っている	
読書活動	絵本コーナーを設け、子どもが興味をもったときに自分で絵本等を手にとることができるようになっている（取りやすさ、自由さ）	絵本等を通して、子どもと心を通わせる場面をもっている
	子どもが興味や関心をもって関わってみたいくなるよう、手に取りやすい場所や絵本等表紙が見えるように置くなどの工夫をしている	子どもが興味や関心をもって関われるよう、遊びや生活に関連した絵本等を適宜入れ替え、子どもの年齢や育ち、季節等に合った絵本等を置いている
	絵本等に関する知識を得たり、技術を高めたりするようにしている	傷んだ絵本等がないか定期的に点検・修繕を行っている
	絵本の貸し出しやお便り等を通して、保護者に親子読書の大切さを伝えている	
子どもの人権	社会的に模範となる行動をしている（あたたかく思いやりがある、優しく触れる、子どもたちに丁寧である、名前を呼びきりしない、子どもを比較しない、いばったりしない）	いつも温かく支持的なやり方（肯定的な関わり方）で子どもに応答している
	罰を用いない保育をしている	一人の人間として子どもに対応し、尊重する気持ちを表している
	子どもの目線に合わせ、いつもゆったりとして口調が温かく微笑みのある表情を大事にしている	どの子どもにも分かりやすい言葉や伝え方を心がけている
	子どもの言動を、否定的に捉えたり話したりしていない	支援を必要とする子どもの特性を理解し、一人一人に応じた関わりを心がけている
	子ども同士を比べず、その子らしさを大切にしている（ジェンダーの視点等）	着脱時などには、プライベートゾーンについて配慮した環境をつくっている（特にプールでの遊びの時期）
	外国にルーツのある子どもの国籍や文化の違いを認め、保育の中で文化の多様性に気づき、興味や関心を高めていけるような配慮をしている	
降園	どの子どもにも保護者にも、気持ちよく送り出す配慮をしている	子どもの園での様子を具体的に伝えている（楽しんでいたり成長、けが、生活面の姿など）
	子ども一人一人の様子を注意深く視診している	幼 明日への期待がもてるような言葉を掛けている
保護者への支援	保護者との間で子どもに関した多くの情報が共有でき、子どもの成長を共に喜び合うことができている	子どもの育ちにとって必要な関わり方について、分かりやすい言葉や伝え方を心掛けながら、情報を提供している
	園の方針や実践について、保護者に理解してもらえるよう説明している	保護者との信頼関係を築き、保護者の抱えている課題や悩みを捉え、関わるができている
	お便りに、子どもの遊びや生活を通して育てている（育とうとしている）資質・能力について記載している	家庭での遊びや生活が豊かになるような情報を提供している（親子読書、運動遊び等の具体的な実践例について）
	健康・安全（感染症対策等）に対する予防等について、お便り等で情報提供をしている	
降園後	一日の保育を振り返り、子ども理解を深めている	必要に応じて、その日の保育や子どもの様子について同僚や上司と話し合っている（問題を次の日に持ち越さない）
	保育の振り返りから、短期の指導計画（週・日案）のねらい・内容の見直しを行っている	子どもの帰った後に掃除や消毒等をし、翌日の準備をしている（環境構成を含む）



実践を振り返って得られたものはありましたか。発見できた自己課題は何だったでしょう。評価をしていく際に悩まれた項目もあったのではないのでしょうか。評価理由を考える中で課題を発見し、次への取組目標を設定された方は、具体的な実践へとつながっていくことでしょう。

こうした**実践の振り返りを繰り返していくことは、子ども一人一人をかけがえのない存在として受け止め、それぞれのもつ独自性を大切にされた保育の実践へとつなげていくこと**になります。

同僚の力も借りながら、子ども一人一人のよさを生かし、子ども同士の心のつながりがあるクラスづくり、園づくりを行っていきましょう。

【MEMO】





## 第3章 各キャリアステージに求められる資質・指導力

### 1 キャリアステージにおける保育者育成指標

ここでいうキャリアステージは、保育所・幼稚園等で採用されてからの経験年数によって分類されたステージのことです。基礎、中堅、管理職と大きく3つに分類して、各ステージに求める姿を示しています。

保育者として成長していくためには、単に優れた保育技術を身に付けることをめざすのではなく、自分の未熟さや欠点を謙虚に受け止めながら、**自ら学び続ける姿勢が大切**です。自分のキャリアステージを意識し、身に付けることが望まれる資質・指導力を把握しながら日々の実践や研修を行っていきましょう。

◆◆◆組織の目的を理解し、自分の能力を発揮していきましょう。◆◆◆

保育所・幼稚園等の教育・保育は、教職員集団によって実現してきます。園の特色や課題に基づいて作成した全体的な計画や教育課程、年齢ごとの指導計画などをよく理解した上で、日々の保育を行っていきます。子供の主体的な活動を促すためには、教職員は理解者、共同作業など、様々な役割を果たすことが求められます。教職員一人一人が多様な能力を有し、その能力を発揮することで豊かな教育・保育活動が実現していきます。（「幼児教育を担う教員に求められる資質・能力を研修モデル（令和3年3月）」より）



.....  
県教育委員会では、キャリアステージに応じた研修を整え、各保育者が中長期的な見通しをもって資質向上に取り組むことができるようにしています。

各園においても、職員のキャリアステージに応じた研修の在り方を考え、**個別最適な学びを蓄積**していきましょう。



## 【保育者育成指標】

キャリアステージ		基礎ステージ	
		新規採用保育者	5年未満の保育者
高知果が各ステージ終了までに求める姿		【保育者としての独り立ち】	
		基礎的知識を身に付け実践と結び付ける	見通しをもって教育及び保育ができるよう、実践の幅を広げる
資質・指導力		行動目標	
指導力向上に向けての自己診断	①子どもの主体的な学びを保障するための環境構成を行う力（環境の構成）	ア 保育室を起点に環境を整え、日々の保育に必要な環境を整える	イ 子どもの動きや活動の展開を予測して環境の構成、再構成をする  (保育士のキャリアパス) 乳児保育② 幼児教育② 保育実践①
	②一人一人の子どもの特性や発達、ねらい等に適した援助を行う力（援助）	ア 日々の反省・記録や、先輩の実践に触れることで、一人一人の特性に応じる指導の基本的姿勢を身に付ける	イ 一人一人の特性や発達を理解し、その援助を工夫する  乳児保育③ 幼児教育③ 保育実践②
	③ねらいに沿って指導を適切に展開し、改善する力（指導計画の作成と保育展開・評価）	ア 子どもの実態を踏まえて、ねらいをもとに指導計画を作成し、保育を展開する	イ 反省・記録をもとに、指導計画を構想し発達の見通しをもった保育を展開する  乳児保育⑤ 幼児教育④ 保育実践③
	④地域の資源を活用し、指導の充実を図る力（地域との連携）	ア 地域の自然などを取り入れた保育を展開しようとする	イ 地域の自然や文化を保育に生かす
	⑤保護者や必要な機関と連携を取りながら一人一人の育ちを支える力（関係諸機関との連携）	ア 子どもの変化などを保護者に伝える	イ 子どもや保護者への対応について、他の職員と話し合いながら、園内で情報を共有する  障害児保育①～⑤ 保護者支援・子育て支援④⑤
	⑥発達や学びの連続性を見通し、指導する力（保幼小の連携・接続）	ア それぞれの発達にふさわしい経験を踏まえた実践を知る	イ 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を意識して実践する  幼児教育①⑤ 制度や政策の動向
親育ち自己診断力に関する	⑦在園児の保護者に対して子育てを支援する力（保護者への支援）	ア 保護者にカウンセリングマインドをもって接し、話しやすい雰囲気づくりに努める	イ 保護者との良好な関係を築き、必要に応じて相談しやすい雰囲気をつくる  保護者支援・子育て支援①② 制度や政策の動向
	⑧地域の子育て家庭等を支援する力（地域における子育て支援）	ア 園を訪れる地域の保護者等に対して、気持ちのよい挨拶や温かい雰囲気て接する	保護者支援・子育て支援③ 制度や政策の動向
園の運営力・組織貢献力に関する自己診断	⑨学級経営に関わる事務を的確に処理する力（学級経営）	ア 学級事務を通して担任としての責任を自覚する	イ 日々の記録を整理したり、提出書類を的確に処理したり、担任としての責任を果たしていく
	⑩園務分掌とその内容を理解し、企画・立案する力（園務分掌）	ア 組織の一員として自覚し行動する	イ 園務の一部を担い、園の組織についての理解を深め、役割にあった行動をとる  マネジメント①③ 制度や政策の動向
	⑪上司や同僚と協働して、円滑に園務を遂行できる力（職員間の連携）	ア 自分の考えを伝えるとともに、先輩からの助言を素直に受け止める	イ 自分の考えを伝えるとともに、相手の立場を理解しながら仕事を進めていく  マネジメント②④⑤ 制度や政策の動向
危機管理自己診断に関する	⑫子どもが安心して過ごすことができる施設や遊具等の安全な環境を整える力（安全管理）	ア 危機管理を理解し、マニュアルに沿った環境を整える	食育・アレルギー対応①～⑤ 保健衛生・安全対策①～⑤ 制度や政策の動向
	⑬家庭や地域と連携し、子どもが危険から身を守り、安全に行動できるように指導する力（安全教育）	ア 日頃から遊びや生活の中に安全や命を守るための要素を意識して取り入れ、指導を行う	保健衛生・安全対策①～⑤ 制度や政策の動向
保育者としての姿勢	⑭保育者として自分の課題を発見し、自己研鑽していく力（自己研鑽）	ア 進んで研修に参加し、自らの課題をもち、研鑽に努める	乳児保育① 幼児教育①
	⑮乳幼児期の発達や学びを踏まえた教材の研究をする力（教材研究）	ア 子どもの育ちを理解し、一人一人の育ちに沿った遊具や用具を準備する	イ 子どものモノや人との関わりを深めるための遊具や用具を工夫して活動を豊かにする  保育実践④⑤

※保育士のキャリアパス対象が、「経験年数3年以上」「経験年数7年以上」の保育者のため、基礎ステージと中堅ステージとにまたがった表記となっている。

中堅ステージ		管理職ステージ		
5年～10年未満の保育者		中堅保育者(10年以上)		
【保育者としての資質を磨く】		【園全体を視野に入れる】		
身に付けた知識や技術を生かし、実践力を高める工夫をする		実践を通してモデルとなるよう、全国的な視野に立った資質・指導力を身に付ける		
職員の人材育成を行うとともに、園長を補佐して園の教育・保育目標に向けた取組を推進する		園の経営方針を示して組織的な運営を行うとともに、地域や関係機関等と連携した取組を進める		
行動目標				
(保育士のキャリアパス) 乳児保育② 幼児教育② 保育実践①	ウ いろいろな環境を生かしながら、実践を展開することを楽しく行う	エ 他クラスや他学年の教育・保育の展開を意識して、園全体の環境を視野に入れて豊かなモノや人との関わりを生み出す実践を行う	オ 各職員の意見を反映しつつ、協働して乳幼児期の発達を保障する園環境をつくる	カ 地域や園の実態を踏まえ、よりよい教育・保育の実現に向けて、環境の維持改善に努める
乳児保育③ 幼児教育③ 保育実践②	ウ 個と集団の育ちを意識して、一人一人の特性や発達を捉え、必要な援助を行う	エ 各職員のモデルとなり、子ども一人一人に応じた適切な援助を行う	オ 各職員が一人一人に応じた援助を適切に行えるよう指導する	カ 各職員が一人一人に応じた援助を適切に行えるよう、資質向上のための学び合いの場をつくる
乳児保育⑤ 幼児教育④ 保育実践③	ウ 日々の実践を通して、年間指導計画のねらいや内容、環境の構成、援助を見直していく	エ 園の行事などで実践の中心的な役割を果たしながら、年間指導計画を見直していく	オ 職員との話し合いに積極的に参加しながら、年間指導計画の評価・改善に努める	カ 各職員が全体的な計画・教育課程を踏まえてよりよい実践ができる園環境をつくる
	ウ 地域の資源を生かし、自らの保育を豊かにしていく	エ 様々な機会を通して子どもや保護者と地域とのつながりを深めていく	オ 園長を補佐しながら、地域の人的・物的資源を活用した園づくりを進める	カ 地域との信頼関係を築き、地域の資源を活用した園づくりを進める
障害児保育①～⑤ 保護者支援・子育て支援④ ⑤	ウ 記録や評価を的確に行い、実態に応じた対応・学級経営・協体制づくりを行うため、専門的知識をもって関係機関と連携する	エ 園内の話し合いの中心的な役割を果たし、協体制の推進役になる	オ 様々な関係機関の特性や業務内容について情報を得、職員と専門機関又は他の専門領域をもつ専門家との間に入って連携する	カ 必要に応じて関係機関と連携できる体制を整え、園全体の連携する力を高める
幼児教育①⑤ 制度や政策の動向	ウ 小学校等との円滑な接続の必要性を理解し、学びや発達を見通した計画及び実践を行う		エ 小学校等との連携について職員とともに計画し、園長に提言する	オ 小学校等との連携が円滑に行えるよう、園内外に積極的に働きかける
保護者支援・子育て支援① ② 制度や政策の動向	ウ 保護者の相談を受容的に受け止め、適切な助言をする	エ 保護者同士の関係をつくり、保護者が育ち合う場を提供する	オ 園内で役割分担をしながら、組織として保護者を支援するための役割を担う	カ 必要に応じて関係機関と連携しながら、組織として保護者を支援できる体制を整える
保護者支援・子育て支援③ 制度や政策の動向	イ 園を訪れる地域の保護者等に対して、親しみをもって応じ、気持ちよく利用できるような雰囲気づくりをする		ウ 園の子育て支援の計画に基づいて実践し、園長を補佐しながら子育て情報を発信する	エ 地域の実態を把握して園の子育て支援の充実を努める
	ウ 担任としての学級経営に関する責任を果たすとともに、他の職員の相談にのり、助言をする		エ 園全体を見通して各担任の事務処理等を確認し、効率化に向かって指導・助言する	オ 各担任が自信をもって学級経営にあたるよう、体制を整える
マネジメント①③ 制度や政策の動向	ウ 園務についての理解を深め、後輩の指導をしながら組織の一員として園務の遂行に努める	エ 園務について理解を深め、よりよい園運営に向けて遂行しながら改善を提案する	オ 職員の関心や立場、負担等を踏まえて、園長を補佐しながら、よりよい園務の遂行に努める	カ 園の課題を踏まえて、園務分掌の改善を図る
マネジメント②④⑤ 制度や政策の動向	ウ 同僚からの相談に応じて、適切な助言をする	エ それぞれの立場を理解し、よりよい実践になるよう職員間の連携を図る	オ 園長を補佐するとともに、職員と信頼関係を築き、職員に対して必要に応じて支援する	カ 職員一人一人のよさを生かし、職員間の連携が深まる体制づくりに努める
食育・アレルギー対応 ①～⑤ 保健衛生・安全対策 ①～⑤ 制度や政策の動向	イ 園全体の危機管理を理解し、より安心して、より安全に生活できる環境を工夫し、改善に努める		ウ 園長を補佐し、危機管理のためのマニュアルを整備し、園内体制を確立する	エ 危険を予測し、危機管理のためのマニュアルを整備し、園内体制を確立する
保健衛生・安全対策 ①～⑤ 制度や政策の動向	イ 家庭や地域と連携を図りながら、安全や命を守るために指導を行う		ウ 園全体で安全教育が行われるよう、必要に応じて職員の指導・支援をする	エ 地域の実態に応じて子どもの安全教育や防災等について、職員や保護者と協働して取組を進める
乳児保育① 幼児教育①	イ 自己課題をもって研修に参加するとともに、園内研修において後輩と園長等の考えをつなぐ	ウ 自己課題をもって研修に参加するとともに、園内研修において中心的役割を果たし、質の向上を図る	エ 常に向上心をもって取り組み、園全体の動きを把握しながら職員研修のマネジメントをする	オ 一人一人の職員の自己研鑽の場を確保し、園全体の学び合う雰囲気をつくる
保育実践④⑤	ウ 個々の育ちに応じた保育が展開されるための教材の準備をすするとともに、後輩の相談にも応じる	エ 後輩と必要な教材について具体策を一緒に考え、助言・指導する	オ 教材研究や、やりたいことが実現できる教材の提案をするなど各職員が教材研究を楽しむ雰囲気をつくる	カ 園全体の教材に目を配り、必要に応じて指導・助言し、豊かな園環境をつくる

## 2 キャリアステージにおける資質・指導力

保育者としての成長に、研修は欠かせません。キャリアステージに応じた研修を積み重ねることを通して、資質・指導力を不断に向上させていくことは、保育者としての使命です。

まずは、自身のキャリアステージにおける資質・指導力を把握するとともに、日々の実践を振り返ってみましょう。



実際に評価を行う際は、「資料」に示している「シート2」(P49から)をご活用ください。

そして、他のステージでは、どのような資質・指導力が求められているのかも見てみましょう。自身のステージまでにどのような力を付けながら経験を積み重ねていくとよいのか、後輩等が確かな力を付けていくことができるようにどのような視点で関わっていくことが求められているのかを考え、園内における人材育成が日常的に行われることが大切です。

### (1) 基礎ステージ

新規採用保育者と5年未満の保育者を基礎ステージとしています。

また、このステージでは下記に示した保育者も評価の対象としています。

#### 【新規採用保育者】

- ・初めて子どもと触れ合う保育に携わる保育者（臨時職員等を含む）
- ・初めてクラス担任を一人で行うようになった保育者（臨時職員等を含む）

#### 【5年未満の保育者】

- ・上記以外の臨時職員等



◆経験年数からすると、**このステージではない保育者**もいると思いますが、実践を振り返る視点から今のご自身を一度振り返ってみましょう。

◆数回の実施で必要がなくなる方もいると思います。その場合は、本来のステージの項目を評価するなど、**柔軟に運用**してください。

◆**臨時職員等については**、チェックを行うことで乳幼児期における教育及び保育の大事な視点を確認でき、実践力の向上につながることから、**必要な項目を取り出すなどの工夫**をしながら実施していきましょう。



#### ① 新規採用保育者

新規採用保育者は、一年間で保育に係る業務全般の基礎的知識を身に付け、実践に結び付けていく力を付けていくことが大切になります。

#### ② 5年未満の保育者

5年未満の保育者は、それまでに身に付けた知識と力を基にして、見通しをもって教育及び保育ができるよう、実践の幅を広げていくことが大切になります。

## (2) 中堅ステージ

5年～10年未満の保育者と中堅保育者（10年以上）を中堅ステージとしています。

### ①5年～10年未満の保育者

5年～10年未満の保育者は、身に付けた知識や技術を生かし、実践力を高める工夫をすることが大切になります。

### ②中堅保育者（10年以上）

中堅保育者は、実践を通して手本となるよう、全園的な視野に立った資質・指導力を身に付けていくことが大切になります。



「中堅ステージ」のキャリアステージシートには、**基礎ステージの保育者の『手本になる』**といった具体的な行動例が多く見られます。  
「急に責任が重くなってきた」と感じられることもあるかもしれませんが、これまでの経験を生かしながら、**基礎ステージの保育者と「ともに考える」という姿勢**で取り組むことが、何よりも大切な手本となります。



## (3) 管理職ステージ

主任・教頭等と所長・園長を管理職ステージとしています。

### ①主任・教頭等

主任・教頭等は、人材育成を行うとともに、園長を補佐して園の教育・保育目標の実現に向けた取組を推進していくことが求められます。

### ②所長・園長

所長・園長は、園の経営方針を示して組織的な運営を行うとともに、地域や関係機関等と連携した取組を進めていくことが求められます。



「管理職ステージ」のキャリアステージシートには、『職員を見守り、園の経営者としての方向性を示している（それぞれの項目に対して）』といった具体的な行動例が見られます。  
P28～P37を通して、**すべてのステージの行動例を参考にしながら、一人一人の保育者に応じたアドバイス**をしていきましょう。





(4) キャリアステージにおける資質・指導力シート

		【基礎ステージ】		【中堅ステージ】
		新規採用保育者	5年未満の保育者	5年～10年未満の保育者
		指導力向上に向けての自己診断	指導力向上に向けての自己診断	指導力向上に向けての自己診断
		行動目標(求められる基本的な行動)	行動目標(求められる基本的な行動)	行動目標(求められる基本的な行動)
保育者が身に付けるべき力	① 子どもの構成を主体的な学び(環境の保障)するための	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育室の換気、植物や生き物の世話等、心地よい保育室環境を毎日整えている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あたたかなくつろぎの場やいきいきと活動できる場等、生活全体を捉え、様々な活動に取り組むことができる保育室の環境を工夫している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園内外の様々な環境を保育に取り入れ、豊かな体験ができるようにしている</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画に沿って、遊具や用具等の物的な環境に配慮している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の展開に沿って、遊具や用具等の物的な環境を構成している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の保育室も含めて美的環境・保健衛生に配慮している</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育室の美的環境・保健衛生に配慮している(整理・整頓、手洗い場、ゴミ箱、ピアノの上等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育室の美的環境・保健衛生に配慮している(整理・整頓、手洗い場、ゴミ箱、ピアノの上等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの姿を踏まえ、改めて5領域の視点で環境を構成している</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・一日の活動に必要な遊具・用具、素材等の準備ができています</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各年齢の子どもの発達を見通して、子どもの主体的な活動を引き出す環境の構成ができています</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの主体性とねらいとのバランスを考えて、環境の構成を工夫している</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・登園時に子どもの興味・関心に合わせた遊びが始まる保育室の環境を準備している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの活動や活動の状況に応じて環境の再構成を行っている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの発想や願いを受け止め、子どもと共に環境をつくっている</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの実態を把握し、保育のねらいに即して、自分なりに工夫した環境構成をしている(遊びの場、必要な教材の準備等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの興味や関心を丁寧に読み取り、明日の遊びに向けて環境を再構成している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊具や用具、素材等についての教材研究を深めている</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・反省・記録から、適切な環境構成であったかを振り返り、次の日の環境の構成を構想している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然の変化や園行事等、1年間を見通しをもって環境構成ができています</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の保育室も視野に入れながら、人権に配慮した環境を整えている</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権に配慮した保育室の環境を整えている(掲示物、名前の表示、性差等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの実態に基づいた保育のねらいに即して、自分なりに工夫した環境構成をしている(遊びの場、必要な教材の準備等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節やその時期に大切にしたいこと等を踏まえ、子どもの感性をくすぐるような壁面等、環境が整えられている</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本棚に置く絵本等を子どもの興味・関心や季節に応じて変化させている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権に配慮した保育室の環境を整えている(掲示物、名前の表示、性差等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他学級の活動や保育の中で大切にしていることを知り、保育の環境構成の設定や調整をしている</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節や遊びに応じて、子どもの作ったものや自然物を取り入れて壁面等を構成し、変化させている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育のねらい・内容に合わせて、絵本棚に置く絵本等を変化させている</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びの経過が確認できたり、次の遊びにつながりやすいような壁面等の工夫をしている</li> </ul>		
ねらい一人一人に適した子どもの個性や発達(援助)	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明るい笑顔で子どもを迎え、一人一人とコミュニケーションをとることに努めている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明るい笑顔で子どもを迎え、一人一人とコミュニケーションをとっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団の中で一人一人のその子らしさが大切にされるコミュニケーションを心がけて行っている</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・明るく元気に子どもに接し、一緒に遊んでいる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の発達の把握ができ、適切なねらいをもって援助をしている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の特性や発達を捉え、適切なねらいをもって援助をしている</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の家庭での生活や経験に合わせた援助を大切にしている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・反省・評価や記録の整理を通して、子ども理解を深めている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な実践の中で、状況に応じた柔軟な指導ができています</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的な計画・教育課程や指導計画について、分からないところは同僚や上司に尋ねる等して、理解しながら実践につなげている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の実践を通して、子どものものや人との関わりを豊かにするための多様な援助を知る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人に応じて、家庭と連携して、基本的な生活習慣の定着や様々な人やもの、事象への興味や関心を高めるための援助を工夫している</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらいを達成するために必要な援助を構想している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭での多様な生活や経験に合わせて援助を行い、主体性をもって意欲的に園での生活や遊びに取り組めるようにしている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的な計画・教育課程等を十分に理解し、育ちに沿ったねらいのもと、援助を工夫している</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの行動とその原因について、同僚や上司の力を借りて理解している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的な計画・教育課程や指導計画について、理解しながら実践につなげている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域等のねらいを踏まえ、年間を通して計画的に保育を進めている</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの行動とその原因に合わせて、援助を工夫している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの行動とその原因や発達について理解し、その援助を工夫している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人のその子らしさを大切に、必要な援助を丁寧に探っている</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びの片付けや身辺自立に向けた生活習慣に関わる指導を工夫している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの変化を敏感に受け止め、個性を把握し認めながら対応をしている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常に、その子どもと周りの子どもとの関係を意識しながら、集団の中で一人一人を生かした援助ができています</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・一日の終わりに、記録を通して子どもの発達への理解を深め、適切な援助であったかを振り返っている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びの片付けや身辺自立に向けた生活習慣に関わる指導が適切にできています</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記録を通してその子らしさを生かした適切な援助であったかを保育のねらいとともに振り返っている</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・月案や週・日案等の記録の振り返りや整理を通して、子どもの発達を捉えている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども同士の関係が育つ働きかけに心がけ、安定した仲間関係を育てている</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一日の終わりに、記録を通して子どもの発達とねらいに即した援助であったかを振り返っている</li> </ul>			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの子どもとの関わりを意識しながら、反省記録をまとめている(対象化)</li> </ul>			

【中堅ステージ】	【管理職ステージ】	
中堅保育者(10年以上)	主任・教頭等	所長・園長
指導力向上に向けての自己診断	指導力向上に向けての自己診断	指導力向上に向けての自己診断
行動目標(求められる基本的な行動)	行動目標(求められる基本的な行動)	行動目標(求められる基本的な行動)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年合同や異年齢の実践を積極的に取り入れ、保育環境に変化をつくっている ※学年…同一年齢クラス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園の特色や課題を整理し、よりよい環境にしようとする意識している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園評価を通して、園の特色、地域の実態と、それらと子どもたちの育ちを関連させ、園環境の課題を整理している</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の保育室や園庭も含めて美的環境・保健衛生に配慮している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園全体の美的環境・保健衛生に配慮できている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園全体の美的環境・保健衛生に配慮し、必要に応じて工夫・改善のための予算の確保をしている</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践を通して、環境の構成や再構成の見本となっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所保育指針・幼稚園教育要領等で述べられている「環境を通して行う教育・保育」を理解し、職員に周知している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所保育指針・幼稚園教育要領等で述べられている「環境を通して行う教育・保育」を理解し、職員に周知している</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の子どもの発達段階を踏まえ、子どもが様々なものに興味や関心をもち、主体的に取り組むことができる環境を保育室以外にも目を向けて構成している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各クラス担任の環境の構成に指導的な立場でアドバイスしている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的な計画や教育課程の評価・改善を通して、園環境の改善をしている</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・後輩や同僚と一緒に、遊具や用具、素材等についての教材研究を深めている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員との話し合いをもとに、年間指導計画の評価・改善をしている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園や子どもの課題等に応じた必要な環境が整っているか見極め、指導・助言ができている</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の保育室や園庭も視野に入れながら、人権に配慮した環境を整えている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園外の環境を活用し、地域の人・もの・施設等の活用を促している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園外の環境を活用し、地域の人・もの・施設等の活用をしている</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・他学級の活動や保育の中で大切にしていることを知り、保育の環境構成の設定や調整をしている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時代や子どもを取り巻く環境の変化(遊びの時間・空間・人との関わりの減少等)に対応した環境について、提言できている(ICTの活用等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時代や子どもを取り巻く環境の変化(遊びの時間・空間・人との関わりの減少等)に対応した環境について、提言できている(ICTの活用等)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・園行事等園全体で取り組む活動の環境構成では、中心的な役割を果たす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園長の考えと職員の意見を考慮して、園目標の実現に向けた具体的な取組の構想を園長や職員に提言している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的な計画の作成や教育課程の編成及び実施にあたって、園内外の環境を熟知し、課題を捉えた園経営目標の設定をしている</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園経営の特色ある園づくりに向け、園長を補佐し、園内外の環境を知り、課題に向けて園長に考えを述べている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員を見守り、園の経営者としての方向性を示している(それぞれの項目に対して)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎ステージの項目を管理し、指導している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員が組織の一員としてそれぞれの立場で活躍しているか把握し、必要に応じて導いている(それぞれの項目に対して)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団の中で一人一人のその子らしさが大切にされるコミュニケーションができている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の子どもの内面を理解し、必要に応じた援助が適切に実施されているか把握し、指導している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の子どもの内面を理解し、必要に応じた援助が適切に実施されているか把握し、指導している</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・常に後輩の手本となっていることを意識して、一人一人の特性や発達を捉え、適切なねらいをもって援助をしている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園全体で一人一人のその子らしさが大切にされる援助になるよう、指導・助言を行っている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園全体で一人一人のその子らしさが大切にされる援助になるよう、指導・助言ができている</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別な配慮を必要とする子どもの受け入れがスムーズにできている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年齢や期による発達を見極め、遊びと育ちを系統的に理解をし、指導している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年齢や期による発達を見極め、遊びと育ちを系統的に理解し、指導している</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人に応じて、家庭と連携して、基本的な生活習慣の定着や様々な人やもの、事象への興味や関心を高めるための援助を工夫している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの発達を通して記録を分析し、適切な助言をしている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの発達を通して記録を分析し、適切な指示ができている</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の経験による発達の違いを理解し、全体的な計画・教育課程等を見通したねらいをもって援助している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎ステージの項目を管理し、指導している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員がそのキャリアに応じて一人一人に応じる指導ができるための研修の場をつくっている</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域等のねらいを踏まえ、年間を通して計画的に保育を進めている</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもや保護者のニーズや満足度を把握している</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人のその子らしさを大切に、必要な援助を丁寧に行っている</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員を見守り、園の経営者としての方向性を示している(それぞれの項目に対して)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・異年齢の交流や合同の保育場面等でも、一人一人の特性や発達を踏まえた援助ができている</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員が組織の一員としてそれぞれの立場で活躍しているか把握し、必要に応じて導いている(それぞれの項目に対して)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・記録を通してその子らしさを生かしながら、子ども同士の育ち合いを促す適切な援助であったかを保育のねらいとともに振り返っている</li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自身の実践や記録を基に後輩の悩みや相談にのっている</li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・園内研修等で、自らの子どもとの関わりについて積極的に語りながら、若年保育者の指導ができている</li> </ul>		

		【基礎ステージ】		【中堅ステージ】
		新規採用保育者	5年未満の保育者	5年～10年未満の保育者
		指導力向上に向けての自己診断	指導力向上に向けての自己診断	指導力向上に向けての自己診断
保育者が身に付けるべき力		行動目標(求められる基本的な行動)	行動目標(求められる基本的な行動)	行動目標(求められる基本的な行動)
③	ねらいに沿って指導計画を適切に作成し、保育展開・改善する力 (指導計画の作成と保育展開・評価)	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の育ちに合った保育のねらいを設定している(子ども側の視点でねらいを立てている)</li> <li>一日の生活の流れをつくることができている(個々の遊びやグループでの遊びと学級全体の活動、動と静のバランス等)</li> <li>一人一人を大切にしながら、学級全体に目を向けた保育をしている</li> <li>子どもの思いに沿った援助と、よいことと悪いことを伝えていく指導の見極めを心がけ、子どもに関わっている</li> <li>保育所保育指針・幼稚園教育要領等を拠り所にしなが、ねらい、内容、環境の構成、援助の関係が分かり、指導計画が作成できている</li> <li>反省・評価をもとに、次の日の指導計画を作成することができている</li> <li>行事(運動会・表現活動等)に向けた見通しのある保育展開に努めている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの状態や発達を時期を理解し、保育のねらいを設定している(子ども側の視点でねらいを立てている)</li> <li>ねらいに沿った保育展開が適切にできている(個々の遊びやグループでの遊びと学級全体の活動等)</li> <li>一人一人を大切にしながら、学級全体に目を向けた保育をしている</li> <li>子どもの思いに沿った援助と、よいことと悪いことを伝えていく指導の見極め、子どもに関わっている</li> <li>保育所保育指針・幼稚園教育要領等を拠り所にしなが、週案と日案、長期と短期の指導計画との関係を踏まえ、発達の見通しをもった実践が展開できている</li> <li>反省・評価を重ねながら、発達の時期や年齢を意識した保育が実践できている</li> <li>行事(運動会・表現活動等)に向けた見通しのある保育展開を適切にしている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自園のねらいや内容を子どもたちがどの程度達成しているか意識し、自らの保育のねらいや内容の在り方を見直している</li> <li>ねらいに沿った保育を展開しつつ、子どもの状態に応じ、柔軟性をもって対応している</li> <li>予想外の子どもの活動を受け止め、保育を展開することができている</li> <li>経験を通して得たことを繰り返すだけではなく、新たなアイデアや感性で保育を工夫をしている</li> <li>集団における規範意識の育成や望ましい人間関係づくりを保護者にも知らせながら取り組んでいる</li> <li>子どもの発達や姿から保育を振り返って記録し、ねらいに即した評価を行い、週日案等の改善を行っている</li> <li>普段の遊びから行事(運動会・表現活動等)につながっていく保育展開を適切にしている</li> <li>チーム保育を進めながら、他の職員と積極的に話し合い、実践を共有している</li> </ul>
④	地域の資源を活用する力 (地域との連携)	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域で活躍している方、地域の行事、公園や児童館の場所等の地域の資源を活用するための情報収集に努めている</li> <li>地域の自然等を取り入れ、地域のよさを保育に生かしている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報収集した地域で活躍している方、地域の行事、公園や児童館の場所等の地域の資源を保育に活用している</li> <li>地域の自然や文化を取り入れ、保育に生かしている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭や地域での遊びや生活も考慮し、地域的人的・物的資源を活用しながら指導計画の立案や指導を行っている</li> <li>地域との関わりを深め、地域の自然や文化を自らの保育に生かしている</li> </ul>
⑤	一人一人の育ちを必要とされる力 (関係機関との連携)	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別な配慮が必要な子どもや集団生活において困難さをもつ子どもについて、職員との連携の中でその子の困難さを理解しようとしている</li> <li>子どもの情緒の安定を図るため、丁寧な関わりをしている</li> <li>要保護家庭、要支援家庭、ハイリスク家庭等の子どもや保護者の状況を捉えようとしている</li> <li>関係機関との連携の必要性を知り、内容に沿った取組と記録をしている(個別の指導計画等の作成)</li> <li>特別な配慮を必要とする子どもや厳しい環境(家庭支援の必要な環境)にある子どもへの対応について、職員との連携の中で関係機関との連携をとっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別な配慮が必要な子どもや集団生活において困難さをもつ子どもについて、職員との連携の中でその子の困難さを理解している</li> <li>子どもの情緒の安定を図るため、保育を工夫し、可能な限り子どもの困難さを取り除いている</li> <li>要保護家庭、要支援家庭、ハイリスク家庭等の子どもや保護者の変化に気付くことができる</li> <li>関係機関との連携に向けて、的確な記録とまとめができる(個別の指導計画等の作成)</li> <li>特別な配慮を必要とする子どもや厳しい環境(家庭支援の必要な環境)にある子どもへの対応について、職員との連携の中で関係機関との連携を取っていくことができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別な配慮が必要な子どもや集団生活において困難さをもつ子どもの状況や教育・保育ニーズを把握している</li> <li>様々な種類の障害について専門的知識を有し、可能な限り子どもの困難さを取り除く等、保育を工夫している</li> <li>要保護家庭、要支援家庭、ハイリスク家庭等を早めに発見し(気づき)、早期の支援につなげることができる</li> <li>園内で情報共有しながら関係機関との連携に必要な計画の立案や準備、記録、評価を的確に行うことができる(個別の指導計画等の作成と活用)</li> <li>関係諸機関を把握し、実態に応じた対応や連携が取れるようにしている</li> </ul>
⑥	発達や学びの連続性を見通し、接続する力 (関係機関との連携)	<ul style="list-style-type: none"> <li>連携の必要性を知り、職員と一緒に学びや発達を見通した具体的な計画について学んでいる</li> <li>異校種の教員や保育者と協働して、交流活動を進めるように努めている</li> <li>地域の保育所・幼稚園等や小学校の教育・保育活動に関心をもっている</li> <li>園の全体的な計画・教育課程を職員との話し合いを通して理解し、発達の道筋に沿った保育の展開をしている</li> <li>乳幼児期の発達の特性を児童期の学びの特性との違いの中で理解できるように努めている</li> <li>保育所保育指針・幼稚園教育要領等について理解を深める研修会等に参加している(5領域・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿等)</li> <li>小学校との連携を視野に入れ関係指導資料を読む等、情報収集に努めている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>連携の必要性が分かり、学びや発達を見通した計画に沿って実施・参加している(子ども同士や職員同士の交流)</li> <li>異校種の教員や保育者と協働して、交流活動を進めている</li> <li>園の全体的な計画・教育課程を理解し、乳幼児期の発達の道筋に沿った保育の展開をしている</li> <li>乳幼児期の発達の特性を児童期の学びの特性との違いの中で理解している</li> <li>保育所保育指針・幼稚園教育要領等について理解を深める研修会等に参加している(5領域・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿等)</li> <li>小学校との連携及び接続を視野に入れ関係指導資料を読む等、情報収集に努めている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>連携の必要性を理解し、学びや発達を見通した計画に沿って実施・参加し、内容の充実に向けた話し合いをしている(子ども同士や職員同士の交流)</li> <li>他の園、小学校の教員とコミュニケーションをとり、必要な計画や、実施、評価が適切にできている</li> <li>幼児教育において育みたい資質・能力を意識した各年齢における経験や育ちを把握した保育を展開している</li> <li>各年齢の経験や育ちが小学校でのどのような姿につながっていくのかを理解しながら、乳幼児期にふさわしい活動の展開をしている</li> <li>保育所保育指針・幼稚園教育要領等、小学校学習指導要領について理解を深める研修会等に参加している(5領域・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿、スタートカリキュラム等)</li> <li>保幼小接続期カリキュラムについての理解を深める情報収集に努め、具体的な計画の作成・実施につなげている</li> </ul>

【中堅ステージ】	【管理職ステージ】	
中堅保育者(10年以上)	主任・教頭等	所長・園長
指導力向上に向けての自己診断	指導力向上に向けての自己診断	指導力向上に向けての自己診断
行動目標(求められる基本的な行動)	行動目標(求められる基本的な行動)	行動目標(求められる基本的な行動)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自園のねらいや内容を子どもたちがどの程度達成しているかを評価するとともに、自らの保育のねらいや内容の在り方を見直ししている</li> <li>・後輩の手本となるよう、ねらいに沿った保育を展開しつつ、子どもの状態に応じ、柔軟性をもって対応している</li> <li>・日々の実践の中で、若年保育者と一緒に保育をしながら、その指導にあたっている</li> <li>・子どもの興味や関心を理解し、多彩な想像力と柔軟な発想で、子どもの経験を豊かにすることができている</li> <li>・教材や指導方法を創意工夫して、子どもが意欲的に活動に取り組むことができるような環境の構成や援助をしている</li> <li>・集団における規範意識の育成や望ましい人間関係づくりに、保護者と一緒になって取り組んでいる</li> <li>・日々のねらいに即した記録や週日案の改善から、一人一人の発達に必要な経験が得られる保育を創造している</li> <li>・後輩の手本となっていることを意識し、普段の遊びから行事(運動会・表現活動等)につながっていく保育展開を適切に行っている</li> <li>・園行事等で中心的な役割を担いながら、チーム保育を進めている</li> <li>・園内研修を通して、保育の見直しを図っている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的な計画・教育課程を、自園や社会の子どもの実態を踏まえて検証し、必要に応じて適切な見直しをしている(カリキュラム・マネジメントの適切な実施)</li> <li>・保育所保育指針・幼稚園教育要領等を振り所にしながらか、指導計画の立案及び反省・評価について適切な指導・助言を行っている</li> <li>・園長の補佐をし、普段の遊びや生活につながる行事(運動会・表現活動等)になるよう、指導・助言を行っている</li> <li>・保育技術を確立し、指導・助言している</li> <li>・園内研修や打ち合わせ等を通して、職員がねらいに沿って保育ができるよう指導している</li> <li>・若年保育者がねらいに沿った保育ができるようにしている</li> <li>・園長の補佐をし、園の教育・保育目標の実現に向けて、具体的な目標を定め、職員と協働している</li> <li>・園長の補佐をし、職員一人一人の自律性を尊重し、その職員らしく考えた保育が展開できるように側面からの支援をしている</li> <li>・基礎ステージの項目を管理し、指導している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員と積極的に話し合いながら、全体的な計画・教育課程の評価・改善と共通理解に努めている(カリキュラム・マネジメントの適切な実施)</li> <li>・保育所保育指針・幼稚園教育要領等を振り所にしながらか、指導計画や記録について適切な指導・助言を行っている</li> <li>・普段の遊びや生活につながる行事(運動会・表現活動等)になるよう、指導・助言を行っている</li> <li>・保育技術を確立し、指導・助言できている</li> <li>・園の教育・保育目標の実現に向けて、具体的な目標を定め、職員と協働している</li> <li>・職員一人一人の自律性を尊重し、その職員らしく考えた保育が展開できるように側面からの支援をしている</li> <li>・目標の達成度について園評価等を通して見直し、修正している</li> <li>・職員を見守り、園の経営者としての方向性を示している(それぞれの項目に対して)</li> <li>・職員が組織の一員としてそれぞれの立場で活躍しているか把握し、必要に応じて導いている(それぞれの項目に対して)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭や地域での遊びや生活も考慮し、地域の人的・物的資源を活用しながら指導計画の立案や指導を行っている</li> <li>・保育を通して地域との連携を深めている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のよさや伝統的な文化を理解し、職員に伝えていく</li> <li>・地域の人的・物的資源を活用し、子どもが地域社会の中で活動の機会を得られるための取組を園長とともに進めている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のよさや伝統的な文化を理解し、職員に伝えていくとともに、計画的に保育に取り入れることができるよう、指導・助言を行っている</li> <li>・地域の資源についての情報収集に努めながら、地域の人的・物的資源を活用し、子どもが地域社会の中で活動の機会を得られるための取組を進めている</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別な配慮が必要な子どもや集団生活において困難さをもつ子どもの状況や教育・保育ニーズを把握している</li> <li>・様々な種類の障害について専門的知識を有し、可能な限り子どもの困難を取り除くことができるよう、他学級への助言を行っている</li> <li>・要保護家庭、要支援家庭、ハイリスク家庭等を早めに発見し(気づき)、早期の支援につなげることができる</li> <li>・子育てに関わる専門機関(児童相談所やコーディネーター、保健所等)と連携を取ることができる</li> <li>・園内で情報共有しながら関係機関との連携に必要な計画の立案や準備、記録、評価を的確に行うことができる(個別の指導計画等の作成と活用)</li> <li>・関係諸機関を把握し、実態に応じた対応や連携が取れている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別な配慮が必要な子どもや集団生活において困難さをもつ子どもについて職員との連携の中で十分に把握している</li> <li>・要保護児童や虐待についての制度や支援システムを理解し、児童相談所を中心とした関係機関との連携ができている</li> <li>・園長を補佐し、特別支援教育やその他関係機関との必要な連携について、その情報を収集したり円滑な連携を図ることができる</li> <li>・様々な関係機関の特性や業務内容について知識を得、必要に応じて専門機関への橋渡しができる(個別の指導計画等の作成と活用への助言)</li> <li>・園長を補佐し、様々な関係機関や地域との信頼関係を築き、園経営に生かしている</li> <li>・特別な配慮を必要とする子どもについて、必要な関係機関について情報を得、信頼関係を築いている</li> <li>・特別な配慮を必要とする子どもについて、小学校と入学前から連携し、就学時引き継ぎシート等も活用できるよう働きかける</li> <li>・基礎ステージの項目を管理し、指導している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別な配慮が必要な子どもや集団生活において困難さをもつ子どもについて職員との連携の中で十分に把握している</li> <li>・虐待や虐待の疑われるケースについて、通告や相談と適切な手続を適切なタイミングで実施することができる</li> <li>・特別支援教育やその他関係機関との必要な連携について、その情報を収集したり円滑な連携を図ることができる</li> <li>・様々な関係機関の特性や業務内容について知識を得、必要に応じて専門機関との連携がとれている(個別の指導計画等の作成と活用への指導・助言)</li> <li>・様々な関係機関や地域との信頼関係を築き、園経営に生かしている</li> <li>・特別な配慮を必要とする子どもについて、必要な関係機関について情報を得、信頼関係を築き、連携を密にしている</li> <li>・特別な配慮を必要とする子どもについて、小学校と入学前から信頼関係を築き、就学時引き継ぎシート等も活用し、連携を密にしている</li> <li>・職員を見守り、園の経営者としての方向性を示している(それぞれの項目に対して)</li> <li>・職員が組織の一員としてそれぞれの立場で活躍しているか把握し、必要に応じて導いている(それぞれの項目に対して)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・連携の必要性を理解し、学びや発達を見通した計画を作成したり、実施に向けた働きかけを行ったりしている(子ども同士や職員同士の交流)</li> <li>・小学校と連携を図り、合同研修会等に参画している</li> <li>・幼児教育において育みたい資質・能力を意識した各年齢における経験や育ちを把握し、長期的な見通しをもった保育を展開している</li> <li>・各年齢の経験や育ちが小学校でのどのような姿につながっていくのかを理解し、乳幼児期にふさわしい活動の展開をしている</li> <li>・保育所保育指針・幼稚園教育要領等、小学校学習指導要領について理解を深め、後輩の質問等に応じ(5領域・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿、スタートカリキュラム等)</li> <li>・保幼小接続期カリキュラムについての理解を深める情報収集に努め、具体的な計画の作成・実施を行っている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連携の必要性について明確に把握し、職員と一緒に具体的な計画を行い、園長に提言している</li> <li>・自園の課題や特性、教育方針等の条件を考慮して、保育所・幼稚園等、小学校に対する働きかけができている</li> <li>・乳児期から幼児期、幼児期から児童期への発達を生涯発達の過程として捉え、その望ましい在り方や援助の仕方考えることができる(幼児教育において育みたい資質・能力についての指導)</li> <li>・保育所保育指針・幼稚園教育要領等、小学校学習指導要領について理解し、連携・接続に関する知識を習得し、職員に助言している</li> <li>・保幼小接続期カリキュラムについて理解し、自園の課題等に応じたものになっているか見極め、作成・実施にあたっている(5領域・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿、スタートカリキュラム等)</li> <li>・基礎ステージの項目を管理し、指導している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連携の必要性について明確に把握し、関係機関に積極的に働きかけている</li> <li>・自園の課題や特性、教育方針等の条件を考慮して、保育所・幼稚園等、小学校に対する働きかけの方針を構築している</li> <li>・乳児期から幼児期、幼児期から児童期への発達を生涯発達の過程として捉え、その望ましい在り方や援助の仕方考えることができる(幼児教育において育みたい資質・能力についての指導)</li> <li>・保育所保育指針・幼稚園教育要領等、小学校学習指導要領について理解し、連携・接続に関する知識を習得し、職員に対し周知している</li> <li>・保幼小接続期カリキュラムについて理解し、自園の課題等に応じたものになっているか見極め、作成・実施にあたり、職員に指導・助言できている(5領域・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿、スタートカリキュラム等)</li> <li>・職員を見守り、園の経営者としての方向性を示している(それぞれの項目に対して)</li> <li>・職員が組織の一員としてそれぞれの立場で活躍しているか把握し、必要に応じて導いている(それぞれの項目に対して)</li> </ul>

		【基礎ステージ】		【中堅ステージ】		
		新規採用保育者	5年未満の保育者	5年～10年未満の保育者		
		指導力向上に向けての自己診断		指導力向上に向けての自己診断		
		行動目標(求められる基本的な行動)	行動目標(求められる基本的な行動)	行動目標(求められる基本的な行動)		
保育者が身に付けるべき力	⑦ 在園児の保護者に対して子育てを支援する力(保護者への支援)	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者に進んで挨拶したり話しかけたりして、話しやすい雰囲気づくりに努めている</li> <li>登降園時に子どもの遊びや生活の様子を保護者に伝えている</li> <li>子育て支援、親育ち支援について基本的な考え方を理解している</li> <li>保護者からの質問や相談に対し、上司や担当者等に相談しながら誠実な対応ができるように努めている</li> <li>一人一人の子どもや学級の遊び、友達との関わり、生活の様子を把握し、連絡帳やお便り、登降園時等を通して保護者に知らせている</li> <li>行事等への参加の呼びかけをする等、園に対して関心をもってもらうよう努めている</li> <li>感染症防止対策等を踏まえた園行事等の在り方について、保護者にお便り等を通して伝えている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者が相談しやすいように支援者としての姿勢を明示するとともに、話しやすい雰囲気をつくることのできている</li> <li>子どもと親のよりよい関係づくりを支援する遊びや関わり方を伝えたり、行動の見本を示したりすることができる</li> <li>保護者との良好な関係を築き、本音で話せる関係を築くことのできる</li> <li>保護者からの質問や相談に対し、上司や担当者、同僚等に相談しながら誠実な対応ができています</li> <li>一人一人の子どもや学級の遊び、友達との関わり、生活の様子を把握し、連絡帳やお便り、登降園時等を通して保護者に知らせている</li> <li>行事等への参加の呼びかけをする等、園に対して関心をもってもらうよう努めている</li> <li>感染症防止対策等を踏まえた園行事等の在り方について、保護者にお便りや口頭等で伝えたり説明したりできている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>積極的に保護者とコミュニケーションをとり、保育の理解を得ている</li> <li>カウンセリングやソーシャルワークの技術の活用に努め、保護者からの相談を受容的に受け止めることができる</li> <li>保護者からの悩みや心配ごと等の相談や突発的な問題について担当者等に相談し、園内で情報を共有しながら適切に対応できている</li> <li>子どもの発達を見通した姿や今の姿を認めたお便りや口頭での説明が、保護者に分かりやすくできている</li> <li>保護者が無意識にしていることの中に、子どもへのよりよい関わり方があることを知らせている</li> <li>食事、排泄、遊び、子どもとの関わり方等、一人一人の子どもや保護者の状況に応じた適切な助言をすることができる</li> <li>活動を工夫しながら、保護者同士のつながりがもてるよう支援している</li> <li>感染症防止対策等を踏まえた園行事等の在り方や保護者との連携について、同僚と一緒に考えながら、具体的な提案ができています</li> </ul>		
		⑧ 地域の子育て家庭等を支援する力(地域の子育てにおける子育て支援)	<ul style="list-style-type: none"> <li>園庭開放や体験保育等に参加した保護者に対して、気持ちのよい挨拶や温かい雰囲気と接することができる</li> <li>先輩や同僚と共に、行事等への参加の呼びかけをする等、園に対して関心をもってもらうよう努めている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園庭開放や体験保育等に参加した保護者に対して、気持ちのよい挨拶や温かい雰囲気と接することができる</li> <li>行事等への参加の呼びかけをする等、園に対して関心をもってもらうよう努めている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園庭開放や体験保育等に参加した保護者に対して、親しみをもって応じ、安心して気持ちよく利用できるような雰囲気づくりができる</li> <li>地域の保護者のニーズに応じて適切な情報提供や保護者への助言ができる</li> </ul>	
			⑨ 学級経営に関わる事務を的確に処理する力(学級経営)	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任としての事務処理の仕方が分かっている</li> <li>出席簿や健康に関する書類、安全点検表等日々の記載について、先輩や上司のアドバイスを受けながら行っている</li> <li>児童票や指導要録、育成記録等への記載について、先輩や上司のアドバイスを受けながら期限内に行っている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>出席簿や健康に関する書類、安全点検表等日々の記載が適切にできている</li> <li>児童票や指導要録、育成記録等への記載を期限内に適切に行っている</li> <li>学級事務に気を配り、提出期限や処理を適切に行っている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>出席簿や健康に関する書類、安全点検表等日々の記載が適切にできている</li> <li>児童票や指導要録・保育要録、育成記録等への記載を期限内に適切に行っている</li> <li>記録の取り方を自分なりに工夫し、子どもの育ちへつなげていくための資料とすることができる</li> <li>園全体の学級事務に気を配り、提出期限や処理の仕方を指導できている</li> <li>子ども達にとって安心感のあるクラス経営ができている</li> </ul>

【中堅ステージ】	【管理職ステージ】	
中堅保育者(10年以上)	主任・教頭等	所長・園長
指導力向上に向けての自己診断	指導力向上に向けての自己診断	指導力向上に向けての自己診断
行動目標(求められる基本的な行動)	行動目標(求められる基本的な行動)	行動目標(求められる基本的な行動)
<ul style="list-style-type: none"> <li>積極的に保護者とコミュニケーションをとり、保護者が気軽に相談しやすい雰囲気をつくることにも、保育の理解を得ている</li> <li>カウンセリングやソーシャルワークの技術を活用し、個々の状況に応じた支援ができる</li> <li>個々の状況に応じた支援のために、園内外の連携協力体制をつくり、課題解決に向けた具体的な支援ができる</li> <li>様々な子育てに関する情報について、適切なものを見極め、理解して情報を発信できる</li> <li>特別な配慮が必要な子どもや配慮が必要な子どもの保護者に対して、不安の軽減や障害受容についての取組ができる</li> <li>後輩の見本となり、活動を工夫しながら、保護者同士のつながりがもてるよう支援している</li> <li>感染症防止対策等を踏まえた園行事等の在り方や保護者との連携について、課題解決に向けた具体的な提案や取組ができている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者が気軽に相談や意見を述べることができる場や環境を整えることができている</li> <li>適切な保護者理解ができ、園長とともに一人一人の保護者に応じた関わりや支援ができている。またそのために必要な知識や技能を習得している</li> <li>保護者との信頼関係を築き、必要に応じて保護者と職員の間立ちをする等、望ましい学級経営や園経営が実施できるようにしている</li> <li>職員からの保護者対応の仕方や悩み等に対して適切に助言をし、情報を共有しながら組織的な関わりに努めている</li> <li>園長を補佐し、機会を捉えて園の教育に関して保護者に説明する等し理解を促している</li> <li>要保護児童の保護者等に対して、関係機関との連携を密にし、必要に応じて協力して支援にあたり、面談や関係機関を紹介したりしている</li> <li>保護者同士がつながることの必要性について理解し、具体的な企画・運営について指示・支援ができている</li> <li>園長を補佐し、保護者との信頼関係の構築に努め、子育てに対する相談や情報提供、保護者同士の交流の場を提供する等、子育て支援のセンター的な役割を担っている</li> <li>基礎ステージの項目を管理し、指導している</li> <li>園長を補佐し、感染症防止対策等を踏まえた園行事等の在り方や、保護者・職員の連携体制について理解を促している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者が気軽に相談や意見を述べることができる場や環境を整え、積極的に働きかけている</li> <li>適切な保護者理解ができ、一人一人の保護者に応じた関わりや支援ができている。またそのために必要な知識や技能を習得している</li> <li>保護者との信頼関係を築き、必要に応じて保護者と職員の間立ちをする等、望ましい学級経営や園経営が実施できるようにしている</li> <li>職員の保護者対応の仕方を見守ったり、状況に応じて言葉を添える等して、指示・支援ができている</li> <li>機会を捉えて園の教育に関して保護者に説明する等し理解を促している</li> <li>要保護児童の保護者等に対して、関係機関との連携を密にし、必要に応じて協力して支援にあたり、面談や関係機関を紹介したりしている</li> <li>保護者同士がつながることの必要性について理解し、園経営に生かされている。また、具体的な企画・運営について指示・支援ができている</li> <li>保護者との信頼関係の構築に努め、子育てに対する相談や情報提供、保護者同士の交流の場を提供する等、子育て支援のセンター的な役割を担っている</li> <li>保護者からの提案について受け止め、解決法を見出し、よりよい環境や関係づくりをしている</li> <li>職員を見守り、園の経営者としての方向性を示している(それぞれの項目に対して)</li> <li>職員が組織の一員としてそれぞれの立場で活躍しているか把握し、必要に応じて導いている(それぞれの項目に対して)</li> <li>感染症防止対策等を踏まえた園行事等の在り方や、保護者・職員の連携体制を整えている</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>園庭開放や体験保育等に参加した保護者に対して、親しみをもって応じ、安心して気持ちよく利用できるような雰囲気づくりができる</li> <li>地域の保護者のニーズに応じて適切な情報を提供し、保護者や後輩への助言ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園庭開放や体験保育等に参加した保護者に対して、親しみをもって応じ、安心して気持ちよく利用できるような雰囲気づくりができている</li> <li>園長を補佐し、地域の保護者が気軽に利用したり、相談したり、保護者同士が交流したりできる場を計画的に設定し、情報を発信している</li> <li>園長を補佐し、地域の子育て支援にあたって、専門機関と連携できる体制を整えている</li> <li>基礎ステージの項目を管理し、指導している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園庭開放や体験保育等に参加した保護者に対して、親しみをもって応じ、安心して気持ちよく利用できるような雰囲気づくりができている</li> <li>地域の保護者が気軽に利用したり、相談したり、保護者同士が交流したりできる場を計画的に設定し、情報を発信している</li> <li>地域の子育て支援にあたって、専門機関と連携できる体制を整えている</li> <li>職員を見守り、園の経営者としての方向性を示している(それぞれの項目に対して)</li> <li>職員が組織の一員としてそれぞれの立場で活躍しているか把握し、必要に応じて導いている(それぞれの項目に対して)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>記録の取り方を自分なりに工夫し、子どもの育ちへつなげていくための資料とすることができている</li> <li>園全体の学級事務に気を配り、提出期限や処理の仕方を指導できている</li> <li>子ども達にとって安心感のあるクラス経営をするとともに、他のクラス担任の見本となっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童票や指導要録・保育要録、公文書等を確認し、適切に取り扱うことができている</li> <li>記録の取り方が身に付けられるよう、指導・助言ができている</li> <li>職員の事務処理を確認し、必要に応じて指導・助言できている</li> <li>個人情報等の取扱い及び管理を適切に実施するとともに、職員への指導ができている</li> <li>職員の指導やクラス経営の悩みや課題にアドバイスをしている</li> <li>園長と協力し、施設の管理と改革・改善を図っている</li> <li>園長と協力し、組織の運営の管理と改革に努めている</li> <li>基礎ステージの項目を管理し、指導している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童票や指導要録・保育要録、公文書等を確認し、適切に取り扱うことができている</li> <li>職員から出された書類について適切に処理されているか確認し、必要に応じて指導・助言ができている</li> <li>個人情報等の取扱い及び管理を適切に実施するとともに、職員への指導ができている</li> <li>保育所保育指針・幼稚園教育要領等に基づき、子どもや保護者、地域のニーズに沿った園経営ができている</li> <li>園運営について園評価等を適切に行う等して、園運営の改善を行っている</li> <li>施設の管理と改善を行っている</li> <li>組織の運営の管理と改革に努めている</li> <li>園の施設や設備、予算の執行や文書管理等を適切に行っている</li> <li>主任等の全項目を把握し、必要に応じて指導・助言している</li> <li>園の書類等の置き場所、保存年数等を明確にし管理している</li> <li>職員を見守り、園の経営者としての方向性を示している(それぞれの項目に対して)</li> <li>職員が組織の一員としてそれぞれの立場で活躍しているか把握し、必要に応じて導いている(それぞれの項目に対して)</li> </ul>

		【基礎ステージ】		【中堅ステージ】
		新規採用保育者	5年未満の保育者	5年～10年未満の保育者
		指導力向上に向けての自己診断		指導力向上に向けての自己診断
保育者が身に付けるべき力		行動目標(求められる基本的な行動)	行動目標(求められる基本的な行動)	行動目標(求められる基本的な行動)
⑩ 園務分掌とその内容を理解し、企画・立案する力(園務分掌)	<ul style="list-style-type: none"> <li>担当した業務について理解ができ、遂行している</li> <li>共通の遊具の安全管理を行う</li> <li>行事等での役割を自覚し、組織の一員として行動できている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担当分掌を責任をもって企画、立案、遂行している</li> <li>担当した業務について振り返り、評価することができる</li> <li>自分の役割を自覚し、組織の一員として責任をもって行動できている</li> <li>園務の一部を担い、園の組織についての理解を深めている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担当分掌を責任をもって遂行するとともに、新たなアイデアをもって改善や提言をしている</li> <li>園全体の運営方針・目標を把握し、職務全般に反映させている</li> <li>園の運営について自分のこととして常に考え、職員会議等においても積極的に前向きな発言ができる</li> </ul>	
	⑪ 上司や同僚と協働して、円滑に園務を遂行できる力(職員間の連携)	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分から進んで職員に明るく挨拶している</li> <li>思いや考えを自分の言葉で伝えることができる</li> <li>先輩や同僚からのアドバイスを素直に受け止めることができる</li> <li>自分から積極的に他の職員との協力・協働に努めている</li> <li>研修を通じて学んだ知見を園内で共有するように努めている</li> <li>困ったときや悩んでいるときに、同僚や上司に相談できる</li> <li>必要に応じて園長や同僚等にきちんと報告、連絡、相談をしている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>明るい挨拶や自身の特技を發揮して、職員集団の中で自分の位置を確立している</li> <li>職員の中で、自分の思いや考えを積極的に伝えている</li> <li>先輩や同僚からのアドバイスを真摯に受け止め、前向きに実践することができる</li> <li>自分から積極的に他の職員との協力・協働ができている</li> <li>後輩の職員の悩みやつますきを一緒に悩んだり考えたり、必要に応じて管理職に伝えたりしている</li> <li>研修を通じて学んだ知見を園内で共有できている</li> <li>必要に応じて園長や同僚等にきちんと報告、連絡、相談をしている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>明るい挨拶や豊かな表情で、職員集団の中で自分の位置を意識した取組をしている</li> <li>同僚からの相談に応じたり、適切な指導・助言ができる</li> <li>自ら進んで園務の遂行を図り、職員間の連携への取組をしている</li> <li>必要に応じて上司等に報告、連絡、相談し、円滑に園務を遂行できるようにしている</li> </ul>

【中堅ステージ】	【管理職ステージ】	
中堅保育者(10年以上)	主任・教頭等	所長・園長
指導力向上に向けての自己診断	指導力向上に向けての自己診断	指導力向上に向けての自己診断
行動目標(求められる基本的な行動)	行動目標(求められる基本的な行動)	行動目標(求められる基本的な行動)
<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの職員に応じて役割分担ができる</li> <li>園運営上の課題の解決に向け、園務分掌等の取組に積極的に参画している</li> <li>園の研究主題に向け、取組や実践、まとめの中心として主体的に参加し取組を進めている</li> <li>個々の状況に応じた支援のために園内での連携協力体制をつくることのできる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園務において必要な企画・立案を行い、円滑な園経営に努めている</li> <li>園務分掌を理解し、それぞれの職員に応じて役割分担し、助言や指導ができています</li> <li>園長を補佐し、職員の関心や立場、負担等を踏まえて、よりよい園務の遂行ができる環境を整備している</li> <li>職員の係の役割が円滑に遂行されているか目を配っている</li> <li>園長の補佐をし、職員が研修に参加しやすい体制を整えている</li> <li>研究の推進や園目標の達成に向けて職員と協働して取り組んでいる</li> <li>必要な情報を積極的に収集・分析し、有効に活用することができている</li> <li>園の教育方針・教育目標について理解し、職員に具体的に、実践的に助言ができています</li> <li>園のニーズに応じた長期・短期の経営方針を理解し、重要度、緊急度、成果等を的確かつ総合的に捉え、職員に指導ができています</li> <li>自園の伝統的な取組の継続と改革に努めている</li> <li>基礎ステージの項目を管理し、指導している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園の教育の方向性や課題を把握し、年度当初に園の経営方針を明確にしている</li> <li>園の教育の方向性や課題に基づき、次年度の園務を企画・立案している</li> <li>園務について進捗状況を把握し、必要に応じて主任等と共に指導・助言している</li> <li>全ての園務を把握し、適材適所に園務を分担し、適切に実行できる環境を整備している</li> <li>役割の明確化や園務分掌の配置を適切に行っている</li> <li>職員の資質・能力の向上のために、研修への参加体制を整えている</li> <li>職員の意見に耳を傾け、研究の推進や園目標の達成に向けて取り組んでいる</li> <li>職員の勤務時間や体調の管理ができています</li> <li>園の教育方針・教育目標について理解し、職員に具体的に、実践的に徹底することができている</li> <li>園のニーズに応じた長期・短期の経営方針を企画立案し、重要度、緊急度、成果等を的確かつ総合的に判断し、園としての方針を決定することができている</li> <li>自園の伝統的な取組の継続と改革に努めている</li> <li>園経営のための特色ある予算編成を工夫している</li> <li>職員を見守り、園の経営者としての方向性を示している(それぞれの項目に対して)</li> <li>職員が組織の一員としてそれぞれの立場で活躍しているか把握し、必要に応じて導いている(それぞれの項目に対して)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>先輩にとって、見本となる保育実践や親育ち支援の実践を通して、具体的な指導・助言ができる</li> <li>職員の組織力が発揮されるような職員間の連携への取組を行い、連携の要となっている</li> <li>必要に応じて上司等に報告、連絡、相談し、円滑に園務を遂行できるようにしている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員一人一人のよさや能力、クラスの状態を把握している</li> <li>職員の健康状態や心身のバランスに気を配り、気になることはすぐに園長に報告している</li> <li>園長を補佐するとともに、職員と信頼関係を築き、職員を支援し、園務を円滑に遂行している</li> <li>園長の補佐をし、職員が研修で学んだことを報告する場を設定している</li> <li>職員を公正・公平に評価し、その評価に応じた適切な指導を、園長を補佐し行っている</li> <li>職員の実態を把握し、資質や能力の向上につながる助言や指導をしている</li> <li>上司の方針を職員が理解しているか把握し、指導している</li> <li>上司の方針を理解し、職員と協力して教育・保育目標の実現を図っている</li> <li>報告、連絡、相談を徹底している</li> <li>基礎ステージの項目を管理し、指導している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員一人一人の多様性やよさを認め、能力を生かし組織力を高めている</li> <li>職員の健康状態や心身のバランスに気を配り、安心できる職場環境を整えている</li> <li>職員とのコミュニケーションを積極的にとり、円滑な意思の疎通が図れている</li> <li>職員と信頼関係を築き、必要に応じて職員を支援し、園務を円滑に遂行している</li> <li>職員が研修で学んだことを報告する場を設定している</li> <li>職員を公正・公平に評価し、その評価に応じた適切な指導を行っている</li> <li>職員のやる気が出るような声掛けや指導をしている</li> <li>職員を信頼し、楽しく学び合い育ち合える職員集団づくりができています</li> <li>報告、連絡、相談を徹底している</li> <li>職員を見守り、園の経営者としての方向性を示している(それぞれの項目に対して)</li> <li>職員が組織の一員としてそれぞれの立場で活躍しているか把握し、必要に応じて導いている(それぞれの項目に対して)</li> </ul>



		【基礎ステージ】		【中堅ステージ】		
		新規採用保育者	5年未満の保育者	5年～10年未満の保育者		
		指導力向上に向けての自己診断	指導力向上に向けての自己診断	指導力向上に向けての自己診断		
		行動目標(求められる基本的な行動)	行動目標(求められる基本的な行動)	行動目標(求められる基本的な行動)		
保育者が身に付けるべき力	⑫ 子どもが安心して過ごすことができる施設や遊具等の安全な環境を整える力 (安全管理)	<ul style="list-style-type: none"> <li>園が作成した様々なマニュアル・ガイドラインを知る</li> <li>保育前に保育室や園庭及び用具の安全を、他の保育者とともに確認している</li> <li>自然災害発生時の自己の役割を意識し、訓練時に確実に実践している</li> <li>不審者対策や交通安全対策について、自己の役割を意識し、訓練時に確実に実践している</li> <li>保健計画について知り、アレルギーや薬等、一人一人の状況を把握し、確認しつつ対応している</li> <li>感染症予防対策等を考慮し、清潔、子どもの動線に配慮した環境構成を意識している</li> <li>子どもの心身の状態、体調、けが等子どもの変化を読み取り、保護者への連絡や同僚・上司への報告ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園が作成した様々なマニュアル・ガイドラインを理解している</li> <li>保育前に保育室や園庭及び用具の安全を、他の保育者とともに確認している</li> <li>自然災害発生時の自己の役割を意識し、訓練時に確実に実践している</li> <li>不審者対策や交通安全対策について、自己の役割を意識し、訓練時に確実に実践している</li> <li>アレルギーや薬等、一人一人の状況を把握し、確認しつつ対応するとともに、保健計画(マニュアル・ガイドライン)に沿った環境構成をしている</li> <li>感染症予防対策等を考慮し、清潔、子どもの動線に配慮した環境構成をしている</li> <li>子どもの心身の状態、体調、けが等子どもの変化を読み取り、保護者への連絡や上司への報告等対応ができています</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>危機管理を意識し、園が作成した様々なマニュアル・ガイドラインを理解し、それに沿った環境を整えている</li> <li>保育前の安全点検全般の確認を行っている</li> <li>自然災害発生時の個々の動き、園全体の動きを意識し、訓練時に確実に実践している</li> <li>不審者対策や交通安全対策について、個々の動き、園全体の動きを意識し、訓練時に確実に実践している</li> <li>アレルギーや薬等、一人一人の状況を把握するとともに、保健計画(マニュアル・ガイドライン)に沿った環境構成及び対応について、助言及び支援を行う</li> <li>感染症予防対策等を考慮し、園全体を見通した清潔、子どもの動線に配慮した環境構成をしている</li> <li>子どもの心身の状態、体調、けが等子どもの変化を読み取り、適切な対応とともに、保護者への連絡や上司への報告ができています</li> </ul>		
		⑬ 家庭や地域と連携し、子どもが危険から身を守り、安全に行動できるように指導する力 (安全教育)	<ul style="list-style-type: none"> <li>園内外での安全や命を守るためのきまりについて理解し、子どもの発達に応じて、子どもに説明ができています</li> <li>災害や事故等の際に瞬時に行動できるよう、日頃から遊びの中に素早い動きを取り入れる等の取組ができています</li> <li>お便りや保護者会等を通じて防災・防犯に関する情報を提供している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園内外での安全や命を守るためのきまりについて理解し、子どもの発達に応じて、子どもに説明ができています</li> <li>災害や事故等の際に瞬時に行動できるような取組を、日頃から遊びの中に取り入れる等の工夫ができています</li> <li>お便りや保護者会等を通じて防災・防犯に関する情報を提供している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園内外での安全や命を守るためのきまりについて理解し、子どもの発達に応じて子どもに伝え、安全と危険の違いについての指導ができています</li> <li>災害や事故等の際に瞬時に行動できるような取組を、日頃から遊びの中で工夫するとともに、家庭との連携を視野に入れている</li> <li>お便りや保護者会等を通じて防災・防犯に関する情報を提供すること等について、後輩に助言をしている</li> </ul>	
			⑭ 保育者として自分の課題を発見し、自己研鑽する力 (自己研鑽)	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々の保育を楽しんでいる</li> <li>自分の保育を高める努力をしている</li> <li>進んで研修に参加し、学びを報告書にまとめたり職員間で伝えたりしている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々の保育を楽しむ工夫をしている</li> <li>同僚や後輩とともに、自分の保育を高める努力をしている</li> <li>進んで研修に参加し、学びを分かりやすく職員間で伝えている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々の保育を楽しむ工夫を、後輩や同僚と話し合い、実践につなげている</li> <li>自身の保育を高め、後輩や同僚、同業者や保護者に保育の内容を説明できる力を身に付ける努力をしている</li> <li>園等職場での研修会に積極的に参加するとともに、企画にも携わる等、資質向上に努めている</li> </ul>
				⑮ 踏乳幼児期(えん)の発達研究や学びをすすめる力 (えん)	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの発達を理解し、一人一人に応じた遊具や用具を準備している</li> <li>音楽や物作り等の技術が高まるように情報収集し、努力している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの興味・関心や発達にあった遊具や用具を自分なりに工夫して準備している</li> <li>子どもの発達に応じた新しいものを取り入れる努力を行っている</li> <li>音楽や物作り等の技術が高まるように、同僚と協力し合って研鑽を積んでいる</li> </ul>

【中堅ステージ】	【管理職ステージ】	
中堅保育者(10年以上)	主任・教頭等	所長・園長
指導力向上に向けての自己診断	指導力向上に向けての自己診断	指導力向上に向けての自己診断
行動目標(求められる基本的な行動)	行動目標(求められる基本的な行動)	行動目標(求められる基本的な行動)
<ul style="list-style-type: none"> <li>危機管理を意識し、園が作成した様々なマニュアル・ガイドラインを理解し、より安全により安心して生活できる環境を工夫している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園長を補佐し、危機管理のためのマニュアルやガイドラインを整備し、園内体制を確立している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>危機を予測し、危機管理のためのマニュアルやガイドラインを整備し、園内体制を確立している</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>保育前の安全点検全般の確認・指導を行っている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育室や園庭及び用具の安全点検について、専門家による項目及び内容を整備している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門家による保育室や園庭及び用具の安全点検についての計画の作成及び実施を行う</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>自然災害発生時の園の個々の動き、園全体の動きを意識し、的確な指示も行い、訓練時に確実に実践している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然災害発生時には園長の補佐をしつつ、園全体の動き、安全性の確保等自己の役割を確実に行うとともに、保護者や関係機関への連絡等、的確な対応ができています</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然災害発生時の園全体の安全性の確保、避難指示等自己の役割を確実に行うとともに、的確な指示、保護者や関係機関への連絡等、対応ができています</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>不審者対策や交通安全対策について、職員・子ども等の動き、園全体の動きを意識し、的確な指示も行い、訓練時に確実に実践している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>不審者対策や交通安全対策について、園長を補佐し、職員・子ども等の個々の動きを確認しつつ、安全性の確保等自己の役割を確実に行うとともに、保護者や関係機関への連絡等、的確な対応ができています</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>不審者対策や交通安全対策について、職員・子ども等の個々の動きを確認しつつ、安全性の確保等を確実に確認するとともに、保護者や関係機関への連絡等、的確な対応ができています</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>アレルギーや与薬等、一人一人の状況を把握するとともに、保健計画(マニュアル・ガイドライン)に沿った環境構成及び対応について指導している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アレルギーや与薬等、保健計画(マニュアル・ガイドライン)に沿った環境構成及び対応の確認、見直しを実施している(与薬については、適正な管理責任がある)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アレルギーや与薬等、保健計画(マニュアル・ガイドライン)の作成、見直し、確認を実施している(与薬については、適正な管理がある)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>感染症予防対策等を考慮し、園全体を見通した清潔で子どもの動線に沿った環境構成を指導している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染症予防対策等を考慮し、園全体を見通した清潔で子どもの動線に沿った環境構成を指導している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染症予防対策等を考慮し、園全体を見通した清潔で子どもの動線に沿った環境構成を指導している</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの心身の状態、体調、けが等子どもの変化を読み取り、適切な対応・指示を行い、保護者への連絡や上司への報告をしている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの心身の状態、体調、けが等子どもの変化について読み取り、必要な知識を有し、実践できている。保護者や関係機関への報告等、的確な連絡ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの心身の状態、体調、けが等子どもの変化について読み取り、必要な知識を有し、実践できている。保護者や関係機関への報告等、的確な連絡及び職員への指導ができています</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎ステージの項目を管理し、指導している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員を見守り、園の経営者としての方向性を示している(それぞれの項目に対して)</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>職員が組織の一員としてそれぞれの立場で活躍しているか把握し、必要に応じて導いている(それぞれの項目に対して)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>園内外での安全や命を守るためのきまりについて、子どもの発達に応じて子どもに伝え、安全と危険の違いについての指導ができています</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園内外での安全や命を守るためのきまり、及び安全と危険の違いや察知についての心構えを育てるという視点をもって、職員に指導している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園内外での安全や命を守るためのきまり、及び安全と危険の違いや察知についての心構えを育てるという視点をもって、園全体の運営を行う</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>災害や事故等の際に瞬時に行動できるような取組を、日頃から遊びの中で工夫するとともに、家庭との連携、連絡も行っている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害や事故等の際に瞬時に行動できるような取組を、職員に指導している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害や事故等の際に瞬時に行動できるような取組を、職員に指導すると共に、地域のカも借りる視点をもって運営を行っている</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>お便りや保護者会等を通じて防災・防犯に関する情報を提供する等の取組を、園全体で行う工夫をしている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者に対してお便りや保護者会等を通じて防災・防犯に関する情報の提供や説明を行い、共通認識をもって子どもの命の安全のために取り組めるよう、園長を補佐している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者に対してお便りや保護者会等を通じて、計画的に防災・防犯に関する情報の提供や説明を行い、共通認識をもって子どもの命の安全のために取り組めるような園運営をしている</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎ステージの項目を管理し、指導している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員を見守り、園の経営者としての方向性を示している(それぞれの項目に対して)</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>職員が組織の一員としてそれぞれの立場で活躍しているか把握し、必要に応じて導いている(それぞれの項目に対して)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>園全体で日々の保育を楽しむ工夫ができるよう、職員同士のコーディネーター役をする等、実践につなげている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園全体で日々の保育を楽しむ環境を工夫するとともに、職員に助言・支援をしている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員が日々の保育を楽しんでいるか、常に状況を把握し、助言・支援をしている</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>自身の保育を高め、同業者や保護者に保育の内容を説明でき、研究発表等公の場で発表できる力を身に付ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園の保育・指導内容等を、職員や保護者、同業者に説明ができるとともに、園長を補佐し、説明ができる職員を育成している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園の保育・運営方針・指導内容等を、職員や保護者、同業者に説明ができるとともに、説明ができる職員を育成している</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>園内研修の中核者としての役割を認識するとともに、研修を活性化させるコーディネーター役として努めている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員の研修意欲を高める工夫をするとともに、園内での研修充実のための中核者の育成を図っている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員の資質の向上、キャリアアップを図るために、計画的に研修に参加させるとともに、園内での研修も計画的に行っている</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>園長を補佐し、常に向上心をもって研修に参加する等職員の模範となるよう資質の向上に努めている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自らも常に向上心をもって、管理職としての研修に参加する等、職員の模範となるよう資質の向上に努めている</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎ステージの項目を管理し、指導している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員を見守り、園の経営者としての方向性を示している(それぞれの項目に対して)</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>職員が組織の一員としてそれぞれの立場で活躍しているか把握し、必要に応じて導いている(それぞれの項目に対して)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>遊びの中でもとの関わりを深めるような教材を研究し、作る等の取組をしている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員が行う取組について、助言や指導を行うとともに、職員に気づきを促す等、実現に向けて適切に支援している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員が教材や遊具・用具についての研究や準備に取り組みやすいような環境をつくっている(時間の確保・予算等)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの発達を促すような遊具や用具を研究し、準備をしている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園全体で全体的な計画・教育課程に沿った、職員の音楽や物作り等の技術が高まるような取組を促すとともに、内容についての状況の把握を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園全体で全体的な計画・教育課程に沿った、職員の音楽や物作り等の技術が高まるような取組を促すとともに、必要に応じて指導・助言を行う</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>園全体で職員の音楽や物作り等の技術が高まるような取組を企画・実践している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎ステージの項目を管理し、指導している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員を見守り、園の経営者としての方向性を示している(それぞれの項目に対して)</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>職員が組織の一員としてそれぞれの立場で活躍しているか把握し、必要に応じて導いている(それぞれの項目に対して)</li> </ul>

## 第4章 教育・保育の質向上ガイドラインの活用方法

### 1 個人の資質・指導力向上に向けて

子どもが生み出す遊びを大切に、子ども一人一人のもっているよさや可能性を引き出せる保育者でありたいものです。保育の専門家としての自分の力を確かなものに、どの子どもにも確かな生きる力の基礎を培うことのできる保育者となれるよう、保育者としての姿勢を磨き続けていきましょう。

そのためには、**乳幼児期における教育及び保育の基本に常に立ち返るとともに、キャリアステージに応じた研修を積み重ねていくことが大切**です。本ガイドラインにおけるチェックシートを活用しながら、自身の研修課題を明確にし、資質・指導力を向上させていきましょう。

ここでは、今の自分にとって求められる力を自覚し、日々の実践を積み重ねていくことができるよう、第2章、第3章で示したチェックシートの活用方法を紹介します。ご自身にあった活用方法を工夫しながら継続的な取組を行っていきましょう。

### 2 組織力向上に向けて

保育者一人の力には限界があります。多岐にわたるニーズに、一人に対応することは難しいことです。保育者一人一人がそれぞれの持ち味を生かしながら、得意分野を生かし、園全体として教育及び保育を行っていくことで、多様なニーズに応えることが可能となっていきます。個性あふれる保育者同士がコミュニケーションを図りながら、集団の一員として協働関係を構築していきましょう。

そのためにも、研修を通して視野を広め、保育者としての専門性を磨いていくことが大切です。園でどのような園内研修を実施するかは、保育者一人一人の力量形成に深く関わってきますし、**保育者間で学び合う関係やその職場の雰囲気は、保育者としての成長に不可欠**です。また、園全体の教育・保育の向上につながっていきます。限られた時間の中で成果をあげるために、チェックシートを用いて見えてきた研修課題に応じて、内容や方法を工夫・改善していきましょう。保育者間で互いの課題を理解し、協力し合いながら専門性の向上を図っていくことが大切です。

#### 使 い 方



- <その1> まずは自分で！** これまでの実践を振り返りながらチェックしてみましょう。
- <その2> 各年齢・学年ごとで！** 組織が大きい園は、小グループでもやってみましょう。
- <その3> 教職員のみんで！** 特に「みんなで話し合ってみたいな。共有しておきたいな。」という視点を選び（特に中堅ステージ以上で）、各自でチェックしてから話し合ってみると、様々な考え方に気付かされます。
- <その4> 繰り返し、定期的に！** 特に課題と思ったところを意識し、できることから取り組んでいきましょう。

個人の資質・指導力と組織力向上に向けたガイドラインの活用方法

- ◆シート1：自己課題発見シート（P45～）
- ◆シート2：キャリアステージにおける資質・指導力チェックシート（P49～）
- ◆シート3：自己目標設定シート（P76～）
- ◆シート4：自己目標共有シート（P77～）



実施方法 (①②③) と 効果 (■)					
		シート1	シート2	シート3	シート4
年度 初め	①評価理由を意識しながらチェックを行う ②視点や資質・指導力ごとに、よさや課題、気付いたことについて記入する	■ 保育の基本を捉え直し、 保育者としての基本的な 姿勢を確認できる	■ キャリアステージにお ける求められている力を 把握・確認できる	①本年度の目標を設定する ②記入した内容を意識しな がら実践する	①シート1～3を基に各職員 がシート4を作成する ②作成したシート4を管理職 （面接者）に提出する ③シートを基に面接をする
				■ 本年度の自己目標の設定に 基づく実践を意識して行う ことができる	■ 設定した目標の共有と、目標達 成に向けた具体的な手立てを探 ったり、確認したりできる
中 間	①実践と評価理由を意識しながらチェックを行う ②視点や資質・指導力ごとに、前回からの伸び幅や 課題について記入する	■ 前回との比較を行うこ とで、自身の保育の傾 向を認識できる	■ 求められる資質・指導 力と現状を比較する ことで、自身の強みと 弱みを自覚できる	①次回に向けた目標を設定 する ②記入した内容を意識しな がら実践する	①当初の面接から取り組んだ 内容をシート4に加筆する ②加筆したシート4を管理職 （面接者）に提出する ③シートを基に面接をする
				■ 課題に基づくスモールス テップを意識した目標設 定ができるようになる	■ 目標に向けた進捗状況の共 有と、年度末に向けた取組方 法等の確認と検討ができる
年 度 末	①実践と評価理由を意識しながらチェックを行う ②視点や資質・指導力ごとに、第1回からの伸び幅 や課題について記入する	■ 年度目標に基づく成果 と課題を客観的に捉え られるようになる	■ 求められる資質・指導 力に対する現状と課 題を把握することが できる	①本年度の成果と課題をま とめる	①中間の面接から取り組んだ 内容をシート4に加筆する ②加筆したシート4を管理職 （面接者）に提出する ③シートを基に面接をする
				■ 本年度の成果と課題を意 識した実践の振り返りが できる	■ 目標達成状況の共有と、当該 年度の成果と課題を確認し、 次年度に向けた展望をもつ ことができる

### 3 シート1・2の活用におけるQ&A

#### ★シート1「自己課題発見シート」について

<b>Q：全ての項目をチェックしないといけないの？</b>	
	A：実際携わっている項目のみでいいです。ただし、クラス担任の方は、早出担当者など他の方がやってくれている項目も視野に入れて、振り返ってみましょう。 例：乳児担当 → 「幼」の部分はない。 早出担当 → 「登園」の部分をやってみる。
<b>Q：実際に保育をしていない管理職等はどのようにするの？</b>	
	A：園全体で各項目に示されたことが実践されているかを考えてやってみましょう。
<b>Q：シート1とシート2の評価の仕方を同じにしているの？</b>	
	A：シート1を4段階評価にして実施してもいいですね。ご自身や園の実践を振り返りやすい在り方を工夫してください。大切なのは、なぜその数値にしたのかを自分なりに考え客観視することで、明日からの保育実践に活かしていくことでしょう。
<b>Q：「主食・主菜・副菜を一緒に配膳している」とはどういう意味？</b>	
	A：野菜は残しやすいから野菜が食べ終わってから他の物を配膳するなどしていないでしょうか。子どもが何からどのように食べるかを考えて食事することができる（行動することができる）ように配膳されているかを振り返ってみましょう。
<b>Q：「季節や行事等の食文化に関心をもつことができるよう食事内容に配慮している」は、保育者が振り返るの？</b>	
	A：実際に食事をとる保育者が、彩りや食材の大きさ等とともに家庭では難しくなっている季節を感じる食事、郷土料理などを調理担当者に伝えていくことは大切なことです。業者に委託している場合も、園の希望を伝えていくなど、調理場と子どもをつなぐ役割を果たしているかを振り返ってみましょう。
<b>Q：「宗教上の理由などによる家庭の食生活習慣を大切に実践している」とはどういう意味？</b>	
	A：宗教上の理由に限らず、各家庭で大切にしている食生活習慣があると思います。まずはどのような願いをもって行っているのか、保護者の思いを聞きながら園としてできることを考えいく姿勢が大切です。保護者自身が子どものために変えたいと思えるよう、気長に根気強く関わっていきたいですね。
<b>Q：「静的な活動がじっくり楽しめるように、動的な活動が交わらないように配慮している」が、保育室が狭くてできない場合どうしたらいいの？</b>	
	A：保育室だけが遊び場と捉えると難しいことが多いと思います。動的な遊びは、園庭や遊戯室（ホール）でするなど、他の先生方の力も借りてできる保育を考えて見ると、制止や禁止が減るとともに、静的な活動も動的な活動も楽しめる保育ができるのではないのでしょうか。

<p><b>Q : 乳児の何でも口に入れやすい時期は、「自然物に接する機会」「手の届きやすい所」などでできないことがあるのでは？</b></p>
<p>A : 季節や自然を感じられるように窓から外を一緒に眺めたり、風や光を感じたりすることもあるでしょう。季節に合った玩具を貼ったりぶら下げたり、遊びの時間に出したりすることもあるでしょう。また、散歩や外遊びで見たり、触れたりできる機会をもつこともあるでしょう。安全面から「できない」と思って、やっていることやできることまで見えなくならないようにしていきましょう。</p>
<p><b>Q : 「集団に参加していない子どもへの配慮」ってどのようなことがあるの？</b></p>
<p>A : クラスや園全体で活動をする際に、保育者はどうしても一緒にしてほしいと思うために、参加していない子どもへの配慮が欠けてしまいやすくなります。他にしたい遊びがあるのか、入りたくても入り方や遊び方が分からないのか、興味がないのか等、子どもの思いに寄り添った援助や環境を考えていきましょう。</p>
<p><b>Q : 乳児でも「子どもの気付きや考えから、新たなやり取りが生まれ、活動が共有されていく満足感が味わえる」ようにできるの？</b></p>
<p>A : ガラガラを鳴らしたり声を出したりする遊びも、子どもの気付きや活動の芽生えにつながっていきます。保育者とのやり取りから生まれた子どもの遊びも、保育者がまねてやってみることで周りにいる子どもと共有することになります。</p>
<p><b>Q : 「絵本等の入れ替え」は、絶対しないといけないの？</b></p>
<p>A : 園によっては入れ替える必要がない場合や、入れ替えられない状況もあると思います。大事なのは、『いつも同じ』になっていないかを振り返ることだと思います。図鑑などを子どもの興味に合わせて見やすい所に置いたり、本の並びを変えたりするだけで素敵な環境構成になります。</p>
<p><b>Q : 「罰を用いる保育」ってどのようなこと？（「罰を用いない保育をしている」）</b></p>
<p>A : 例えば、子どもに伝わらない約束は「罰」に近くなってしまいます。園における一つ一つの約束事が「子どもの育ちに合っているか」「子どもの学びになっているか」といった視点で考えてみましょう。また、これができないと次の活動には移れない等、保育者のしてほしい願いがつつい子どもの選択権を奪うことにつながっていないかも考えてみたいですね。</p>



チェックシートを活用する中で、不明な点などがありましたら、県幼保支援課までご連絡ください。  
 皆様のご質問等を、今後に生かしていきます。

## ★シート2「キャリアステージにおける資質・指導力チェックシート」について

**Q：保育者育成指標（P24～25）を自分の経験年数で縦に見ると、できていないことややるべきことが多くて・・・どう評価したらいいの？**

A：これまでの経験や身に付けた力等に合わせて一つ下から始めるなど、項目によって使うステージを変更してみると、負担が少なく、自分でできる事柄も実感しながら、スモールステップで力を付けられるのではないのでしょうか。

**Q：保育者育成指標とシート2は、どのように関係しているの？**

A：保育者育成指標で示されている「行動目標」を達成できるよう、シート2で「具体的な行動例」を示しています。シート2の「具体的な行動例」を実践していきながら、「行動目標」に近付いていきましょう。

**Q：自分を正しく評価できるか分からないけれど、いいの？**

A：自分を自分で評価することは難しいことですが、評価を通して日頃の自分を客観視したり、意識的に実践したりすることにつながっていきます。正しく評価できるかよりも、自分なりに考えながら振り返ることができたかを大事にしてください。

**Q：話し合うことが前提になると聞いたけれど、個人で振り返ることって必要なの？**

A：個人での振り返りがあるからこそ話し合いも深まり、自分の見方や考え方を深めたり広げたりすることができると思います。ぜひ、自分なりに考えてみることと併せて、園内での話し合いを大事にしてください。

**Q：シートの中の難しい言葉があると調べているけれど、これでいいの？**

A：新しいことに出会うと分からないこともありますね。自ら調べる姿勢は、保育者として大切にしたいものの一つです。分かったことを園内で共有すると、お互いに刺激し合えて組織力も向上しそうですね。

**Q：「⑤関係機関との連携」は、具体的な必要性を感じない場合でも取り組むべき？**

A：地域の様々な関係機関と関係性を築いておくことは、とても大切です。何か起きてから探したり、つながろうとしたりすると、適切な支援がすぐに受けられないこともあるので、日頃から子どもに関わる機関について調べておく必要があります。

**Q：「⑥保幼小連携・接続」の項目は、乳児担当には当てはまらないのでは？**

A：5歳児の姿は乳児からつながっています。それぞれの年齢で考えられることは何かを園で話し合ってみるといいですね。また、幼児部との連携も考えてみましょう。

**Q：管理職ステージにある「それぞれの項目」とは、何を指しているの？**

A：職員の各ステージの項目について見ていくことを意味しています。各職員がどのような力を身に付けていくとよいのかに関心を寄せ、声をかけていきたいですね。

## 参 考 資 料

- ★教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のための  
ガイドライン (H28.3月：内閣府・文部科学省・厚生労働省)
- ★保育所における感染症対策ガイドライン (H30.3月：厚生労働省)
- ★保育所におけるアレルギー対応ガイドライン (H31.4月：厚生労働省)
- ★保育所における食事の提供ガイドライン (H24.3月：厚生労働省)







# 資 料



【シート1】自己課題発見シート・・・・・・・・・・・・・・・・	P45～
【シート2】キャリアステージにおける資質・指導力チェックシート・・・・・・・・	P49～
【シート3】自己目標設定シート・・・・・・・・・・・・・・・・	P76
【シート4】自己目標共有シート・・・・・・・・・・・・・・・・	P77

# 【シート1】自己課題発見シート

令和( )年度 園名( ) 氏名( )

評価の目安:◎意識してやっている。おおむねよくできていると思う。  
○できていると思う。  
△ほとんど、もしくは全く意識していなかった。ほとんど、もしくは全くできていないと思う。

視点	評価項目	月 日	月 日	月 日	評価理由等
登園	子どもが登園する前に空気を入れ替えたり、花瓶の水を入れ替えたり、危険なものがないか等、保育の準備をしている				
	どの子どもや保護者にも、名前を呼んであいさつする等、楽しく園生活をスタートできるよう、温かく迎えている				
	健康状態や情緒面など、子ども一人一人の様子を注意深く視診している				
	保護者の様子や子どもとの関係を注視している				
	感染症防止のための確認（検温・消毒等）をしている				
食事・間食	くつろいだ楽しい雰囲気や場をつくっている				
	衛生面や安全面に配慮した、席の配置や配膳等を行っている				
	主食・主菜・副菜を一緒に配膳している				
	複数の職員でアレルギー食の確認を丁寧に行い、誤食がないようにしている				
	子どもの食べられる量に調整している（無理強いしない・咀嚼の状態や病み上がりなどの体調に合わせる）				
	自分のペースで食事ができる時間を、育ちにに応じて配慮している（無理強いしない）				
	子どもが食事をしているときは一緒に楽しく食べるなどして、基本的なマナーが自然に身に付けられるようにしている（よい見本になっている）				
	幼 食事の大切さ、献立や食材の名前等を知らせ、食べることに興味や関心をもたせている				
	作っている人への感謝の気持ちをもてるようにしている				
	宗教上の理由などによる家族の食生活習慣を大切に実践している				
季節や行事、地域等の食文化に関心をもつことができるよう、食事内容について話をするなどの配慮をしている					
排泄	子どもが尿意を感じて排泄できるようにするなど、一人一人の排泄のリズムに合わせたおむつ交換や促しを行っている				
	保育者と子どもが、おむつ交換や排泄の後、いつも手を洗っている（手洗い指導をしている）				
	子どもの育ちの状況に応じた見守りや援助（活動の前に促す等）を行っている				
	トイレや手洗い場の衛生面に配慮した環境になっている				
	明るく清潔で、子どもが使いやすい環境になっている				
	幼 子どもが行きたいと思ったときにトイレに行けるようにしている（活動が優先されない、子どもが考えて行くことを大切にしている）				
睡眠	午睡チェック表などを活用し、一人一人の睡眠中のきめ細かな観察（うつぶせ寝にさせない等）を行っている				
	穏やかに見守りができている				
	一人一人の発達や体調の状態、疲れ具合等に応じた適切な援助をしている				
	眠っていない子どもが活動できる環境を整えている（早く起きた子どもや眠れない子どもが静かな遊びができる環境）				

視点	評価項目	月 日	月 日	月 日	評価理由等
安全	室内外でけがにつながる危険がないか常に気を配っている				
	子どもが触れるところに危険な物を置いていない				
	乳 子どもが口にしても危険がないような物に気を配っている（誤飲や衛生面への配慮）				
	遊具の位置が高すぎず、手入れがされており、固定している				
	地震や不審者対応に備え、避難時の動線の妨げにならないよう、出入り口や廊下に物を置いたり、転倒・落下しそうな物を置いたりしないようにしている				
	子どもの健康や安全に配慮した服装や履物に配慮をしている（体温調節：上着の着脱、視野：帽子のつばの大きさ、転倒：脱げにくい履物、窒息：首に引っかからない服等）				
	熱中症対策等に備えて、一人一人の休息や水分補給に気を配り、確認している				
	保育室等の換気・温度・湿度に配慮している				
	保育室内外の遊具や玩具などの消毒を行うなど、衛生面に配慮している				
	生活や遊びに必要なルールを守れたり守れなかったりする子どもの思いを理解し、受け止め、繰り返し関わっている				
	虐待等が疑われる場合は、一人で抱えることなく園長を中心にすぐに対応している				
	幼 生活や遊びの中で必要なルールを子どもが理解しやすいように説明したり、子どもと一緒に考えたりするようにしている（大きなけがにつながるものを除く）				
遊びの環境	長期の指導計画（年間・月間）に基づいた環境を、意図的・計画的に構成している				
	自園の教育及び保育の方針を理解して保育している				
	年間を通して戸外での遊びができるようにしている				
	室内や戸外で自然物に接する機会が豊かにある				
	乳 おもちゃは子どもの手が届きやすい所に置いている				
	乳 一人一人がじっくりと遊べるおもちゃ等の量や場所が準備されている（状況に応じて量の加減ができる）				
	静的な活動がじっくり楽しめるように、動的な活動が交わらないように配慮している				
	幼 お互いのやり取りが生まれるような遊具や教材がある				
	幼 子どもが自由に選んで使える遊びのコーナーや場がある				
	幼 子どもが自分の好きな遊びを見付けることや遊びを考えたり進めたりできることを大切にし、発達に必要な経験が得られるような状況をつくっている				
	子どもの興味・関心、育ちに応じて遊具・用具・材料が自由に選べたり、目的によって選べたりできる				
	身近にあるものを使ったり、遊びに取り入れたりしている（段ボールや空き箱等）				
	子どもが作ったものや掲示物の多くを、子どもの目の高さに置くなど、子ども同士で見合いながら遊びに生かせる工夫をしている（前日までの遊びの続きができる工夫等）				
	各年齢の指導計画等により見通しをもちながら、育ちや時期に応じて必要な教材を吟味している				
	子どもが好きな遊びに満足できるような時間や場が確保されている				
	幼 子どもの育ちにあったものとして、自然に文字に触れたり、文字に興味や関心をもったりするような教材や遊びがある				
	幼 子どもの育ちにあったものとして、数えたり、測ったり、形や大きさに興味や関心をもったりするような教材や遊びがある				
	子どもが集団活動に加わったり離れたりできるよう、子どもの思いを大切にしながら、活動に柔軟性をもたせている				
	集団に参加していない子どもへの配慮ができています				
	子どもが実現したいこと、実現してほしいことを捉え、子どもの思いやイメージを生かしながら環境を再構成している				

視点	評価項目	月 日	月 日	月 日	評価理由等
保育者の援助	長期の指導計画（年間・月間）に基づいて、子どもの育ちや課題に応じた援助の確認をしながら計画的に保育を進めている				
	子どもがしていることに興味や関心を寄せながら一緒に遊ぶことで、その思いや意味を理解しようとしている				
	子ども一人一人の育ちに合わせた見守りや関わりをしている				
	子どもが感じたり、行動したり、経験したりしていることを言葉にして自覚化できるようにしている				
	子どもと目を合わせながら話している				
	子どもがコミュニケーションをとろうとしていることにタイミングよく肯定的に応答している				
	乳 子どもに関わる時は保育者の行動に言葉を添えたり、子どもの気持ちを言葉にしたりしている（おむつ交換、抱く、鼻を拭くなど）				
	子どもの気持ちを代弁したり、言葉にして伝えるように励ましたりして、問題を解決するために話し合うことを学べるように援助している				
	幼 遊びや生活の中で、子どもが言葉に表したり、なぜそうするのかを説明したりする場面が生まれるような関わりをしている				
	幼 解決を急がず、友達とのやり取りの中で、自分とは異なる思いや考えに気づき、徐々に相手の気持ちを理解しようとする援助をしている（子どもなりに考える時間と関わりを大切にしている）				
	幼 数量や文字に興味や関心をもつ気持ちを大切に（確実に数を数えられたり、文字を正確に読めたり、書けたりすることのみを目的にした活動を行っていない）				
	保育者の判断基準にとらわれず、子ども一人一人のありのままを受け止め、肯定的に見守っている				
	子どもの心の動きに沿って共に心を動かしたり、知恵（アイデア）を出し合ったりしている				
	子どもが安心して自分なりの思いを表現できるように、その子なりの表現を大切にし、共感している（様々な表現活動を意味する）				
	子どもが表現したいことを感じ取っている				
	子どもなりの表現が様々な人へと伝わる喜びが味わえるようにしている				
	子どもの気付きや考えから新たなやり取りが生まれ、活動が共有されていく満足感が味わえるようにしている				
	複数担任のクラスでは、一人一人の育ちについてよく話し合い、共通理解のもと、同じ方向性をもって保育が行えるようにしている				
	個の活動、グループの活動、学級全体の活動など、どの形態においても一人一人の子どもの心の動きに応じた援助をしている				
	活動への取りかかりが遅い子どもの理由を推しはかり、その子なりのペースで取りかかれるようにしている				
同僚や上司と連携しながら保育を行っている					
読書活動	絵本コーナーを設け、子どもが興味をもったときに自分で絵本等を手に取ることができるようになっている（取りやすさ、自由さ）				
	子どもが興味や関心をもって関わってみたいくなるよう、手に取りやすい場所や絵本等表紙が見えるように置くなどの工夫をしている				
	子どもが興味や関心をもって関わられるよう、遊びや生活に関連した絵本等を適宜入れ替え、子どもの年齢や育ち、季節等にあった絵本等を置いている				
	絵本等を通して、子どもと心を通わせる場面をもっている				
	傷んだ絵本等がないか定期的に点検・修繕を行っている				
	絵本の貸し出しやお便り等を通して、保護者に親子読書の大切さを伝えている				
	絵本等に関する知識を得たり、技術を高めたりするようにしている				

視点	評価項目	月 日	月 日	月 日	評価理由等
子どもの人権	社会的に模範となる行動をしている（あたたかく思いやりがある、優しく触れる、子どもたちに丁寧である、名前を呼びきりしない、子どもを比較しない、いばったりしない）				
	罰を用いない保育をしている				
	子どもの目線に合わせ、いつもゆったりとして口調が温かく、微笑みのある表情を大事にしている				
	子どもの言動を、否定的に捉えたり話したりしていない				
	いつも温かく支持的なやり方（肯定的な関わり方）で子どもに応答している				
	一人の人間として子どもに対応し、尊重する気持ちを表している				
	どの子どもにも分かりやすい言葉や伝え方を心がけている				
	支援を必要とする子どもの特性を理解し、一人一人に応じた関わりを心がけている				
	子ども同士を比べず、その子らしさを大切にしている（ジェンダーの視点等）				
	着脱時などには、プライベートゾーンについて配慮した環境をつくっている（特にプールでの遊びの時期）				
	外国にルーツのある子どもの国籍や文化の違いを認め、保育の中で文化の多様性に気づき、興味や関心を高めていけるような配慮をしている				
降園	どの子どもにも保護者にも、気持ちよく送り出す配慮をしている				
	子ども一人一人の様子を注意深く視診している				
	子どもの園での様子を具体的に伝えている（楽しんでいたり成長、けが、生活面の姿など）				
	幼 明日への期待がもてるような言葉を掛けている				
保護者への支援	保護者との間で子どもに関する多くの情報が共有でき、子どもの成長を共に喜び合うことができている				
	園の方針や実践について、保護者に理解してもらえるよう説明している				
	お便りに、子どもの遊びや生活を通して育てている（育とうとしている）資質・能力について記載している				
	子どもの育ちにとって必要な関わり方について、分かりやすい言葉や伝え方を心掛けながら、情報を提供している				
	保護者との信頼関係を築き、保護者の抱えている課題や悩みを捉え、関わるができている				
	家庭での遊びや生活が豊かになるような情報を提供している（親子読書、運動遊び等の具体的な実践例について）				
	健康・安全（感染症対策等）に対する予防等について、お便り等で情報提供をしている				
降園後	一日の保育を振り返り、子ども理解を深めている				
	保育の振り返りから、短期の指導計画（週・日案）のねらい・内容の見直しを行っている				
	子どもの帰った後に掃除や消毒等をし、翌日の準備をしている（環境構成を含む）				
	必要に応じて、その日の保育や子どもの様子について同僚や上司と話し合っている（問題を次の日に持ち越さない）				

【シート2】キャリアステージにおける資質・指導力チェックシート

令和( )年度 園名( ) 氏名( )

新規採用保育者〈基礎ステージ〉

評価の目安：4 大変良い 3 良い 2 やや不十分 1 不十分

資質・指導力	具体的な行動例	評価			評価理由等
		月 日	月 日	月 日	
①子どもの主体的な学びを保障するための環境構成を行う力 (環境の構成)	保育室を起点に環境を整え、日々の保育に必要な環境を整える				
	・保育室の換気、植物や生き物の世話等、心地よい保育室環境を毎日整えている				
	・計画に沿って、遊具や用具等の物的な環境に配慮している				
	・保育室の美的環境・保健衛生に配慮している(整理・整頓、手洗い場、ゴミ箱、ピアノの上等)				
	・一日の活動に必要な遊具・用具、素材等の準備ができています				
	・登園時に子どもの興味・関心に合わせた遊びが始まる保育室の環境を準備している				
	・子どもの実態を把握し、保育のねらいに即して、自分なりに工夫した環境構成をしている(遊びの場、必要な教材の準備等)				
	・反省・記録から、適切な環境構成であったかを振り返り、次の日の環境の構成を構想している				
	・人権に配慮した保育室の環境を整えている(掲示物、名前の表示、性差等)				
	・絵本棚に置く絵本等を子どもの興味・関心や季節に応じて変化させている				
・季節や遊びに応じて、子どもが作ったものや自然物を取り入れて壁面等を構成し、変化させている					
②一人一人の子どもの特性や発達、ねらい等に適した援助を行う力 (援助)	日々の反省・記録や、先輩の実践に触れることで、一人一人の特性に応じる指導の基本的姿勢を身に付ける				
	・明るい笑顔で子どもを迎え、一人一人とコミュニケーションをとることに努めている				
	・明るく元気に子どもに接し、一緒に遊んでいる				
	・一人一人の家庭での生活や経験に合わせた援助を大切にしている				
	・全体的な計画・教育課程や指導計画について、分からないところは同僚や上司に尋ねる等して、理解しながら実践につなげている				
	・ねらいを達成するために必要な援助を構想している				
	・子どもの行動とその原因について、同僚や上司の力を借りて理解している				
	・子どもの行動とその原因に合わせて、援助を工夫している				
	・遊びの片付けや身辺自立に向けた生活習慣に関わる指導を工夫している				
	・一日の終わりに、記録を通して子どもの発達への理解を深め、適切な援助であったかを振り返っている				
・月案や週・日案等の記録の振り返りや整理を通して、子どもの発達を捉えている					

シート2

〈基礎ステージ〉新規採用保育者

指導力向上に向けての自己診断





資質・指導力	具体的な行動例	評価			評価理由等
		月 日	月 日	月 日	
親 育 ち 支 援 力 に 関 す る 自 己 診 断	⑦在園児の保護者に対して子育てを支援する力(保護者への支援)	保護者にカウンセリングマインドをもって接し、話しやすい雰囲気づくりに努める			
		・保護者に進んで挨拶したり話しかけたりして、話しやすい雰囲気づくりに努めている			
		・登降園時に子どもの遊びや生活の様子を保護者に伝えている			
		・子育て支援、親育ち支援について基本的な考え方を理解している			
		・保護者からの質問や相談に対し、上司や担当者等に相談しながら誠実な対応ができるように努めている			
		・一人一人の子どもや学級の遊び、友達との関わり、生活の様子を把握し、連絡帳やお便り、登降園時等を通して保護者に知らせている			
		・行事等への参加の呼びかけをする等、園に対して関心をもってもらうよう努めている			
		・感染症防止対策等を踏まえた園行事等の在り方について、保護者にお便り等を通して伝えている			
⑧地域の子育て家庭等を支援する力(地域における子育て支援)	園を訪れる地域の保護者等に対して、気持ちのよい挨拶や温かい雰囲気です接する				
	・園庭開放や体験保育等に参加した保護者に対して、気持ちのよい挨拶や温かい雰囲気です接することができる				
	・先輩や同僚と共に、行事等への参加の呼びかけをする等、園に対して関心をもってもらうよう努めている				
⑨学級経営に関わる事務を的確に処理する力(学級経営)	学級事務を通して担任としての責任を自覚する				
	・担任としての事務処理の仕方が分かっている				
	・出席簿や健康に関する書類、安全点検表等日々の記載について、先輩や上司のアドバイスを受けながら行っている				
	・児童票や指導要録、育成記録等への記載について、先輩や上司のアドバイスを受けながら期限内に行っている				
⑩園務分掌とその内容を理解し、企画・立案する力(園務分掌)	組織の一員として自覚し行動する				
	・担当した業務について理解ができ、遂行している				
	・共通の遊具の安全管理を行う				
	・行事等での役割を自覚し、組織の一員として行動できている				
⑪上司や同僚と協働して、円滑に園務を遂行できる力(職員間の連携)	自分の考えを伝えるとともに、先輩からの助言を素直に受け止める				
	・自分から進んで職員に明るく挨拶している				
	・思いや考えを自分の言葉で伝えることができる				
	・先輩や同僚からのアドバイスを素直に受け止めることができる				
	・自分から積極的に他の職員との協力・協働に努めている				
	・研修を通じて学んだ知見を園内で共有するように努めている				
	・困ったときや悩んでいるときに、同僚や上司に相談できる				
	・必要に応じて園長や同僚等にきちんと報告、連絡、相談をしている				

シート2

〈基礎ステージ〉新規採用保育者

資質・指導力	具体的な行動例	評価			評価理由等	
		月	日	月		日
危機管理に関する自己診断	⑫子どもが安心して過ごすことができる施設や遊具等の安全な環境を整える力(安全管理)	危機管理を理解し、マニュアルに沿った環境を整える				
	・園が作成した様々なマニュアル・ガイドラインを知る					
	・保育前に保育室や園庭及び用具の安全を、他の保育者とともに確認をしている					
	・自然災害発生時の自己の役割を意識し、訓練時に確実に実践している					
	・不審者対策や交通安全対策について、自己の役割を意識し、訓練時に確実に実践している					
	・保健計画について知り、アレルギーや与薬等、一人一人の状況を把握し、確認しつつ対応している					
	・感染症予防対策等を考慮し、清潔、子どもの動線に配慮した環境構成を意識している					
	・子どもの心身の状態、体調、けが等子どもの変化を読み取り、保護者への連絡や同僚・上司への報告ができる					
⑬家庭や地域と連携し、子どもが危険から身を守り、安全に行動できるように指導する力(安全教育)	日頃から遊びや生活の中に安全や命を守るための要素を意識して取り入れ、指導を行う					
	・園内外での安全や命を守るためのきまりについて理解し、子どもの発達に応じて、子どもに説明ができています					
	・災害や事故等の際に瞬時に行動できるよう、日頃から遊びの中に素早い動きを取り入れる等の取組ができています					
	・お便りや保護者会等を通じて防災・防犯に関する情報を提供している					
⑭保育者として自分の課題を発見し、自己研鑽していく力(自己研鑽)	進んで研修に参加し、自らの課題をもち、研鑽に努める					
	・日々の保育を楽しんでいる					
	・自分の保育を高める努力をしている					
	・進んで研修に参加し、学びを報告書にまとめたり職員間で伝えたりしている					
⑮乳幼児期の発達や学びを踏まえた教材の研究をする力(教材研究)	子どもの育ちを理解し、一人一人の育ちに沿った遊具や用具を準備する					
	・子どもの発達を理解し、一人一人に応じた遊具や用具を準備している					
	・音楽や物作り等の技術が高まるように情報収集し、努力している					

【シート2】キャリアステージにおける資質・指導力チェックシート

令和( )年度 園名( ) 氏名( )

5年未満の保育者〈基礎ステージ〉

評価の目安： 4 大変良い 3 良い 2 やや不十分 1 不十分

資質・指導力	具体的な行動例	評価			評価理由等
		月 日	月 日	月 日	
シート2 基礎ステージ 5年未満の保育者 指導力向上に向けての自己診断	①子どもの主体的な学びを保障するための環境構成を行う力(環境の構成) 子どもの動きや活動の展開を予測して環境の構成、再構成をする				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あたたかなくつろぎの場やいきいきと活動できる場等、生活全体を捉え、様々な活動に取り組むことができる保育室の環境を工夫している</li> </ul>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の展開に沿って、遊具や用具等の物的な環境を構成している</li> </ul>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育室の美的環境・保健衛生に配慮している(整理・整頓、手洗い場、ゴミ箱、ピアノの上等)</li> </ul>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各年齢の子どもの発達を見通して、子どもの主体的な活動を引き出す環境の構成ができています</li> </ul>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの活動や活動の状況に応じて環境の再構成を行っている</li> </ul>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの興味や関心を丁寧に読み取り、明日の遊びに向けて環境を再構成している</li> </ul>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然の変化や園行事等、1年間の見通しをもって環境構成ができています</li> </ul>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの実態に基づいた保育のねらいに即して、自分なりに工夫した環境構成をしている(遊びの場、必要な教材の準備等)</li> </ul>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権に配慮した保育室の環境を整えている(掲示物、名前の表示、性差等)</li> </ul>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育のねらい・内容に合わせて、絵本棚に置く絵本等を変化させている</li> </ul>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びの経過が確認できたり、次の遊びにつながったりするような壁面等の工夫をしている</li> </ul>				
	②一人一人の子どもの特性や発達、ねらい等に適した援助を行う力(援助) 一人一人の特性や発達を理解し、その援助を工夫する				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明るい笑顔で子どもを迎え、一人一人とコミュニケーションをとっている</li> </ul>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の発達の把握ができ、適切なねらいをもって援助をしている</li> </ul>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・反省・評価や記録の整理を通して、子ども理解を深めている</li> </ul>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の実践を通して、子どものものや人との関わりを豊かにするための多様な援助を知る</li> </ul>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭での多様な生活や経験に合わせて援助を行い、主体性をもって意欲的に園での生活や遊びに取り組めるようにしている</li> </ul>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的な計画・教育課程や指導計画について、理解しながら実践につなげている</li> </ul>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの行動とその原因や発達について理解し、その援助を工夫している</li> </ul>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの変化を敏感に受け止め、個性を把握し認めながら対応をしている</li> </ul>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びの片付けや身辺自立に向けた生活習慣に関わる指導が適切にできている</li> </ul>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども同士の関係が育つ働きかけに心がけ、安定した仲間関係を育てている</li> </ul>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・一日の終わりに、記録を通して子どもの発達とねらいに即した援助であったかを振り返っている</li> </ul>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの子どもとの関わりを意識しながら、反省記録をまとめている(対象化)</li> </ul>					

資質・指導力	具体的な行動例	評価			評価理由等
		月 日	月 日	月 日	
③ねらいに沿って指導を適切に展開し、改善する力 (指導計画の作成と保育展開・評価)	反省・記録をもとに、指導計画を構想し、発達の見通しをもった保育を展開する				
	・子どもの状態や発達の時期を理解し、保育のねらいを設定している(子ども側の視点でねらいを立てている)				
	・ねらいに沿った保育展開が適切にできている(個々の遊びやグループでの遊びと学級全体の活動等)				
	・一人一人を大切にしながら、学級全体に目を向けた保育をしている				
	・子どもの思いに沿った援助と、よいことと悪いことを伝えていく指導を見極め、子どもに関わっている				
	・保育所保育指針・幼稚園教育要領等を抛り所にししながら、週案と日案、長期と短期の指導計画との関係を踏まえ、発達の見通しをもった実践が展開できている				
	・反省・評価を重ねながら、発達の時期や年齢を意識した保育が実践できている				
④地域の資源を活用し、指導の充実を図る力 (地域との連携)	地域の自然や文化を保育に生かす				
	・情報収集した地域で活躍している方、地域の行事、公園や児童館の場所等の地域の資源を保育に活用している				
	・地域の自然や文化を取り入れ、保育に生かしている				
⑤保護者や必要な機関と連携を取りながら一人一人の育ちを支える力 (関係諸機関との連携)	子どもや保護者への対応について、他の職員と話し合いながら、園内で情報を共有する				
	・特別な配慮が必要な子どもや集団生活において困難さをもつ子どもについて、職員との連携の中でその子の困難さを理解している				
	・子どもの情緒の安定を図るため、保育を工夫し、可能な限り子どもの困難さを取り除いている				
	・要保護家庭、要支援家庭、ハイリスク家庭等の子どもや保護者の変化に気付くことができる				
	・関係機関との連携に向けて、的確な記録とまとめができる(個別の指導計画等の作成)				
	・特別な配慮を必要とする子どもや厳しい環境(家庭支援の必要な環境)にある子どもへの対応について、職員との連携の中で関係機関との連携を取っていくことができる				
⑥発達や学びの連続性を見通し、指導する力 (保幼小の連携・接続)	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を意識して実践する				
	・連携の必要性が分かり、学びや発達を見通した計画に沿って実施・参加している(子ども同士や職員同士の交流)				
	・異校種の教員や保育者と協働して、交流活動を進めている				
	・園の全体的な計画・教育課程を理解し、乳幼児期の発達の道筋に沿った保育の展開をしている				
	・乳幼児期の発達の特性を児童期の学びの特性との違いの中で理解している				
	・保育所保育指針・幼稚園教育要領等について理解を深める研修会等に参加している(5領域・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿等)				
	・小学校との連携及び接続を視野に入れ関係指導資料を読む等、情報収集に努めている				

資質・指導力	具体的な行動例	評価			評価理由等	
		月 日	月 日	月 日		
親 育 ち 支 援 力 に 関 す る 自 己 診 断	⑦在園児の保護者に対して子育てを支援する力(保護者への支援)	保護者との良好な関係を築き、必要に応じて相談しやすい雰囲気をつくる				
		・保護者が相談しやすいように支援者としての姿勢を明示するとともに、話しやすい雰囲気をつくることのできている				
		・子どもと親のよりよい関係づくりを支援する遊びや関わり方を伝えたり、行動の見本を示したりすることのできる				
		・保護者との良好な関係を築き、本音で話せる関係を築くことのできる				
		・保護者からの質問や相談に対し、上司や担当者、同僚等に相談しながら誠実な対応ができています				
		・一人一人の子どもや学級の遊び、友達との関わり、生活の様子を把握し、連絡帳やお便り、登降園時等を通して保護者に知らせている				
		・行事等への参加の呼びかけをする等、園に対して関心をもってもらうよう努めている				
		・感染症防止対策等を踏まえた園行事等の在り方について、保護者にお便りや口頭等で伝えたり説明したりできている				
⑧地域の子育て家庭等を支援する力(地域における子育て支援)	園を訪れる地域の保護者等に対して、気持ちのよい挨拶や温かい雰囲気です接する					
	・園庭開放や体験保育等に参加した保護者に対して、気持ちのよい挨拶や温かい雰囲気です接することのできる					
	・行事等への参加の呼びかけをする等、園に対して関心をもってもらうよう努めている					
⑨学級経営に関わる事務を的確に処理する力(学級経営)	日々の記録を整理したり、提出書類を的確に処理したり、担任としての責任を果たしていく					
	・出席簿や健康に関する書類、安全点検表等日々の記載が適切にできている					
	・児童票や指導要録、育成記録等への記載を期限内に適切に行っている					
	・学級事務に気を配り、提出期限や処理を適切に行っている					
園の運営力・組織貢献力に関する自己診断	⑩園務分掌とその内容を理解し、企画・立案する力(園務分掌)	園務の一部を担い、園の組織についての理解を深め、役割にあった行動をとる				
		・担当分掌を責任をもって企画、立案、遂行している				
		・担当した業務について振り返り、評価することができる				
		・自分の役割を自覚し、組織の一員として責任をもって行動できている				
		・園務の一部を担い、園の組織についての理解を深めている				
⑪上司や同僚と協働して、円滑に園務を遂行できる力(職員間の連携)	自分の考えを伝えるとともに、相手の立場を理解しながら仕事を進めていく					
	・明るい挨拶や自身の特技を發揮して、職員集団の中で自分の位置を確立している					
	・職員の中で、自分の思いや考えを積極的に伝えている					
	・先輩や同僚からのアドバイスを真摯に受け止め、前向きに実践することができる					
	・自分から積極的に他の職員との協力・協働ができています					
	・後輩の職員の悩みやつまづきと一緒に悩んだり考えたり、必要に応じて管理職に伝えたりしている					
	・研修を通じて学んだ知見を園内で共有できている					
・必要に応じて園長や同僚等にきちんと報告、連絡、相談をしている						

シート2

〈基礎ステージ〉5年未満の保育者

資質・指導力	具体的な行動例	評価			評価理由等	
		月 日	月 日	月 日		
危機管理に関する自己診断	<p>⑫子どもが安心して過ごすことができる施設や遊具等の安全な環境を整える力 (安全管理)</p> <p>危機管理を理解し、マニュアルに沿った環境を整える</p>					
	・園が作成した様々なマニュアル・ガイドラインを理解している					
	・保育前に保育室や園庭及び用具の安全を、他の保育者とともに確認している					
	・自然災害発生時の自己の役割を意識し、訓練時に確実に実践している					
	・不審者対策や交通安全対策について、自己の役割を意識し、訓練時に確実に実践している					
	・アレルギーや与薬等、一人一人の状況を把握し、確認しつつ対応するとともに、保健計画（マニュアル・ガイドライン）に沿った環境構成をしている					
	・感染症予防対策等を考慮し、清潔、子どもの動線に配慮した環境構成をしている					
	・子どもの心身の状態、体調、けが等子どもの変化を読み取り、保護者への連絡や上司への報告等対応ができています					
⑬家庭や地域と連携し、子どもが危険から身を守り、安全に行動できるように指導する力 (安全教育)	<p>日頃から遊びや生活の中に安全や命を守るための要素を意識して取り入れ、指導を行う</p>					
	・園内外での安全や命を守るためのきまりについて理解し、子どもの発達に応じて、子どもに説明ができています					
	・災害や事故等の際に瞬時に行動できるような取組を、日頃から遊びの中に取り入れる等の工夫をしている					
	・お便りや保護者会等を通じて防災・防犯に関する情報を提供している					
保育者としての姿勢	<p>⑭保育者として自分の課題を発見し、自己研鑽していく力 (自己研鑽)</p> <p>進んで研修に参加し、自らの課題をもち、研鑽に努める</p>					
	・日々の保育を楽しむ工夫をしている					
	・同僚や後輩とともに、自分の保育を高める努力をしている					
	・進んで研修に参加し、学びを分かりやすく職員間で伝えている					
	⑮乳幼児期の発達や学びを踏まえた教材の研究をする力 (教材研究)	<p>子どものモノや人との関わりを深めるための遊具や用具を工夫して活動を豊かにする</p>				
		・子どもの興味・関心や発達に応じた遊具や用具を自分なりに工夫して準備している				
		・子どもの発達に応じた新しいものを取り入れる努力を行っている				
・音楽や物作り等の技術が高まるように、同僚と協力し合って研鑽を積んでいる						

【シート2】キャリアステージにおける資質・指導力チェックシート

令和（ ）年度 園名（ ） 氏名（ ）

5年～10年未満の保育者〈中堅ステージ〉

評価の目安： 4 大変良い 3 良い 2 やや不十分 1 不十分

資質・指導力	具体的な行動例	評価			評価理由等
		月 日	月 日	月 日	
①子どもの主体的な学びを保障するための環境構成を行う力 (環境の構成)	いろいろな環境を生かしながら、実践を展開することを楽しんで行う				
	・園内外の様々な環境を保育に取り入れ、豊かな体験ができるようにしている				
	・他の保育室も含めて美的環境・保健衛生に配慮している				
	・子どもの姿を踏まえて、改めて5領域の視点で環境を構成している				
	・子どもの主体性とねらいとのバランスを考えて、環境の構成を工夫している				
	・子どもの発想や願いを受け止め、子どもと共に環境をつくっている				
	・遊具や用具、素材等についての教材研究を深めている				
	・他の保育室も視野に入れながら、人権に配慮した環境を整えている				
	・季節やその時期に大切にしたいこと等を踏まえ、子どもの感性をくすぐるような壁面等、環境が整えられている				
	・他学級の活動や保育の中で大切にしていることを知り、保育の環境構成の設定や調整をしている				
②一人一人の子どもの特性や発達、ねらい等に適切な援助を行う力 (援助)	個と集団の育ちを意識して、一人一人の特性や発達を捉え、必要な援助を行う				
	・集団の中で一人一人のその子らしさが大切にされるコミュニケーションを心がけて行っている				
	・一人一人の特性や発達を捉え、適切なねらいをもって援助をしている				
	・様々な実践の中で、状況に応じた柔軟な指導ができています				
	・一人一人に応じて、家庭と連携して、基本的な生活習慣の定着や様々な人やもの、事象への興味や関心を高めるための援助を工夫している				
	・全体的な計画・教育課程等を十分に理解し、育ちに沿ったねらいのもと、援助を工夫している				
	・領域等のねらいを踏まえ、年間を通して計画的に保育を進めている				
	・一人一人のその子らしさを大切に、必要な援助を丁寧に探っている				
	・常に、その子どもと周りの子どもとの関係を意識しながら、集団の中で一人一人を生かした援助ができています				
	・記録を通してその子らしさを生かした適切な援助であったかを保育のねらいとともに振り返っている				

シート2

〈中堅ステージ〉5年～10年未満の保育者

指導力向上に向けての自己診断

資質・指導力	具体的な行動例	評価			評価理由等
		月 日	月 日	月 日	
③ねらいに沿って指導を適切に展開し、改善する力 (指導計画の作成と保育展開・評価)	日々の実践を通して、年間指導計画のねらいや内容、環境の構成、援助を見直していく				
	・自園のねらいや内容を子どもたちがどの程度達成しているか意識し、自らの保育のねらいや内容の在り方を見直している				
	・ねらいに沿った保育を展開しつつ、子どもの状態に応じ、柔軟性をもって対応している				
	・予想外の子どもの活動を受け止め、保育を展開することができている				
	・経験を通して得たことを繰り返すだけではなく、新たなアイデアや感性で保育を工夫をしている				
	・集団における規範意識の育成や望ましい人間関係づくりを保護者にも知らせながら取り組んでいる				
	・子どもの発達や姿から保育を振り返って記録し、ねらいに即した評価を行い、週日案等の改善を行っている				
	・普段の遊びから行事(運動会・表現活動等)につながっていく保育展開を適切にしている				
	・チーム保育を進めながら、他の職員と積極的に話し合い、実践を共有している				
④地域の資源を活用し、指導の充実を図る力 (地域との連携)	地域の資源を生かし、自らの保育を豊かにしていく				
	・家庭や地域での遊びや生活も考慮し、地域の人的・物的資源を活用しながら指導計画の立案や指導を行っている				
	・地域との関わりを深め、地域の自然や文化を自らの保育に生かしている				
⑤保護者や必要な機関と連携を取りながら一人一人の育ちを支える力 (関係諸機関との連携)	記録や評価を的確に行い、実態に応じた対応・学級経営・協力体制づくりを行うため、専門的知識をもって関係機関と連携する				
	・特別な配慮が必要な子どもや集団生活において困難さをもつ子どもの状況や教育・保育ニーズを把握している				
	・様々な種類の障害について専門的知識を有し、可能な限り子どもの困難さを取り除く等、保育を工夫している				
	・要保護家庭、要支援家庭、ハイリスク家庭等を早めに発見し(気づき)、早期の支援につなげることができる				
	・園内で情報共有しながら関係機関との連携に必要な計画の立案や準備、記録、評価を的確に行うことができる(個別の指導計画等の作成と活用)				
	・関係諸機関を把握し、実態に応じた対応や連携が取れるようにしている				
⑥発達や学びの連続性を見通し、指導する力 (保幼小の連携・接続)	小学校等との円滑な接続の必要性を理解し、学びや発達を見通した計画及び実践を行う				
	・連携の必要性を理解し、学びや発達を見通した計画に沿って実施・参加し、内容の充実に向けた話し合いをしている(子ども同士や職員同士の交流)				
	・他の園、小学校の教員とコミュニケーションをとり、必要な計画や、実施、評価が適切にできている				
	・幼児教育において育みたい資質・能力を意識した各年齢における経験や育ちを把握した保育を展開している				
	・各年齢の経験や育ちが小学校でのどのような姿につながっていくのかを理解しながら、乳幼児期にふさわしい活動の展開をしている				
	・保育所保育指針・幼稚園教育要領等、小学校学習指導要領について理解を深める研修会等に参加している(5領域・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿、スタートカリキュラム等)				
	・保幼小接続期カリキュラムについての理解を深める情報収集に努め、具体的な計画の作成・実施につなげている				



資質・指導力	具体的な行動例	評価			評価理由等
		月 日	月 日	月 日	
親 育 ち 支 援 力 に 関 す る 自 己 診 断	⑦在園児の保護者に対して子育てを支援する力（保護者への支援）	保護者の相談を受容的に受け止め、適切な助言をする			
		・積極的に保護者とコミュニケーションをとり、保育の理解を得ている			
		・カウンセリングやソーシャルワークの技術の活用に努め、保護者からの相談を受容的に受け止めることができる			
		・保護者からの悩みや心配ごと等の相談や突発的な問題について担当者等に相談し、園内で情報を共有しながら適切に対応できている			
		・子どもの発達を見通した姿や今の姿を認めたお便りや口頭での説明が、保護者に分かりやすくできている			
		・保護者が無意識にしていることの中に、子どもへのよりよい関わり方があることを知らせている			
		・食事、排泄、遊び、子どもとの関わり方等、一人一人の子どもや保護者の状況に応じた適切な助言をすることができる			
		・活動を工夫しながら、保護者同士のつながりがもてるよう支援している			
⑧地域の子育て家庭等を支援する力（地域における子育て支援）	園を訪れる地域の保護者等に対して、親しみをもって応じ、気持ちよく利用できるような雰囲気づくりをする				
	・園庭開放や体験保育等に参加した保護者に対して、親しみをもって応じ、安心して気持ちよく利用できるような雰囲気づくりができる				
	・地域の保護者のニーズに応じて適切な情報提供や保護者への助言ができる				
園 の 運 営 力 ・ 組 織 貢 献 力 に 関 す る 自 己 診 断	⑨学級経営に関わる事務を的確に処理する力（学級経営）	担任としての学級経営に関する責任を果たすとともに、他の職員の相談にのり、助言をする			
		・出席簿や健康に関する書類、安全点検表等日々の記載が適切にできている			
		・児童票や指導要録・保育要録、育成記録等への記載を期限内に適切に行っている			
		・記録の取り方を自分なりに工夫し、子どもの育ちへつなげていくための資料とすることができている			
		・園全体の学級事務に気を配り、提出期限や処理の仕方を指導できている			
⑩園務分掌とその内容を理解し、企画・立案する力（園務分掌）	園務についての理解を深め、後輩の指導をしながら組織の一員として園務の遂行に努める				
	・担当分掌を責任をもって遂行するとともに、新たなアイデアをもって改善や提言をしている				
	・園全体の運営方針・目標を把握し、職務全般に反映させている				
	・園の運営について自分のこととして常に考え、職員会議等においても積極的に前向きな発言ができる				
⑪上司や同僚と協働して、円滑に園務を遂行できる力（職員間の連携）	同僚からの相談に応じて、適切な助言をする				
	・明るい挨拶や豊かな表情で、職員の集団の中で自分の位置を意識した取組をしている				
	・同僚からの相談に応じたり、適切な指導・助言ができる				
	・自ら進んで園務の遂行を図り、職員間の連携への取組をしている				
	・必要に応じて上司等に報告、連絡、相談し、円滑に園務を遂行できるようにしている				

シート2

〈中堅ステージ〉5年～10年未満の保育者

資質・指導力	具体的な行動例	評価			評価理由等	
		月 日	月 日	月 日		
危機管理に関する自己診断	園全体の危機管理を理解し、より安心して、より安全に生活できる環境を工夫し、改善に努める					
	⑫子どもが安心して過ごすことができる施設や遊具等の安全な環境を整える力(安全管理)	・危機管理を意識し、園が作成した様々なマニュアル・ガイドラインを理解し、それに沿った環境を整えている				
		・保育前の安全点検全般の確認を行っている				
		・自然災害発生時の個々の動き、園全体の動きを意識し、訓練時に確実に実践している				
		・不審者対策や交通安全対策について、個々の動き、園全体の動きを意識し、訓練時に確実に実践している				
		・アレルギーや与薬等、一人一人の状況を把握するとともに、保健計画(マニュアル・ガイドライン)に沿った環境構成及び対応について、助言及び支援を行う				
		・感染症予防対策等を考慮し、園全体を見通した清潔、子どもの動線に配慮した環境構成をしている				
		・子どもの心身の状態、体調、けが等子どもの変化を読み取り、適切な対応とともに、保護者への連絡や上司への報告ができています				
⑬家庭や地域と連携し、子どもが危険から身を守り、安全に行動できるように指導する力(安全教育)	家庭や地域と連携を図りながら、安全や命を守るために指導を行う					
	・園内外での安全や命を守るためのきまりについて理解し、子どもの発達に応じて子どもに伝え、安全と危険の違いについての指導ができています					
	・災害や事故等の際に瞬時に行動できるような取組を、日頃から遊びの中で工夫するとともに、家庭との連携を視野に入れている					
	・お便りや保護者会等を通じて防災・防犯に関する情報を提供すること等について、後輩に助言をしている					
保育者としての姿勢	自己課題をもって研修に参加するとともに、園内研修において後輩と園長等の考えをつなぐ					
	⑭保育者として自分の課題を発見し、自己研鑽していく力(自己研鑽)	・日々の保育を楽しむ工夫を、後輩や同僚と話し合い、実践につなげている				
		・自身の保育を高め、後輩や同僚、同業者や保護者に保育の内容を説明できる力を身に付ける努力をしている				
		・園等職場での研修会に積極的に参加するとともに、企画にも携わる等、資質向上に努めている				
	⑮乳幼児期の発達や学びを踏まえた教材の研究をする力(教材研究)	個々の育ちに応じた保育が展開されるための教材の準備をするとともに、後輩の相談にも応じる				
		・ <u>もの</u> との関わりを深めるような教材を研究している				
		・子どもの発達を促すような遊具や用具を研究し、準備をしている				
		・園全体で職員の音楽や物作り等の技術が高まるような取組を行っている				

【シート2】キャリアステージにおける資質・指導力チェックシート

令和（ ）年度 園名（ ） 氏名（ ）

中堅保育者（10年以上）〈中堅ステージ〉

評価の目安： 4 大変良い 3 良い 2 やや不十分 1 不十分

資質・指導力	具体的な行動例	評価			評価理由等	
		月 日	月 日	月 日		
①子どもの主体的な学びを保障するための環境構成を行う力 (環境の構成)	他クラスや他学年の教育・保育の展開を意識して、園全体の環境を視野に入れて豊かなモノや人との関わりを生み出す実践を行う					
	・学年合同や異年齢の実践を積極的に取り入れ、保育環境に変化をつけている ※学年…同一年齢クラス					
	・他の保育室や園庭も含めて美的環境・保健衛生に配慮している					
	・実践を通して、環境の構成や再構成の見本となっている					
	・一人一人の子どもの発達段階を踏まえ、子どもが様々なものに興味や関心をもち、主体的に取り組むことができる環境を保育室以外にも目を向けて構成している					
	・後輩や同僚と一緒に、遊具や用具、素材等についての教材研究を深めている					
	・他の保育室や園庭も視野に入れながら、人権に配慮した環境を整えている					
	・他学級の活動や保育の中で大切にしていることを知り、保育の環境構成の設定や調整をしている					
	・園行事等園全体で取り組む活動の環境構成では、中心的な役割を果たす					
	②一人一人の子どもの特性や発達、ねらい等に適した援助を行う力 (援助)	各職員のモデルとなり、子ども一人一人に応じた適切な援助を行う				
		・集団の中で一人一人のその子らしさが大切にされるコミュニケーションができています				
		・常に後輩の手本となっていることを意識して、一人一人の特性や発達を捉え、適切なねらいをもって援助をしている				
		・特別な配慮を必要とする子どもの受け入れがスムーズにできています				
・一人一人に応じて、家庭と連携して、基本的な生活習慣の定着や様々な人やもの、事象への興味や関心を高めるための援助を工夫している						
・一人一人の経験による発達の違いを理解し、全体的な計画・教育課程等を見通したねらいをもって援助している						
・領域等のねらいを踏まえ、年間を通して計画的に保育を進めている						
・一人一人のその子らしさを大切に、必要な援助を丁寧に行っている						
・異年齢の交流や合同の保育場面等でも、一人一人の特性や発達を踏まえた援助ができています						
・記録を通してその子らしさを生かしながら、子ども同士の育ち合いを促す適切な援助であったかを保育のねらいとともに振り返っている						
・自身の実践や記録を基に後輩の悩みや相談にのっている						
・園内研修等で、自らの子どもとの関わりについて積極的に語りながら、若年保育者の指導ができています						

シート2

〈中堅ステージ〉中堅保育者（10年以上）

指導力向上に向けての自己診断

資質・指導力	具体的な行動例	評価			評価理由等
		月 日	月 日	月 日	
③ねらいに沿って指導を適切に展開し、改善する力 (指導計画の作成と保育展開・評価)	園の行事などで実践の中心的な役割を果たしながら、年間指導計画を見直していく				
	・ 自園のねらいや内容を子どもたちがどの程度達成しているかを評価するとともに、自らの保育のねらいや内容の在り方を見直している				
	・ 後輩の手本となるよう、ねらいに沿った保育を展開しつつ、子どもの状態に応じ、柔軟性をもって対応している				
	・ 日々の実践の中で、若年保育者と一緒に保育をしながら、その指導にあたっている				
	・ 子どもの興味や関心を理解し、多彩な想像力と柔軟な発想で、子どもの経験を豊かにすることができる				
	・ 教材や指導方法を創意工夫して、子どもが意欲的に活動に取り組むことができるような環境の構成や援助をしている				
	・ 集団における規範意識の育成や望ましい人間関係づくりに、保護者と一緒になって取り組んでいる				
	・ 日々のねらいに即した記録や週日案の改善から、一人一人の発達に必要な経験が得られる保育を創造している				
	・ 後輩の手本となっていることを意識し、普段の遊びから行事(運動会・表現活動等)につながっていく保育展開を適切にしている				
	・ 園行事等で中心的な役割を担いながら、チーム保育を進めている				
・ 園内研修を通して、保育の見直しを図っている					
④地域の資源を活用し、指導の充実を図る力 (地域との連携)	様々な機会を通して子どもや保護者と地域とのつながりを深めていく				
	・ 家庭や地域での遊びや生活も考慮し、地域の人的・物的資源を活用しながら指導計画の立案や指導を行っている				
	・ 保育を通して地域との連携を深めている				
⑤保護者や必要な機関と連携を取りながら一人一人の育ちを支える力 (関係諸機関との連携)	園内の話し合いの中心的な役割を果たし、協力体制の推進役になる				
	・ 特別な配慮が必要な子どもや集団生活において困難さをもつ子どもの状況や教育・保育ニーズを把握している				
	・ 様々な種類の障害について専門的知識を有し、可能な限り子どもの困難さを取り除くことができるよう、他学級への助言を行っている				
	・ 要保護家庭、要支援家庭、ハイリスク家庭等を早めに発見し(気づき)、早期の支援につなげることができる				
	・ 子育てに関わる専門機関(児童相談所やコーディネーター、保健所等)と連携を取ることができる				
	・ 園内で情報共有しながら関係機関との連携に必要な計画の立案や準備、記録、評価を的確に行うことができる(個別の指導計画等の作成と活用)				
・ 関係諸機関を把握し、実態に応じた対応や連携が取れている					
⑥発達や学びの連続性を見直し、指導する力 (保幼小の連携・接続)	小学校等との円滑な接続の必要性を理解し、学びや発達を見通した計画及び実践を行う				
	・ 連携の必要性を理解し、学びや発達を見通した計画を作成したり、実施に向けた働きかけを行ったりしている(子ども同士や職員同士の交流)				
	・ 小学校と連携を図り、合同研修会等に参画している				
	・ 幼児教育において育みたい資質・能力を意識した各年齢における経験や育ちを把握し、長期的な見直しをもった保育を展開している				
	・ 各年齢の経験や育ちが小学校でのどのような姿につながっていくのかを理解し、乳幼児期にふさわしい活動の展開をしている				
	・ 保育所保育指針・幼稚園教育要領等、小学校学習指導要領について理解を深め、後輩の質問等に応じている(5領域・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿、スタートカリキュラム等)				
・ 保幼小接続期カリキュラムについての理解を深める情報収集に努め、具体的な計画の作成・実施を行っている					

資質・指導力	具体的な行動例	評価			評価理由等
		月 日	月 日	月 日	
親 育 ち 支 援 力 に 関 す る 自 己 診 断	⑦在園児の保護者に対して子育てを支援する力(保護者への支援)	保護者同士の関係をつくり、保護者が育ち合う場を提供する			
		・積極的に保護者とコミュニケーションをとり、保護者が気軽に相談しやすい雰囲気をつくるとともに、保育の理解を得ている			
		・カウンセリングやソーシャルワークの技術を活用し、個々の状況に応じた支援ができる			
		・個々の状況に応じた支援のために、園内外の連携協力体制をつくり、課題解決に向けた具体的な支援ができる			
		・様々な子育てに関する情報について、適切なものを見極め、理解して情報を発信できる			
		・特別な配慮が必要な子どもや配慮が必要な子どもの保護者に対して、不安の軽減や障害受容についての取組ができる			
		・後輩の見本となり、活動を工夫しながら、保護者同士のつながりがもてるよう支援している			
	・感染症防止対策等を踏まえた園行事等の在り方や保護者との連携について、課題解決に向けた具体的な提案や取組ができている				
⑧地域の子育て家庭等を支援する力(地域における子育て支援)	園を訪れる地域の保護者等に対して、親しみをもって応じ、気持ちよく利用できるような雰囲気づくりをする				
		・園庭開放や体験保育等に参加した保護者に対して、親しみをもって応じ、安心して気持ちよく利用できるような雰囲気づくりができる			
		・地域の保護者のニーズに応じて適切な情報を提供し、保護者や後輩への助言ができる			
園 の 運 営 力 ・ 組 織 貢 献 力 に 関 す る 自 己 診 断	⑨学級経営に関わる事務を的確に処理する力(学級経営)	担任としての学級経営に関する責任を果たすとともに、他の職員の相談にのり、助言をする			
		・記録の取り方を自分なりに工夫し、子どもの育ちへつなげていくための資料とすることができている			
		・園全体の学級事務に気を配り、提出期限や処理の仕方を指導できている			
		・子ども達にとって安心感のあるクラス経営をするとともに、他のクラス担任の見本となっている			
⑩園務分掌とその内容を理解し、企画・立案する力(園務分掌)	園務について理解を深め、よりよい園運営に向けて遂行しながら改善を提案する				
		・それぞれの職員に応じて役割分担ができる			
		・園運営上の課題の解決に向け、園務分掌等の取組に積極的に参画している			
		・園の研究主題に向け、取組や実践、まとめの中心として主体的に参加し取組を進めている			
	・個々の状況に応じた支援のために園内での連携協力体制をつくること ができる				

シート2

〈中堅ステージ〉中堅保育者(10年以上)

資質・指導力	具体的な行動例	評価			評価理由等
		月 日	月 日	月 日	
園の運営力・組織貢献力に 関する自己診断	それぞれの立場を理解し、よりよい実践になるよう職員間の連携を図る				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後輩にとって、見本となる保育実践や親育ち支援の実践を通して、具体的な指導・助言ができる</li> </ul>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の組織力が発揮されるような職員間の連携への取組を行い、連携の要となっている</li> </ul>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて上司等に報告、連絡、相談し、円滑に園務を遂行できるようにしている</li> </ul>				
危機管理に関する自己診断	園全体の危機管理を理解し、より安心して、より安全に生活できる環境を工夫し、改善に努める				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危機管理を意識し、園が作成した様々なマニュアル・ガイドラインを理解し、より安全により安心して生活できる環境を工夫している</li> </ul>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育前の安全点検全般の確認・指導を行っている</li> </ul>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然災害発生時の園の個々の動き、園全体の動きを意識し、的確な指示も行い、訓練時に確実に実践している</li> </ul>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不審者対策や交通安全対策について、職員・子ども等の動き、園全体の動きを意識し、的確な指示も行い、訓練時に確実に実践している</li> </ul>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アレルギーや与薬等、一人一人の状況を把握するとともに、保健計画(マニュアル・ガイドライン)に沿った環境構成及び対応について指導している</li> </ul>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症予防対策等を考慮し、園全体を見通した清潔で子どもの動線に沿った環境構成を指導している</li> </ul>				
家庭や地域と連携を図りながら、安全や命を守るために指導を行う	家庭や地域と連携し、子どもが危険から身を守り、安全に行動できるように指導する力(安全教育)				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園内外での安全や命を守るためのきまりについて、子どもの発達に応じて子どもに伝え、安全と危険の違いについての指導ができています</li> </ul>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害や事故等の際に瞬時に行動できるような取組を、日頃から遊びの中で工夫するとともに、家庭との連携、連絡も行っている</li> </ul>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お便りや保護者会等を通じて防災・防犯に関する情報を提供する等の取組を、園全体で行う工夫をしている</li> </ul>				
保育者としての姿勢	自己課題をもって研修に参加するとともに、園内研修において中心的役割を果たし、質の向上を図る				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園全体で日々の保育を楽しむ工夫ができるよう、職員同士のコーディネーター役をする等、実践につなげている</li> </ul>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自身の保育を高め、同業者や保護者に保育の内容を説明でき、研究発表等公の場で発表できる力を身に付ける</li> </ul>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園内研修の中核者としての役割を認識するとともに、研修を活性化するコーディネーター役として努めている</li> </ul>				
	後輩に必要な教材について具体策と一緒に考え、助言・指導する				
15乳幼児期の発達や学びを踏まえた教材の研究をする力(教材研究)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びの中でもとの関わりを深めるような教材を研究し、作る等の取組をしている</li> </ul>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの発達を促すような遊具や用具を研究し、準備をしている</li> </ul>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園全体で職員の音楽や物作り等の技術が高まるような取組を企画・実践している</li> </ul>				

【シート2】キャリアステージにおける資質・指導力チェックシート

令和( )年度 園名( ) 氏名( )

主任・教頭等〈管理職ステージ〉

評価の目安：4 大変良い 3 良い 2 やや不十分 1 不十分

資質・指導力	具体的な行動例	評価			評価理由等
		月 日	月 日	月 日	
①子どもの主体的な学びを保障するための環境構成を行う力 (環境の構成)	<b>各職員の意見を反映しつつ、協働して乳幼児期の発達を保障する園環境をつくる</b>				
	・園の特色や課題を整理し、よりよい環境にしようとすることを意識している				
	・園全体の美的環境・保健衛生に配慮できている				
	・保育所保育指針・幼稚園教育要領等で述べられている「環境を通して行う教育・保育」を理解し、職員に周知している				
	・各クラス担任の環境の構成に指導的な立場でアドバイスしている				
	・職員との話し合いをもとに、年間指導計画の評価・改善をしている				
	・園外の環境を活用し、地域の人・もの・施設等の活用を促している				
	・時代や子どもを取り巻く環境の変化（遊びの時間・空間・人との関わり等の減少等）に対応した環境について、提言できている（ICTの活用等）				
	・園長の考えと職員の意見を考慮して、園目標の実現に向けた具体的な取組の構想を園長や職員に提言している				
	・園経営の特色ある園づくりに向け、園長を補佐し、園内外の環境を知り、課題に向けて園長に考えを述べている				
・基礎ステージの項目を管理し、指導している					
指導力向上に向けての自己診断	<b>各職員が一人一人に応じた援助を適切に行えるよう指導する</b>				
	・一人一人の子どもの内面を理解し、必要に応じた援助が適切に実施されているか把握し、指導している				
	・園全体で一人一人のその子らしさが大切にされる援助になるよう、指導・助言を行っている				
	・年齢や期による発達を見極め、遊びと育ちを系統的に理解をし、指導している				
	・子どもの発達を通して記録を分析し、適切な助言をしている				
	・基礎ステージの項目を管理し、指導している				
③ねらいに沿って指導を適切に展開し、改善する力 (指導計画の作成と保育展開・評価)	<b>職員との話し合いに積極的に参加しながら、年間指導計画の評価・改善に努める</b>				
	・全体的な計画・教育課程を、自園や社会の子どもの実態を踏まえて検証し、必要に応じて適切な見直しをしている（カリキュラム・マネジメントの適切な実施）				
	・保育所保育指針・幼稚園教育要領等を拠り所としながら、指導計画の立案及び反省・評価について適切な指導・助言を行っている				
	・園長の補佐をし、普段の遊びや生活がにつながる行事（運動会・表現活動等）になるよう、指導・助言を行っている				
	・保育技術を確立し、指導・助言している				
	・園内研修や打ち合わせ等を通して、職員がねらいに沿って保育ができるよう指導している				
	・若年保育者がねらいに沿った保育ができるようにしている				
	・園長の補佐をし、園の教育・保育目標の実現に向けて、具体的な目標を定め、職員と協働している				
	・園長の補佐をし、職員一人一人の自律性を尊重し、その職員らしく考えた保育が展開できるように側面からの支援をしている				
・基礎ステージの項目を管理し、指導している					

シート2

〈管理職ステージ〉主任・教頭等

資質・指導力	具体的な行動例	評価			評価理由等
		月 日	月 日	月 日	
④地域の資源を活用し、指導の充実を図る力(地域との連携)	<b>園長を補佐しながら、地域の人的・物的資源を活用した園づくりを進める</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域のよさや伝統的な文化を理解し、職員に伝えていく</li> <li>・ 地域の人的・物的資源を活用し、子どもが地域社会の中で活動の機会を得られるための取組を園長とともに進めている</li> </ul>				
⑤保護者や必要な機関と連携を取りながら一人一人の育ちを支える力(関係諸機関との連携)	<b>様々な関係機関の特性や業務内容について情報を得、職員と専門機関又は他の専門領域をもつ専門家との間に入って連携する</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特別な配慮が必要な子どもや集団生活において困難さをもつ子どもについて職員との連携の中で十分に把握して、園長に対して、必要な連携について提言している</li> <li>・ 要保護児童や虐待についての制度や支援システムを理解し、児童相談所を中心とした関係機関との連携ができています</li> <li>・ 園長を補佐し、特別支援教育やその他関係機関との必要な連携について、その情報を収集したり円滑な連携を図ることができています</li> <li>・ 様々な関係機関の特性や業務内容について知識を得、必要に応じて専門機関への橋渡しができる(個別の指導計画等の作成と活用への助言)</li> <li>・ 園長を補佐し、様々な関係機関や地域との信頼関係を築き、園経営に生かしている</li> <li>・ 特別な配慮を必要とする子どもについて、必要な関係機関について情報を得、信頼関係を築いている</li> <li>・ 特別な配慮を必要とする子どもについて、小学校と入学前から連携し、就学時引き継ぎシート等も活用できるよう働きかける</li> <li>・ 基礎ステージの項目を管理し、指導している</li> </ul>				
	<b>小学校等との連携について職員とともに計画し、園長に提言する</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 連携の必要性について明確に把握し、職員と一緒に具体的な計画を行い、園長に提言している</li> <li>・ 自園の課題や特性、教育方針等の条件を考慮して、保育所・幼稚園等、小学校に対する働きかけができています</li> <li>・ 乳児期から幼児期、幼児期から児童期への発達を生涯発達の過程として捉え、その望ましい在り方や援助の仕方を考えることができています(幼児教育において育みたい資質・能力についての指導)</li> <li>・ 保育所保育指針・幼稚園教育要領等、小学校学習指導要領について理解し、連携・接続に関する知識を習得し、職員に助言している</li> <li>・ 保幼小接続カリキュラムについて理解し、自園の課題等に応じたものになっているか見極め、作成・実施にあたっている(5領域・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿、スタートカリキュラム等)</li> <li>・ 基礎ステージの項目を管理し、指導している</li> </ul>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特別な配慮を必要とする子どもについて、必要な関係機関について情報を得、信頼関係を築いている</li> <li>・ 特別な配慮を必要とする子どもについて、小学校と入学前から連携し、就学時引き継ぎシート等も活用できるよう働きかける</li> <li>・ 基礎ステージの項目を管理し、指導している</li> </ul>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特別な配慮を必要とする子どもについて、必要な関係機関について情報を得、信頼関係を築いている</li> <li>・ 特別な配慮を必要とする子どもについて、小学校と入学前から連携し、就学時引き継ぎシート等も活用できるよう働きかける</li> <li>・ 基礎ステージの項目を管理し、指導している</li> </ul>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特別な配慮を必要とする子どもについて、必要な関係機関について情報を得、信頼関係を築いている</li> <li>・ 特別な配慮を必要とする子どもについて、小学校と入学前から連携し、就学時引き継ぎシート等も活用できるよう働きかける</li> <li>・ 基礎ステージの項目を管理し、指導している</li> </ul>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特別な配慮を必要とする子どもについて、必要な関係機関について情報を得、信頼関係を築いている</li> <li>・ 特別な配慮を必要とする子どもについて、小学校と入学前から連携し、就学時引き継ぎシート等も活用できるよう働きかける</li> <li>・ 基礎ステージの項目を管理し、指導している</li> </ul>				
⑥発達や学びの連続性を見通し、指導する力(保幼小の連携・接続)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 連携の必要性について明確に把握し、職員と一緒に具体的な計画を行い、園長に提言している</li> <li>・ 自園の課題や特性、教育方針等の条件を考慮して、保育所・幼稚園等、小学校に対する働きかけができています</li> <li>・ 乳児期から幼児期、幼児期から児童期への発達を生涯発達の過程として捉え、その望ましい在り方や援助の仕方を考えることができています(幼児教育において育みたい資質・能力についての指導)</li> <li>・ 保育所保育指針・幼稚園教育要領等、小学校学習指導要領について理解し、連携・接続に関する知識を習得し、職員に助言している</li> <li>・ 保幼小接続カリキュラムについて理解し、自園の課題等に応じたものになっているか見極め、作成・実施にあたっている(5領域・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿、スタートカリキュラム等)</li> <li>・ 基礎ステージの項目を管理し、指導している</li> </ul>				



資質・指導力	具体的な行動例	評価			評価理由等
		月 日	月 日	月 日	
親 育 ち 支 援 力 に 関 す る 自 己 診 断	園内で役割分担をしながら、組織として保護者を支援するための役割を担う				
	・保護者が気軽に相談や意見を述べるができる場や環境を整えることができている				
	・適切な保護者理解ができ、園長とともに一人一人の保護者に応じた関わりや支援ができている。またそのために必要な知識や技能を習得している				
	・保護者との信頼関係を築き、必要に応じて保護者と職員の仲立ちをする等、望ましい学級経営や園経営が実施できるようにしている				
	・職員からの保護者対応の仕方や悩み等に対して適切に助言をし、情報を共有しながら組織的な関わりに努めている				
	⑦在園児の保護者に対して子育てを支援する力(保護者への支援)				
	・園長を補佐し、機会を捉えて園の教育に関して保護者に説明する等し理解を促している				
	・要保護児童の保護者等に対して、関係機関との連携を密にし、必要に応じて協力を支援にあたり、面談や関係機関を紹介したりしている				
	・保護者同士がつながることの必要性について理解し、具体的な企画・運営について指示・支援ができている				
	・園長を補佐し、保護者との信頼関係の構築に努め、子育てに対する相談や情報提供、保護者同士の交流の場を提供する等、子育て支援のセンター的な役割を担っている				
・基礎ステージの項目を管理し、指導している					
・園長を補佐し、感染症防止対策等を踏まえた園行事等の在り方や、保護者・職員の連携体制について理解を促している					
園 の 運 営 力 ・ 組 織 貢 献 力 に 関 す る 自 己 診 断	園の子育て支援の計画に基づいて実践し、園長を補佐しながら子育て情報を発信する				
	・園庭開放や体験保育等に参加した保護者に対して、親しみをもって応じ、安心して気持ちよく利用できるような雰囲気づくりができている				
	・園長を補佐し、地域の保護者が気軽に利用したり、相談したり、保護者同士が交流したりできる場を計画的に設定し、情報を発信している				
	・園長を補佐し、地域の子育て支援にあたって、専門機関と連携できる体制を整えている				
	・基礎ステージの項目を管理し、指導している				
園 全 体 を 見 通 し て 各 担 任 の 事 務 処 理 等 を 確 認 し 、 効 率 化 に 向 か っ て 指 導 ・ 助 言 す る	園全体を見通して各担任の事務処理等を確認し、効率化に向かって指導・助言する				
	・児童票や指導要録・保育要録、公文書等を確認し、適切に取り扱うことができている				
	・記録の取り方が身に付けられるよう、指導・助言ができている				
	・職員の事務処理を確認し、必要に応じて指導・助言できている				
	⑨学級経営に関わる事務を的確に処理する力(学級経営)				
	・個人情報等の取扱い及び管理を適切に実施するとともに、職員への指導ができている				
	・職員の指導やクラス経営の悩みや課題にアドバイスをしている				
	・園長と協力し、施設の管理と改革・改善を図っている				
・園長と協力し、組織の運営の管理と改革に努めている					
・基礎ステージの項目を管理し、指導している					

シート2

〈管理職ステージ〉主任・教頭等

資質・指導力	具体的な行動例	評価			評価理由等	
		月 日	月 日	月 日		
園の運営力・組織貢献力に関する自己診断	職員の関心や立場、負担等を踏まえて、園長を補佐しながら、よりよい園務の遂行に努める					
	⑩園務分掌とその内容を理解し、企画・立案する力(園務分掌)	・ 園務において必要な企画・立案を行い、円滑な園経営に努めている				
		・ 園務分掌を理解し、それぞれの職員に応じて役割分担し、助言や指導ができています				
		・ 園長を補佐し、職員の関心や立場、負担等を踏まえて、よりよい園務の遂行ができる環境を整備している				
		・ 職員の係の役割が円滑に遂行されているか目を配っている				
		・ 園長の補佐をし、職員が研修に参加しやすい体制を整えている				
		・ 研究の推進や園目標の達成に向けて職員と協働して取り組んでいる				
		・ 必要な情報を積極的に収集・分析し、有効に活用することができています				
		・ 園の教育方針・教育目標について理解し、職員に具体的、実践的に助言ができています				
		・ 園のニーズに応じた長期・短期の経営方針を理解し、重要度、緊急度、成果等を的確かつ総合的に捉え、職員に指導ができています				
		・ 自園の伝統的な取組の継続と改革に努めている				
		・ 基礎ステージの項目を管理し、指導している				
⑪上司や同僚と協働して、円滑に園務を遂行できる力(職員間の連携)	園長を補佐するとともに、職員と信頼関係を築き、職員に対して必要に応じて支援する					
		・ 職員一人一人のよさや能力、クラスの状態を把握している				
		・ 職員の健康状態や心身のバランスに気を配り、気になることはすぐに園長に報告している				
		・ 園長を補佐するとともに、職員と信頼関係を築き、職員を支援し、園務を円滑に遂行している				
		・ 園長の補佐をし、職員が研修で学んだことを報告する場を設定している				
		・ 職員を公正・公平に評価し、その評価に応じた適切な指導を、園長を補佐している				
		・ 職員の実態を把握し、資質や能力の向上につながる助言や指導をしている				
		・ 上司の方針を職員が理解しているか把握し、指導している				
		・ 上司の方針を理解し、職員と協力して教育・保育目標の実現を図っている				
		・ 報告、連絡、相談を徹底している				
	・ 基礎ステージの項目を管理し、指導している					

資質・指導力	具体的な行動例	評価			評価理由等
		月 日	月 日	月 日	
危機管理に関する自己診断	園長を補佐し、危機管理のためのマニュアルを整備し、園内体制を確立する				
	・園長を補佐し、危機管理のためのマニュアルやガイドラインを整備し、園内体制を確立している				
	・保育室や園庭及び用具の安全点検について、専門家による項目及び内容を整備している				
	・自然災害発生時には園長の補佐をしつつ、園全体の動き、安全性の確保等自己の役割を確実に行うとともに、保護者や関係機関への連絡等、的確な対応ができています				
	・不審者対策や交通安全対策について、園長を補佐し、職員・子ども等の個々の動きを確認しつつ、安全性の確保等自己の役割を確実に行うとともに、保護者や関係機関への連絡等、的確な対応ができています				
	・アレルギーや与薬等、保健計画(マニュアル・ガイドライン)に沿った環境構成及び対応の確認、見直しを実施している(与薬については、適正な管理責任がある)				
	・感染症予防対策等を考慮し、園全体を見通した清潔で子どもの動線に沿った環境構成を指導している				
⑬家庭や地域と連携し、子どもが危険から身を守り、安全に行動できるように指導する力(安全教育)	園全体で安全教育が行われるよう、必要に応じて職員の指導・支援をする				
	・園内外での安全や命を守るためのきまり、及び安全と危険の違いや察知についての心構えを育てるという視点をもって、職員に指導している				
	・災害や事故等の際に瞬時に行動できるような取組を、職員に指導している				
	・保護者に対してお便りや保護者会等を通じて防災・防犯に関する情報の提供や説明を行い、共通認識をもって子どもの命の安全のために取り組めるよう、園長を補佐している				
	・基礎ステージの項目を管理し、指導している				
保育者としての姿勢	常に向上心をもって取り組み、園全体の動きを把握しながら職員研修のマネジメントをする				
	・園全体で日々の保育を楽しむ環境を工夫するとともに、職員に助言・支援をしている				
	・園の保育・指導内容等を、職員や保護者、同業者に説明ができるとともに、園長を補佐し、説明ができる職員を育成している				
	・職員の研修意欲を高める工夫をするとともに、園内での研修充実のための中核者の育成を図っている				
	・園長を補佐し、常に向上心をもって研修に参加する等職員の模範となるよう資質の向上に努めている				
	・基礎ステージの項目を管理し、指導している				
⑮乳幼児期の発達や学びを踏まえた教材の研究をする力(教材研究)	教材研究や、やりたいことが実現できる教材の提案をするなど各職員が教材研究を楽しむ雰囲気をつくる				
	・職員が行う取組について、助言や指導を行うとともに、職員に気付きを促す等、実現に向けて適切に支援している				
	・園全体で全体的な計画・教育課程に沿った、職員の音楽や物作り等の技術が高まるような取組を促すとともに、内容についての状況の把握を行う				
	・基礎ステージの項目を管理し、指導している				

シート2

〈管理職ステージ〉主任・教頭等

【シート2】キャリアステージにおける資質・指導力チェックシート

令和（ ）年度 園名（ ）氏名（ ）

所長・園長(管理職ステージ)

評価の目安：4 大変良い 3 良い 2 やや不十分 1 不十分

資質・指導力	具体的な行動例	評価			評価理由等
		月 日	月 日	月 日	
①子どもの主体的な学びを保障するための環境構成を行う力(環境の構成)	地域や園の実態を踏まえ、よりよい教育・保育の実現に向けて、環境の維持改善に努める				
	・園評価を通して、園の特色、地域の実態と、それらと子どもたちの育ちを関連させ、園環境の課題を整理している				
	・園全体の美的環境・保健衛生に配慮し、必要に応じて工夫・改善のための予算の確保をしている				
	・保育所保育指針・幼稚園教育要領等で述べられている「環境を通して行う教育・保育」を理解し、職員に周知している				
	・全体的な計画や教育課程の評価・改善を通して、園環境の改善をしている				
	・園や子どもの課題等に応じた必要な環境が整っているか見極め、指導・助言ができています				
	・園外環境を活用し、地域の人・もの・施設等の活用をしている				
	・時代や子どもを取り巻く環境の変化（遊びの時間・空間・人との関わりの減少等）に対応した環境について、提言ができています（ICTの活用等）				
	・全体的な計画の作成や教育課程の編成及び実施にあたって、園内外の環境を熟知し、課題を捉えた園経営目標の設定をしている				
	・職員を見守り、園の経営者としての方向性を示している（それぞれの項目に対して）				
・職員が組織の一員としてそれぞれの立場で活躍しているか把握し、必要に応じて導いている（それぞれの項目に対して）					
②一人一人の子どもの特性や発達、ねらい等に適した援助を行う力(援助)	各職員が一人一人に応じた援助を適切に行えるよう、資質向上のための学び合いの場をつくる				
	・一人一人の子どもの内面を理解し、必要に応じた援助が適切に実施されているか把握し、指導している				
	・園全体で一人一人のそのらしさが大切にされる援助になるよう、指導・助言ができています				
	・年齢や期による発達を見極め、遊びと育ちを系統的に理解し、指導している				
	・子どもの発達を通して記録を分析し、適切な指示ができています				
	・職員がそのキャリアに応じて一人一人に応じる指導ができるための研修の場をつくっている				
	・子どもや保護者のニーズや満足度を把握している				
	・職員を見守り、園の経営者としての方向性を示している（それぞれの項目に対して）				
	・職員が組織の一員としてそれぞれの立場で活躍しているか把握し、必要に応じて導いている（それぞれの項目に対して）				

資質・指導力	具体的な行動例	評価			評価理由等
		月 日	月 日	月 日	
③ねらいに沿って指導を適切に展開し、改善する力(指導計画の作成と保育展開・評価)	<b>各職員が教育・保育課程を踏まえてよりよい実践ができる園環境をつくる</b>				
	・職員と積極的に話し合いながら、全体的な計画・教育課程の評価・改善と共通理解に努めている(カリキュラム・マネジメントの適切な実施)				
	・保育所保育指針・幼稚園教育要領等を拠り所にしなが、指導計画や記録について適切な指導・助言を行っている				
	・普段の遊びや生活につながる行事(運動会・表現活動等)になるよう、指導・助言を行っている				
	・保育技術を確立し、指導・助言できている				
	・園の教育・保育目標の実現に向けて、具体的な目標を定め、職員と協働している				
	・職員一人一人の自律性を尊重し、その職員らしく考えた保育が展開できるように側面からの支援をしている				
	・目標の達成度について園評価等を通して見直し、修正している				
	・職員を見守り、園の経営者としての方向性を示している(それぞれの項目に対して)				
	・職員が組織の一員としてそれぞれの立場で活躍しているか把握し、必要に応じて導いている(それぞれの項目に対して)				
④地域の資源を活用し、指導の充実を図る力(地域との連携)	<b>地域との信頼関係を築き、地域の資源を活用した園づくりを進める</b>				
	・地域よさや伝統的な文化を理解し、職員に伝えていくとともに、計画的に保育に取り入れることができるよう、指導・助言を行っている				
	・地域の資源についての情報収集に努めながら、地域の人的・物的資源を活用し、子どもが地域社会の中で活動の機会を得られるための取組を進めている				
⑤保護者や必要な機関と連携を取りながら一人一人の育ちを支える力(関係諸機関との連携)	<b>必要に応じて関係機関と連携できる体制を整え、園全体の連携する力を高める</b>				
	・特別な配慮が必要な子どもや集団生活において困難さをもつ子どもについて職員との連携の中で十分に把握している				
	・虐待や虐待の疑われるケースについて、通告や相談と適切な手続きを適切なタイミングで実施することができる				
	・特別支援教育やその他関係機関との必要な連携について、その情報を収集したり円滑な連携を図ることができている				
	・様々な関係機関の特性や業務内容について知識を得、必要に応じて連携が取れている(個別の指導計画等の作成と活用への指導・助言)				
	・様々な関係機関や地域との信頼関係を築き、園経営に生かしている				
	・特別な配慮を必要とする子どもについて、必要な関係機関について情報を得、信頼関係を築き、連携を密にしている				
	・特別な配慮を必要とする子どもについて、小学校と入学前から信頼関係を築き、就学時引き継ぎシート等も活用し、連携を密にしている				
	・職員を見守り、園の経営者としての方向性を示している(それぞれの項目に対して)				
	・職員が組織の一員としてそれぞれの立場で活躍しているか把握し、必要に応じて導いている(それぞれの項目に対して)				

シート2

〈管理職ステージ〉所長・園長

指導力向上に向けての自己診断

資質・指導力	具体的な行動例	評価			評価理由等
		月 日	月 日	月 日	
指導力向上に向けての自己診断 ⑥発達や学びの連続性を見直し、指導する力（保幼小の連携・接続）	<b>小学校等との連携が円滑に行えるよう、園内外に積極的に働きかける</b>				
	・連携の必要性について明確に把握し、関係機関に積極的に働きかけている				
	・自園の課題や特性、教育方針等の条件を考慮して、保育所・幼稚園等、小学校に対する働きかけの方針を構築している				
	・乳児期から幼児期、幼児期から児童期への発達を生涯発達の過程として捉え、その望ましい在り方や援助の仕方を考えることができる（幼児教育において育みたい資質・能力についての指導）				
	・保育所保育指針・幼稚園教育要領等、小学校学習指導要領について理解し、連携・接続に関する知識を習得し、職員に対し周知している				
	・保幼小接続期カリキュラムについて理解し、自園の課題等に応じたものになっているか見極め、作成・実施にあたり、職員に指導・助言できている（5領域・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿、スタートカリキュラム等）				
	・職員を見守り、園の経営者としての方向性を示している（それぞれの項目に対して）				
親育ち支援力に関する自己診断 ⑦在園児の保護者に対して子育てを支援する力（保護者への支援）	<b>必要に応じて関係機関と連携しながら、組織として保護者を支援できる体制を整える</b>				
	・保護者が気軽に相談や意見を述べることができる場や環境を整え、積極的に働きかけている				
	・適切な保護者理解ができ、一人一人の保護者に応じた関わりや支援ができています。またそのために必要な知識や技能を習得している				
	・保護者との信頼関係を築き、必要に応じて保護者と職員の仲立ちをする等、望ましい学級経営や園経営が実施できるようにしている				
	・職員の保護者対応の仕方を見守ったり、状況に応じて言葉を添える等して、指示・支援ができています				
	・機会を捉えて園の教育に関して保護者に説明する等し理解を促している				
	・要保護児童の保護者等に対して、関係機関との連携を密にし、必要に応じて協力して支援にあたり、面談や関係機関を紹介したりしている				
	・保護者同士がつながることの必要性について理解し、園経営に生かしている。また、具体的な企画・運営について指示・支援ができています				
	・保護者との信頼関係の構築に努め、子育てに対する相談や情報提供、保護者同士の交流の場を提供する等、子育て支援のセンター的な役割を担っている				
	・保護者からの提案について受け止め、解決法を見出し、よりよい環境や関係づくりをしている				
	・職員を見守り、園の経営者としての方向性を示している（それぞれの項目に対して）				
⑧地域の子育て家庭等を支援する力（地域における子育て支援）	<b>地域の実態を把握して園の子育て支援の充実に努める</b>				
	・園庭開放や体験保育等に参加した保護者に対して、親しみをもって応じ、安心して気持ちよく利用できているような雰囲気づくりができています				
	・地域の保護者が気軽に利用したり、相談したり、保護者同士が交流したりできる場を計画的に設定し、情報を発信している				
	・地域の子育て支援にあたって、専門機関と連携できる体制を整えている				
	・職員を見守り、園の経営者としての方向性を示している（それぞれの項目に対して）				
・職員が組織の一員としてそれぞれの立場で活躍しているか把握し、必要に応じて導いている（それぞれの項目に対して）					
・感染症防止対策等を踏まえた園行事等の在り方や、保護者・職員の連携体制を整えている					

資質・指導力	具体的な行動例	評価			評価理由等
		月 日	月 日	月 日	
⑨学級経営に関わる事務を的確に処理する力（学級経営）	各担当が自信をもって学級経営にあたるよう、体制を整える				
	・児童票や指導要録・保育要録、公文書等を確認し、適切に取り扱うことができている				
	・職員から出された書類について適切に処理されているか確認し、必要に応じて指導・助言ができている				
	・個人情報等の取扱い及び管理を適切に実施するとともに、職員への指導ができている				
	・保育所保育指針・幼稚園教育要領等に基づき、子どもや保護者、地域のニーズに沿った園経営ができている				
	・園運営について園評価等を適切に行う等して、園運営の改善を行っている				
	・施設の管理と改善を行っている				
	・組織の運営の管理と改革に努めている				
	・園の施設や設備、予算の執行や文書管理等を適切に行っている				
	・主任等の全項目を把握し、必要に応じて指導・助言している				
	・園の書類等の置き場所、保存年数等を明確にし管理している				
	・職員を見守り、園の経営者としての方向性を示している（それぞれの項目に対して）				
	・職員が組織の一員としてそれぞれの立場で活躍しているか把握し、必要に応じて導いている（それぞれの項目に対して）				
園の運営力・組織貢献力に関する自己診断	園の課題を踏まえて、園務分掌の改善を図る				
	・園の教育の方向性や課題を把握し、年度当初に園の経営方針を明確にしている				
	・園の教育の方向性や課題に基づき、次年度の園務を企画・立案している				
	・園務について進捗状況を把握し、必要に応じて主任等と共に指導・助言している				
	・全ての園務を把握し、適材適所に園務を分担し、適切に実行できる環境を整備している				
	・役割の明確化や園務分掌の配置を適切に行っている				
	・職員の資質・能力の向上のために、研修への参加体制を整えている				
	・職員の意見に耳を傾け、研究の推進や園目標の達成に向けて取り組んでいる				
	・職員の勤務時間や体調の管理ができている				
	・園の教育方針・教育目標について理解し、職員に具体的、実践的に徹底することができる				
	・園のニーズに応じた長期・短期の経営方針を企画立案し、重要度、緊急度、成果等を的確かつ総合的に判断し、園としての方針を決定することができる				
	・自園の伝統的な取組の継続と改革に努めている				
	・園経営のための特色ある予算編成を工夫している				
	・職員を見守り、園の経営者としての方向性を示している（それぞれの項目に対して）				
・職員が組織の一員としてそれぞれの立場で活躍しているか把握し、必要に応じて導いている（それぞれの項目に対して）					

シート2

〈管理職ステージ〉所長・園長

資質・指導力	具体的な行動例	評価			評価理由等
		月 日	月 日	月 日	
園の運営力・組織貢献力に関する自己診断 ①上司や同僚と協働して、円滑に園務を遂行できる力（職員間の連携）	<b>職員一人一人のよさを生かし、職員間の連携が深まる体制づくりに努める</b>				
	・職員一人一人の多様性やよさを認め、能力を生かし組織力を高めている				
	・職員の健康状態や心身のバランスに気を配り、安心できる職場環境を整えている				
	・職員とのコミュニケーションを積極的にとり、円滑な意思の疎通が図れている				
	・職員と信頼関係を築き、必要に応じて職員を支援し、園務を円滑に遂行している				
	・職員が研修で学んだことを報告する場を設定している				
	・職員を公正・公平に評価し、その評価に応じた適切な指導を行っている				
	・職員のやる気が出るような声掛けや指導をしている				
	・職員を信頼し、楽しく学び合い育ち合える職員集団づくりができています				
	・報告、連絡、相談を徹底している				
	・職員を見守り、園の経営者としての方向性を示している（それぞれの項目に対して）				
・職員が組織の一員としてそれぞれの立場で活躍しているか把握し、必要に応じて導いている（それぞれの項目に対して）					
危機管理に関する自己診断 ②子どもが安心して過ごすことができる施設や遊具等の安全な環境を整える力（安全管理）	<b>危険を予測し、危機管理のためのマニュアルを整備し、園内体制を確立する</b>				
	・危機を予測し、危機管理のためのマニュアルやガイドラインを整備し、園内体制を確立している				
	・専門家による保育室や園庭及び用具の安全点検についての計画の作成及び実施を行う				
	・自然災害発生時の園全体の安全性の確保、避難指示等自己の役割を確実に行うとともに、的確な指示、保護者や関係機関への連絡等、対応ができています				
	・不審者対策や交通安全対策について、職員・子ども等の個々の動きを確認しつつ、安全性の確保等を確実に確認するとともに、保護者や関係機関への連絡等、的確な対応ができています				
	・アレルギーや薬等、保健計画（マニュアル・ガイドライン）の作成、見直し、確認を実施している（与薬については、適正な管理がある）				
	・感染症予防対策等を考慮し、園全体を見通した清潔で子どもの動線に沿った環境構成を指導している				
	・子どもの心身の状態、体調、けが等子どもの変化について読み取り、必要な知識を有し、実践できている。保護者や関係機関への報告等、的確な連絡及び職員への指導ができています				
	・職員を見守り、園の経営者としての方向性を示している（それぞれの項目に対して）				
	・職員が組織の一員としてそれぞれの立場で活躍しているか把握し、必要に応じて導いている（それぞれの項目に対して）				



資質・指導力	具体的な行動例	評価			評価理由等
		月 日	月 日	月 日	
危機管理に関する自己診断 ⑬家庭や地域と連携し、子どもが危険から身を守り、安全に行動できるように指導する力（安全教育）	地域の実態に応じて子どもの安全教育や防災等について、職員や保護者と協働して取組を進める				
	・園内外での安全や命を守るためのきまり、及び安全と危険の違いや察知についての心構えを育てるという視点をもって、園全体の運営を行う				
	・災害や事故等の際に瞬時に行動できるような取組を、職員に指導すると共に、地域のカも借りる視点をもって運営を行っている				
	・保護者に対してお便りや保護者会等を通じて、計画的に防災・防犯に関する情報の提供や説明を行い、共通認識をもって子どもの命の安全のために取り組めるような園運営をしている				
	・職員を見守り、園の経営者としての方向性を示している（それぞれの項目に対して）				
	・職員が組織の一員としてそれぞれの立場で活躍しているか把握し、必要に応じて導いている（それぞれの項目に対して）				
保育者としての姿勢 ⑭保育者として自分の課題を発見し、自己研鑽していく力（自己研鑽）	一人一人の職員の自己研鑽の場を確保し、園全体の学び合う雰囲気をつくる				
	・職員が日々の保育を楽しんでいるか、常に状況を把握し、助言・支援をしている				
	・園の保育・運営方針・指導内容等を、職員や保護者、同業者に説明ができるとともに、説明ができる職員を育成している				
	・職員の資質の向上、キャリアアップを図るために、計画的に研修に参加させるとともに、園内での研修も計画的に行っている				
	・自らも常に向上心をもって、管理職としての研修に参加する等、職員の模範となるよう資質の向上に努めている				
	・職員を見守り、園の経営者としての方向性を示している（それぞれの項目に対して）				
	・職員が組織の一員としてそれぞれの立場で活躍しているか把握し、必要に応じて導いている（それぞれの項目に対して）				
⑮乳幼児期の発達や学びを踏まえた教材の研究をする力（教材研究）	園全体の教材に目を配り、必要に応じて指導・助言し、豊かな園環境をつくる				
	・職員が教材や遊具・用具についての研究や準備に取り組みやすいような環境をつくっている（時間の確保・予算等）				
	・園全体で全体的な計画・教育課程に沿った、職員の音楽や物作り等の技術が高まるような取組を促すとともに、必要に応じて指導・助言を行う				
	・職員を見守り、園の経営者としての方向性を示している（それぞれの項目に対して）				
	・職員が組織の一員としてそれぞれの立場で活躍しているか把握し、必要に応じて導いている（それぞれの項目に対して）				

### 【シート3】自己目標設定シート

年度		園名	
職名		氏名	

シート1、シート2のチェック内容に基づいて見えてきた成果（強み）と課題（弱み）、そこから次に向けた目標を書いてみましょう。

- ・成果は、発見した強みや、これまでの取組で伸び幅のあったものなど、特に記載しておきたい事柄に絞って書きましょう。
- ・課題は、評価しながら気付いたことや悩んだことを含めて、特に課題と感じた事柄に絞って書きましょう。
- ・目標は、年度末に達成したい大きな目標（第1回目）と、次回までに身に付けたい目標（2回目以降）とに分けて書きましょう。

No	実施日	成果 (実施して分かった強みや成長)	課題 (実施して分かった弱みや新たな課題)	次への目標
1				
2				
3				

## 【シート4】自己目標共有シート

面談	当初	中間	最終
年月日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
面談者			

園名		職名		ふりがな 氏 名	
----	--	----	--	-------------	--


No	目標の種類	目 標 何をどのように取り組み、 どのようにしたいか	中間確認 進捗状況と今後の取組方法等	最終確認 1年を振り返っての達成状況
	項 目			
1	シート1： 自己課題発見シート			
2	シート2： キャリアステージ			
3	その他			

本ガイドラインは、平成 28 年 12 月に作成した「高知県教育・保育の質向上ガイドライン」を改訂したものです。

**【高知県教育・保育の質の向上委員会委員】（平成 28 年 12 月）**

山下 文一（会長）	高知学園短期大学 准教授 高知県幼保支援スーパーバイザー・高知県親育ち支援スーパーバイザー 高知県幼保推進協議会 会長、保育・教育の質の向上部会 部会長
有田 尚美（副会長）	高知学園短期大学 准教授 高知県幼保支援スーパーバイザー
神長 美津子	國學院大學 教授
岡 健	大妻女子大学 教授
太田 光洋	和洋女子大学 副学長
岡崎 明子	高知県幼保推進協議会 保育・教育の質の向上部会 副部会長
野村 貞夫	高知県幼保推進協議会 保育・教育の質の向上部会 副部会長
岡村 美佐	高知県幼保推進協議会 特別支援教育部会 部会長
國澤 千陽	高知県幼保推進協議会 特別支援教育部会 副部会長
川村 光代	高知県幼保推進協議会 親育ち支援部会 部会長
西村 玉子	高知県幼保推進協議会 親育ち支援部会 副部会長

**【高知県幼保推進協議会委員】（令和 3 年度）**

（監修）神長 美津子	大阪総合保育大学 特任教授	
山下 文一（会長）	高知学園短期大学 副学長	
南 亜希	高知市代表・高知市春野平和保育園 園長	
水田 牧子	高知市代表・横浜保育園 園長	
海老川 悦子	室戸市代表・大谷保育所 所長	
竹内 由美	安芸市代表・川北保育所 所長	
山本 明美	南国市代表・あけぼの保育所 所長	
久保田 志摩	土佐市代表・愛聖保育園 園長	
多田 みどり	須崎市代表・浦ノ内保育園 園長	
岡野 恵子	宿毛市代表・地域子育て支援センター長	
岡野 眞知子	土佐清水市代表・下ノ加江・足摺岬保育園 園長	
黒石 志保	四万十市代表・古津賀保育所 所長	
門田 紀和（副会長）	香南市代表・野市東保育所 所長	
原 由美	香美市代表・新改保育園 園長	
大黒 直美	東洋町代表・銀杏保育園 園長	
伊藤 佐恵子	奈半利町代表・幼保連携型認定こども園なはり 園長	
仙頭 清	田野町代表・田野幼稚園 園長	
隅田 美予子	安田町代表・幼保連携型認定こども園安田さくら園 園長	
山崎 和美	北川村代表・みどり保育所 所長	
中屋 則子	馬路村代表・馬路保育所 所長	
小松 裕美	芸西村代表・芸西保育所 所長	
大西 利恵（副会長）	本山町代表・本山保育所 所長	
鎌倉 真紀	大豊町代表・大杉・大田口保育所 所長	
和田 千恵子	土佐町代表・みつば保育園 園長	
朝倉 紫珠	大川村代表・つぼみ保育園 主任	
吉門 美之み	いの町代表・幼保連携型認定こども園ごほく 園長	
谷合 めぐみ	仁淀川町代表・長者保育所 所長	
高橋 朝子	中土佐町代表・大野見保育所 所長	
中村 容子	佐川町代表・斗賀野中央保育園 園長	
須内 富	越知町代表・越知幼稚園 園長	
西村 玉子	梶原町代表・幼保連携型認定こども園梶原町立梶原こども園 園長	
正岡 美和	日高村代表・日下保育園 園長	
西村 芳美	津野町代表・幼保連携型認定こども園にじいろ園 園長	
林 絹	四万十町代表・昭和保育所 所長	
米沢 智香子	大月町代表・おおつき保育所 保育次長	
永野 愛	三原村代表・三原保育所 所長	
河野 佐代	黒潮町代表・大方中央保育所 所長	
野村 貞夫	高知県私立幼稚園連合会代表・あたご幼稚園 園長	
鎌倉 奈緒美	高知県認定こども園共励会代表・認定こども園芸術学園幼稚園 主任	



## 高知県教育・保育の質向上ガイドライン

(改訂版)

高知県教育委員会事務局幼保支援課

〒780-0850 高知県高知市丸ノ内一丁目7番52号

ホームページ

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/311601/>

【氏名】